稲山遺跡

いなやま

— 山梨リニア実験線建設工事に伴う発掘調査報告書 —

２０１１．３

山梨県教育委員会
鉄道建設・運輸施設整備支援機構

稲山遺跡のあらまし

稲山遺跡は、笛吹市八代町岡に所在し、甲府盆地の南縁に連なる曽根丘陵の東方に位置し、本遺跡東側の浅川、西側の四ッ沢川の両河川に挟まれた丘陵上の標高約 395 mに位置しています。

稲山遺跡周辺は、県指定史跡の岡・銚子塚古墳や、竜塚古墳等、数多くの古墳や、縄文時代の大規模集落である銚子原遺跡など、著名な遺跡が存在する地域であり、山梨県の歴史を考えていく上で、重要な地域の一つと知られています。

このような地理的・歴史的環境の中、山梨リニア実験線建設に伴い、本線部分の試掘調査が実施されました。

試掘調査の結果、写真の場所から、縄文時代や中世の遺構や遺物が見つかり、今回の本調査が行なわれました。

【調査の流れ】

①表土剥ぎ

②遺構確認

③遺構掘り下げ

④記録作業：写真撮影

⑤記録作業：図面測量

【縄文時代】

稲山遺跡の隣には、縄文時代の大集落である銚子原遺跡が存在しています。試掘調査結果でも、縄文時代の土器片が確認されました。

調査の結果、縄文時代中期初頭の住居跡、土坑、集石土坑４基等、遺物も該期の土器片や石鏃、打製石斧など確認されましたが、意外にも少ないことがわかりました。

縄文時代（前期末）の竪穴状遺構

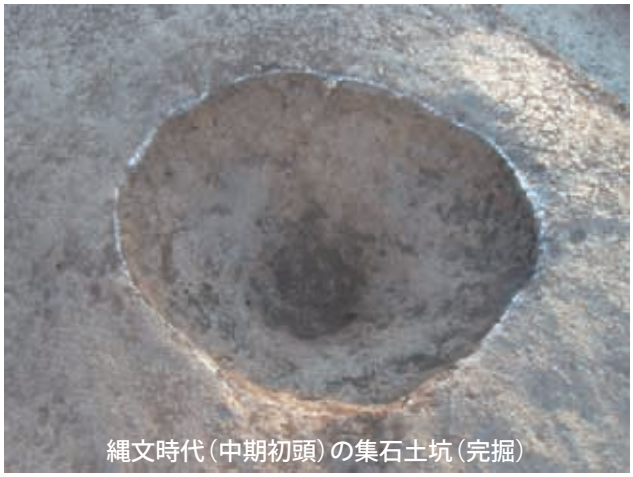
土器が集中していた箇所を、慎重に掘り下げていくと炉跡や壁が確認できました。

縄文時代の深鉢出土状況

縄文時代中期初頭の深鉢です。ほぼ、口縁部～底部まで残っていました。

縄文時代（中期初頭）
集石土坑（検出時）

拳大の石が円形の形で広がっていました。（石焼、蒸し焼きなどの跡です。）

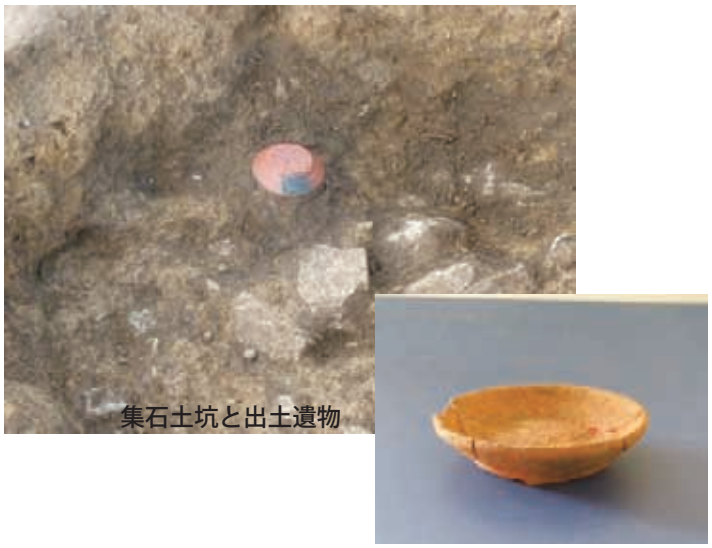

縄文時代（中期初頭）の集石土坑（完掘）

左の集石土坑の、石を取り除いた状況です。石は火を受け、脆くなっていました。

このように、稲山遺跡の縄文時代について簡単に触れてみましたが、前述したように意外に縄文時代の遺構や遺物が少ないことに驚きました。
隣の銚子原遺跡とも若干の時期差もありますが、西側の四ッ沢川の存在に何か意味がありそうです。

【中世】

調査の結果、縄文時代とは反対に中世の遺構が多いことがわかりました。遺構は、地下式坑、土坑、ピット、集石土坑、溝状遺構が確認されています。



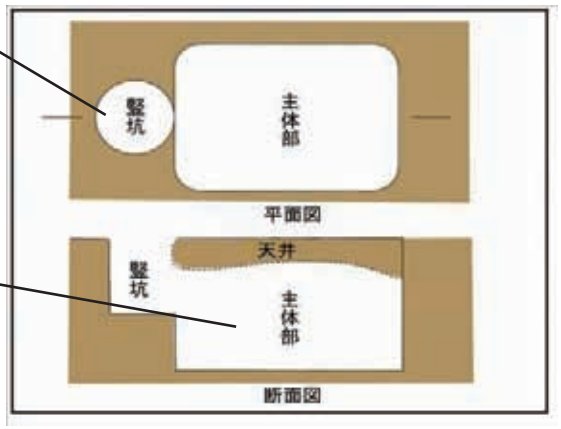
集石土坑と出土遺物

溝状遺構

出土した北宋銭

常滑甕口縁部分

検出された地下式土坑



稲山遺跡における、縄文時代は調査区の一部分に集中している状況でしたが、中世（14～16世紀）については、調査区全域から地下式坑やピットなどの遺構が検出されています。

これについては、周辺の小字名を調べてみると、調査区西側に「於屋敷」、南西側に「妙前屋敷」という地名が確認できます。なにやら、稲山遺跡の調査結果と、何らか結びつく様な感じがします。

県内の調査事例から地下式坑ついて中世の館跡、城跡、屋敷跡の周辺からよく検出されています。

このことからも、稲山遺跡の周辺には、屋敷跡等が存在している可能性があります。

【整理作業】

発掘調査も終了し、発掘調査で出土した土器や石器の実測図や、発掘調査で記録した図面や写真を整理して、報告書を作成していきます。とっても細かい作業です。

遺物洗浄

遺物注記作業

土器復元作業

遺物実測作業

図面トレース作業

発掘調査も終了し、発掘調査で出土した土器や石器の実測図や、発掘調査で記録した図面や写真を整理して、報告書を作成していきます。とっても細かい作業なのです。

調査の結果、縄文時代の住居跡、土坑、集石土坑、また中世の溝状遺構、地下式坑、集石土坑、ピット等の遺構が検出され、それに伴って土器や石器、古銭が出土しました。

このように、検出された遺構や、出土した遺物をみると、どうも稲山遺跡は中世主体の遺跡であるようです。

はじめのほうでふれたように、稲山遺跡周辺では、縄文時代の大集落の銚子原遺跡や、岡・銚子塚古墳が存在しており、該期の集落の存在等が推定されたのですが、周辺部の遺跡分布を見ても中・近世の遺跡は数が少ない状況です。

今回の稲山遺跡の調査により、稲山遺跡の周辺の歴史環境を考える上で貴重な発見となりました。

序　文

本書は、山梨リニア実験線建設事業に伴い、平成20年6月～11月にかけて発掘調査した山梨県笛吹市八代町岡に所在する稲山遺跡について、その発掘調査成果をまとめた報告書です。

本遺跡は、平成19年度に山梨リニア実験線の本線部分について試掘調査が行われその結果、周知の埋蔵文化財包蔵地の他に、新たに3箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認され、本遺跡はその内の遺跡の一つです。

本遺跡は、背後の御坂山塊北斜面の山地から甲府盆地に張り出している丘陵の一支丘に位置し、この丘陵は、甲府盆地の南縁を西八代郡市川三郷町の東部から笛吹市境川町のほぼ中央あたりまで連なる曽根丘陵の更に東側に続く丘陵の一つで、本遺跡東側の浅川、西側の四ッ沢川の両河川の深い谷に挟まれた丘陵上、標高約395 mに立地しています。

四ッ沢川の西側の丘陵上には、県指定史跡「岡・銚子塚古墳」や縄文時代中期の拠点的集落である銚子原遺跡等、縄文時代～中世まで幅広く分布している遺跡の密集地帯であります。

調査の結果、中期初頭の住居跡1軒、竪穴状遺構5基、溝状遺構11条、土坑38基、集石土坑5基、地下式坑5基、ピット238基が確認されています。

その中で、注目されるものに、旧石器時代の尖頭器があげられます。近畿・備讃瀬戸地域に分布する瀬戸内技法により剥離された翼状剥片の特徴を有するもので、周縁加工された尖頭器であります。その特徴から、武蔵野台地Ⅳ層下部、Ⅴ層相当の段階（約24,000年前）とされ、これまで山梨県内では瀬戸内技法関連の資料は出土していません。大変貴重な資料であります。

また、遺構として、中世の地下式坑があります。稲山遺跡では5基が確認されましたが、これまでの調査から本遺跡周辺での確認はされてはおりません。また、今回の調査ではピット群や確認された溝状遺構の中に、中世の館跡を取り巻く堀跡のような溝状遺構も見られます。

前述したように本丘陵上には縄文時代や古墳時代の遺構や遺物は、数多く見つかっています。

今回の稲山遺跡の発掘調査により、中世の遺構や遺物が発見できたことは地域の歴史を明らかにすることは有意義であると思います。その意味において、今後ともこの報告書が活用されることを願っております。

末筆となりましたが、ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査に当たられた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

2011年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　小野　正文

例　　言

1・本書は山梨県笛吹市八代町岡字稲山 1903 ‐ 2 外に所在する稲山遺跡の発掘調査報告書である。

2・調査は、山梨リニア実験線建設に伴うものであり、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を山梨県教育委員会が受け、発掘調査、整理作業、報告書作成を山梨県埋蔵文化財センターが実施した。

3・発掘調査は、2008（平成 20）年 6 月 12 日から着手し、12 月 11 日に終了、基礎的整理は 2009（平成 21）年 1 月 7 日から 3 月 18 日、本格的整理は、2009（平成 21）年 12 月 1 日から 2010（平成 22）年 3 月 19 日まで実施し、2010（平成 22）年度において報告書作成をおこなった。

4・本書の編集は高野玄明が行なった。本書の執筆は第 4 章第 1 節を県立考古博物館保坂康夫学芸課長が行い、それ以外は高野が行なった。なお、第 5 章の自然化学分析（地下式坑の自然科学分析）については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その報告原稿を第 5 章に掲載した。

5・本書に掲載した発掘現場での写真は、高野玄明、小澤美和子、遺物写真については、高野玄明が撮影した。

6・発掘調査に係る世界測地系に基づく測量、グリッド杭設定、基準標高杭設置は、株式会社一瀬調査設計に委託した。

7・本書に掲載した遺跡空中写真は、株式会社東京航業研究所に委託し撮影した。

8・旧石器時代の石器の実測・トレース及び原稿執筆は、県立考古博物館保坂康夫学芸課長に依頼した。
また、縄文時代の石器石材同定もお願いした。

9・本書にかかわる出土品及び記録図面、写真、デジタル化したデータ等は一括して、埋蔵文化財センターに保管している。

10・発掘調査及び報告書作成にあたって下記の方々にご協力を頂いた。記して謝意を表したい。
笛吹市教育委員会、笛吹市建設部土木課リニア対策担当、笛吹市建設部まちづくり整備課公園管理担当、笛吹市八代町岡地区区長、小林　肇

凡　　例

1・掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。
［遺構全体図］　遺跡位置図　1/25,000　グリッド配置図　1/1,000　遺跡全体図　1/600
［遺構微細図］　平面図　1/20・1/30・1/40・1/60　　断面図・土層図　1/20・1/30・1/60

2・遺物実測図・拓本の縮尺は次の通りである。
土器・陶磁器・石器・鉄製品　1/3　　石鏃・古銭・小型石器　1/2・1/1
須恵器・陶磁器の実測図の断面は黒色を施す。

3・SP・EP 脇にある数値は標高を示す。

4・遺構図・全体図などに示した方位（N）は国土座標による真北である。

5・表内の（　）内の数値は推定値である。

目　次

序

稲山遺跡のあらまし

目次

例言・凡例

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1

第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1

第２節　調査組織 …… 1

第２章　遺跡の環境 …… 2

第１節　地理的環境 …… 2

第２節　歴史的環境 …… 2

第３章　調査方法と基本層序 …… 5

第１節　調査の方法 …… 5

第２節　基本層序 …… 5

第４章　確認された遺構と遺物 …… 8

第１節　旧石器時代 …… 8

第２節　縄文時代以降 …… 9

第１項 遺構 …… 9

（１）住居跡 …… 9

（２）竪穴状遺構 …… 9

（３）溝状遺構 …… 10

（４）土　坑 …… 13

（５）地下式坑 …… 13

（６）集石土坑 …… 15

（７）集　石 …… 16

（８）ピット …… 16

第２項　遺　物 …… 16

第５章　稲山遺跡の地下式坑の自然化学分析 …… 18

第６章　まとめ …… 77

図　版　目　次

第１図　稲山遺跡の位置と周辺の遺跡
第２図　稲山遺跡グリッド配置図
第３図　稲山遺跡全体図（1/600）
第４図　旧石器時代の遺物
第５図　第１号住居跡、第 21・22・29・30・33 号土坑
第３・４号集石土坑ポイント、ピット群
第６図　第１・５号竪穴状遺構、ピット群
第７図　第２～４号竪穴状遺構、第 11 号溝状遺構
ピット群
第８図　第１号溝状遺構、第１号土坑、
第１号集石ポイント設定図
第９図　第２・３号溝状遺構（その①）、ピット群
第 10 図　第２・３号溝状遺構（その②）、ピット群
第 11 図　第２・３号溝状遺構（その③）、第 13 号土坑
第１号集石土坑ポイント設定図、ピット群
第 12 図　第４・５号溝状遺構（その①）、ピット群
第 13 図　第５号溝状遺構（その②）、第 15 号土坑
ピット群
第 14 図　第６号溝状遺構、第 25 号土坑、ピット群
第 15 図　第７号溝状遺構、第 16 ～ 20 号土坑、ピット群
第 16 図　第８号溝状遺構（その①）、第 10 号溝状遺構
ピット群
第 17 図　第８号溝状遺構（その②）、第 23･24･32 号土 坑、
ピット群
第 18 図　第２・11・12 号土坑、ピット群
第 19 図　第３～７号土坑
第 20 図　第９号溝状遺構、第３号土坑、第４号地下式坑
第 21 図　第１・第２号地下式坑
第 22 図　第３号地下式坑、第 24・32 号土坑
第８号溝状遺構
第 23 図　第 27・28 号土坑、２号集石土坑ポイント設
定図、ピット群
第 24 図　第 34 ～ 39 号土坑、ピット群
第 25 図　第５号地下式坑、ピット群
第 26 図　第１号集石土坑
第 27 図　第２・４・５号集石土坑
第 28 図　第３号集石土坑
第 29 図　第１号集石
第 30 図　ピット群
第 31 図　出土遺物（その１）
第 32 図　出土遺物（その２）
第 33 図　出土遺物（その３）
第 34 図　出土遺物（その４）
第 35 図　出土遺物（その５）
第 36 図　出土遺物（その６）
第 37 図　出土遺物（その７）
第 38 図　出土遺物（その８）
第 39 図　出土遺物（その９）
第 40 図　出土遺物（その 10）
第 41 図　出土遺物（その 11）
第 42 図　出土遺物（その 12）・石器
第 43 図　出土遺物（その 13）・石器・石製品
第 44 図　出土遺物（その 14）・石器
第 45 図　出土遺物（その 15）その他の遺物
第 46 図　出土遺物（その 16）古銭

写　真　図　版　目　次

写真図版１　全体写真（合成）、調査区東側（空中写真）、
調査区西側（空中写真）、１号住居跡、５号
方形竪穴状遺構
写真図版２　１号住居跡遺物出土状況１・２、２号集石土坑
検出状況、２号集石土坑完掘、３号集石土坑検
出状況、〃（底部）、〃（完掘）、
写真図版３　４号集石土坑検出状況、〃　完掘状況、１号方
形竪穴状遺構完掘、２～４号方形竪穴状遺構完
掘 /11 号溝状遺構完掘、１号集石検出状況、１
号集石常滑片出土状況、１号地下式坑、１号地
下式坑（地下室内部工具痕）
写真図版４　２号地下式坑、〃（竪坑）、〃（地下室内部工具
痕）、３号地下式坑、４号地下式坑、５号地下
式坑、〃（地下室内部状況）
写真図版５　１号溝状遺構、２号溝状遺構とピット群、６号
溝状遺構、〃 土層堆積状況、８号溝状遺構、９
号溝状遺構、〃 出土土師質土器
写真図版６　旧石器：尖頭器、１号住居跡出土遺物１・２、
写真図版７　１号住居跡出土遺物３・4・5、５号方形竪穴状
遺構出土遺物、稲山遺跡出土石器（磨石）、（石
匙）、（打製石斧）、（石鏃）
写真図版８　９号溝状遺構土師質土器（外面・内面）、１号
集石土坑出土遺物、２号地下式坑出土遺物、遺
構外出土遺物１、〃 ２、２号溝状遺構出土遺物
（鎌）、９号土坑出土古銭（北宋銭）

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯と経過

稲山遺跡は、笛吹市八代町岡に所在する山梨リニア実験線建設の本線部分の試掘調査により、新たに確認された遺跡である。

これについて、平成 19（2007）年 7 月～ 8 月にリニア実験線の笛吹市境川町の起点部と変電所建設地域、9 月～ 12 月に笛吹市八代町・御坂町の約 6.5㎞に及ぶ本線部分の試掘調査（未買地やトンネル部分を除く）が実施され、この結果、周知の遺跡 4 箇所、新たに確認された遺跡が 3 箇所となり、本発掘調査の対象となった。

試掘調査において新たに確認された遺跡の中に、縄文時代の土器や石器、古墳時代の土器、中・近世の土器が検出された今回の稲山遺跡が含まれ、山梨県教育委員会と鉄道建設・運輸施設整備支援機構の協議において翌平成 20 年度に本発掘調査を行うことになり、試掘調査により確認された他の遺跡についても協議を行う中で、平成 20・21 年度で発掘調査を実施することとなった。

前述したように、稲山遺跡は縄文時代、古墳時代、中・近世の遺跡として、3,800㎡が調査対象地となり、平成 20 年 6 月 12 日の表土剥ぎから、同年 12 月 11 日の埋め戻しをもって発掘調査を終了している。

稲山遺跡の試掘調査、並びに本発掘調査に関わる文化財保護法の諸手続は以下のとおりである。

平成 19 年（2007）12 月 28 日	文化財保護法第 100 条第 2 項による埋蔵文化財の発見届けを、山梨県教育委員会に提出し、笛吹警察署への通知を依頼。
平成 20 年（2008）2 月 15 日	試掘調査の結果に基づき「稲山遺跡」として文化財保護法第 97 条第 1 項による遺跡の発見届けを山梨県教育委員会教育長に提出。
平成 20 年（2008）6 月 12 日	文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の報告を、山梨県教育委員会教育長に提出。
平成 20 年（2008）12 月 10 日	文化財保護法第 100 条第 2 項による埋蔵文化財の発見届けを、山梨県教育委員会に提出し、笛吹警察署への通知の依頼。
平成 21 年（2009）1 月 14 日	発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出。
平成 21 年（2009）3 月 5 日	発掘調査の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出。

第２節　調査組織

調査主体：山梨県教育委員会

調査機関：山梨県埋蔵文化財センター

○平成 19 年度（2007）　試掘調査

調査担当者：田口明子、正木季洋

発掘作業員：小菅春江、佐藤武光、宮川勝男、村田勝利、岡 日出人、深沢和樹、宮久保あさの、千野富子、相澤淑美、宮下真樹子、中澤　保、石井弘文、金丸恵美、鮫田勝夫

○平成 20 年度（2008）　発掘調査

調査担当者：高野玄明、小澤美和子

発掘作業員：内田健嗣、池田武子、石川千年、大久保一吉、大越すず子、河西町男、神田久美子、小菅春江、瀬谷一生、田中健二、筒井 聡、中川美治、中川博子、中込　榊、平賀早苗、藤原さつき、藤巻敏弥、古郡フミ子、宮川菊江、望月 明、望月和佳子

整理作業員：小菅春江、佐野眞雪、望月和佳子

○平成 21 年度（2009）本格的整理作業

調査担当者：高野玄明、小林万里子

整理作業員：土井みさほ、宮下真樹子、小菅春江、飯室恵子

○平成 22 年度（2010）本格的整理作業
調査担当者：高野玄明

第２章　遺跡の環境（第１図）

第１節　地理的環境

笛吹市は甲府盆地の中央部やや東寄りの甲府盆地の南縁に連なる曽根丘陵の東方に位置する。奥秩父山系の一つである標高 2,475 mの甲武信ヶ岳に源流を発し、南巨摩郡富士川町で釜無川と合流して富士川となる笛吹川の中流域を占めている。笛吹市の地形ついて、市の南東側は御坂山塊北斜面の山地や丘陵、笛吹川の支流である狐川、浅川、金川、日川等、また、日川に流入する大石川、京戸川等の河川がそれぞれ形成した扇状地が広がり、市の北側では大蔵経寺山や兜山等をはじめとする秩父山系の山々等から運ばれてきた土砂が笛吹川や平等川により拡散され、形成された沖積地が広がっている。

稲山遺跡は、背後の御坂山塊北斜面の山地から甲府盆地に張り出している丘陵の一支丘に位置し、この丘陵は、甲府盆地の南縁を西八代郡市川三郷町の東部から笛吹市境川町のほぼ中央あたりまで連なる曽根丘陵の更に東側に続く丘陵の一つで、本遺跡東側の浅川、西側の四ッ沢川の両河川の深い谷に挟まれた丘陵上、標高約 395 m に立地している。

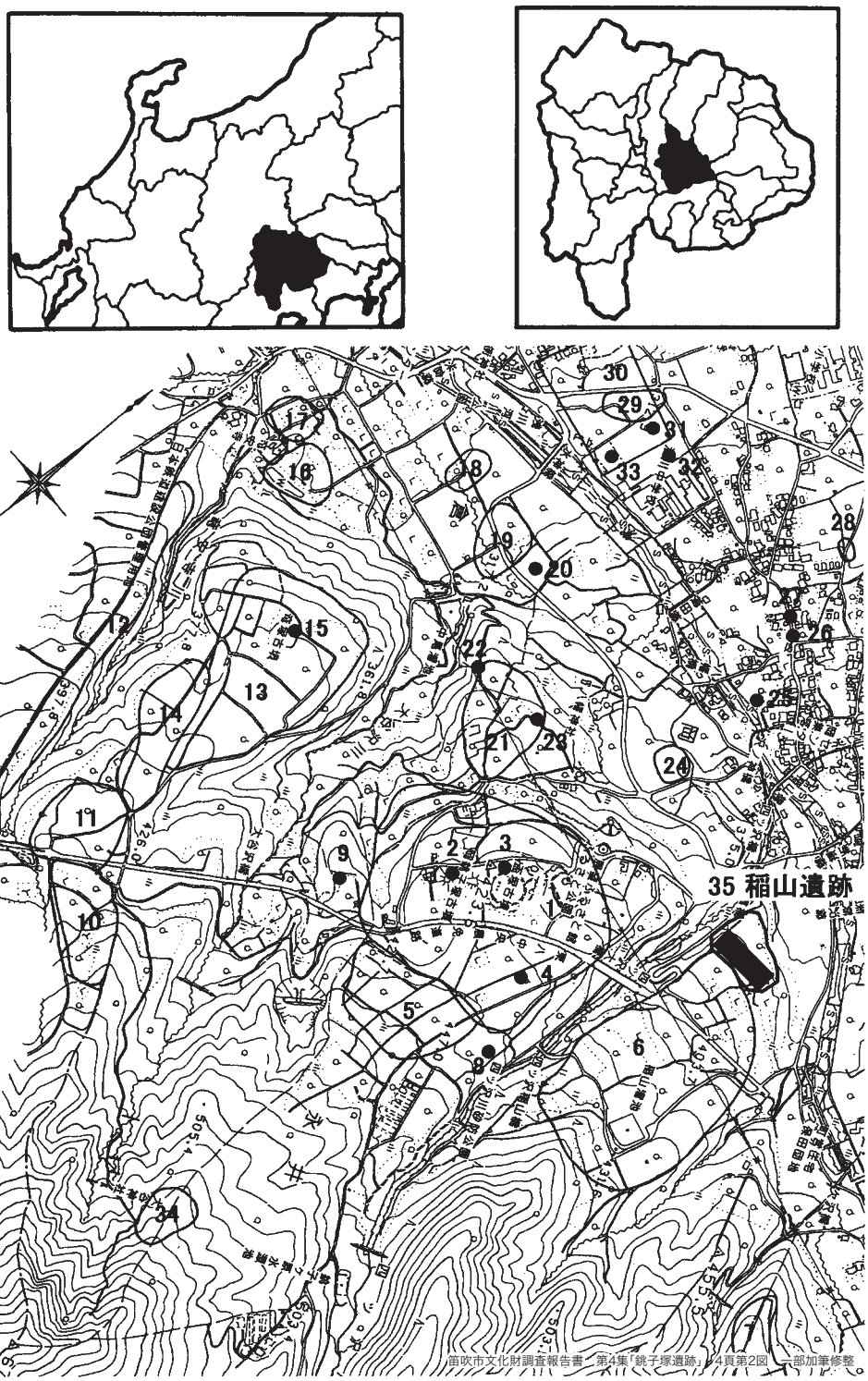
第２節　歴史的環境

笛吹市は、旧東八代郡下の石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、東山梨郡下の春日居町が合併して誕生した市である。これらの町村は、県内でも有数の遺跡の集中地域であり、周知されている遺跡の数でも八ヶ岳南麓に位置する北杜市に次いで２番目に遺跡や史跡の数が多い市である。

その中でも、特に稲山遺跡が所在する地域は前述した曽根丘陵の一支丘に位置しており、この曽根丘陵上には旧石器～中世に至る遺跡の宝庫として古くから知られている。これをふまえ、稲山遺跡周辺に所在する主な遺跡についてふれてみたい。

稲山遺跡（35）は、第Ⅰ章第１節で述べたように、平成 19 年度に行われたリニア実験線建設に伴う試掘調査により新たに確認された遺跡で、甲府盆地を望む緩やかな丘陵上の北斜面に位置し、周辺はモモやブドウの果樹地帯に囲まれている。周辺の主な遺跡については、後述するが縄文・古墳・中世の遺跡が集中する地域であり、試掘調査前から遺跡の存在は考えられていた。これについては、農作業中に畑が陥没する事例から、地下式坑の存在や、耕作中に土器片が見られるなどの話が伺えた。今回の調査の結果から、縄文時代中期初頭の住居跡１軒、集石土坑５基や土坑等、また中世の地下式坑５基や溝 11 条、ピット等の遺構、また、それに伴う遺物も検出されるなど、周辺の遺跡の状況とは、異なる状況が見られ、本遺跡が想定よりも中世主体の遺跡であることが調査結果からいえる。周辺の歴史的環境を考える上でも、重要な遺跡である。

稲山遺跡のすぐ西側の四ッ沢川が形成する深い沢を挟んだ丘陵上には、銚子原遺跡（１）が存在する。古くから縄文時代前期～中期にかけての遺物が濃密に散布していることが知られており、これまで「ふるさと公園」整備事業や町道拡幅等、過去４回の発掘調査が行われている。この結果、縄文時代前期末～中期末の大集落が確認され、さらには、旧石器時代の切出形石器が出土するなど、該期の遺跡の存在も示唆させるものである。稲山原遺跡（5）においては、銚子原遺跡の南側に見られ、発掘調査は行われていないが、主に縄文時代中期の遺物が散布している。岡・銚子塚古墳（2）は県指定史跡となっており、平成３（1991）年～平成５（1993）年にかけて史跡整備に伴う発掘調査が行われ、４世紀後半に築造された全長 92 mの前方後円墳であることが確認され、笛吹市内で最も古い古墳である。また、隣接する盃塚古墳（3）は、笛吹市の市指定史跡で、平成４（1992）年から平成５（1993）年にかけて史跡整備に伴う発掘調査が行われ、５世紀代に築造された直径 23 mの円墳であることが確認されている。このほかにも、いくつか古墳が存在しているが、詳細は不明である。稲山遺跡の南隣の大覚林遺跡（6）がある。未調査ではあるが縄文時代中期の遺跡としており、稲山遺跡との関連性を考えてい



No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	銚子原遺跡	旧石器・縄文(前・中)・古墳・平安・中世	13	上ノ平A遺跡	縄文(早・前・中)・弥生・古墳・奈良・平安	25	無名古墳	古墳
2	岡・銚子塚古墳	古墳	14	上ノ平B遺跡	縄文(中)・古墳	26	無名古墳	古墳
3	茶塚古墳	古墳	15	亀塚古墳	古墳	27	蝋燭塚古墳	古墳
4	無名古墳	古墳	16	金山遺跡	縄文・弥生・古墳	28	沢添遺跡	平安・近世
5	稲山原遺跡	縄文(中)・中世	17	花田遺跡	古墳・近世	29	土井原遺跡	
6	大覚林遺跡	縄文(中)・中世	18	大仏塚遺跡	古墳・平安・近世	30	米倉氏館跡	中世
7	欠沢遺跡	縄文(中)	19	夜長遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	31	無名古墳	古墳
8	無名古墳	古墳	20	大仏塚古墳	古墳	32	石塚古墳	古墳
9	無名古墳	古墳	21	八幡遺跡	縄文(中)	33	無名墳	古墳
10	真福寺遺跡	縄文	22	鳥崎古墳	古墳	34	大谷沢B遺跡	縄文・弥生・古墳
11	大沢谷A遺跡	縄文(中)・古墳・平安	23	無名古墳	古墳	35	稲山遺跡	縄文(前・中)・中
12	亀安寺川西遺跡	縄文・古墳	24	岡遺跡	弥生(前)			

第1図　稲山遺跡の位置と周辺の環境

く上で、今後の調査が期待される。本丘陵上の更に西側には大谷沢川と竜安寺川に挟まれた丘陵上にも上ノ平A遺跡（13）、上ノ平B遺跡（14）、真福寺遺跡（10）、竜塚古墳（15）など濃密に分布している。上ノ平A遺跡（13）は、昭和59（1984）年に農道拡幅等の工事により発掘調査が行われ、縄文時代中期の住居跡や土坑、ピット、弥生時代の住居跡、平安時代の土坑等が検出されている。大谷沢A遺跡（11）と真福寺遺跡（10）は、平成5（1993）年に「みやさか道」建設工事に伴って発掘調査を行っている。発掘調査当時は、合併前で八代町・境川村の両教育委員会において発掘調査を実施しているが、本来、両遺跡は同一遺跡としている。両教育委員会における調査結果も、同一の平安時代の溝跡が検出されている。竜塚古墳（15）は県指定史跡となっており、平成13（2001）年から平成16（2004）年にかけて、古墳の保存整備を前提とし、基礎的資料を得ることを目的とした発掘調査を行い、5世紀前葉に築造された一辺の長さが55 mから56 mの方墳であることが確認されている。竜安寺川を挟んださらに西側には、平成20（2008）年にリニア変電所建設に伴って発掘調査が実施されている竜安寺川西遺跡（12）があり、その結果、縄文時代前期末・中期中葉、弥生時代後期の住居跡や、古墳1基（周溝のみ）等が確認されている。

このように、本遺跡が所在する丘陵やその西隣の谷に挟まれた丘陵上には、縄文時代の拠点的な集落をはじめ、丘陵上にみられる弥生時代の集落、古墳時代前期・中期の古墳など多数存在しており、この地域が山梨県の歴史を解明する上で欠くことのできない重要な遺跡が多数集中する地域である。

引用・参考文献

笛吹市教育委員会　2006 『銚子原遺跡』

第３章　調査の方法と基本層序

第１節　調査方法（第２図）

本遺跡は、平成 19 年度に実施した試掘調査結果に基づき、遺構や遺物が確認されたリニア本線部分について、本調査を実施することとなった。

本調査区域は、農道が調査区内を横断しており、便宜上、１区～４区に分けておこなった。また、発掘調査の実施により、農道から果樹畑への出入りが不可能になってしまう箇所については、協議の結果、調査区内に果樹畑への出入り口及び進入路の確保が、必要となることから、掘削は行なわないこととした。

発掘調査は、リニア本線部分の幅 24.0 ～ 27.0 m、長さ 124.0 mが稲山遺跡の調査対象地となるが、廃土置き場の都合上、２回に分けて表土剥ぎを行なった。

グリッドの設定については、世界測地系の座標にあわせた５m四方のメッシュで調査区全域に設定し、グリッド名称については、南北方向を北から南にＡ～Ｇ、東西方向は東から西に１～ 26 とし、Ａ‐３グリッド杭は、X=－ 44020、Y=13590、Ｇ‐26 グリッド杭が、X=－ 44050、Y=13475 となる。

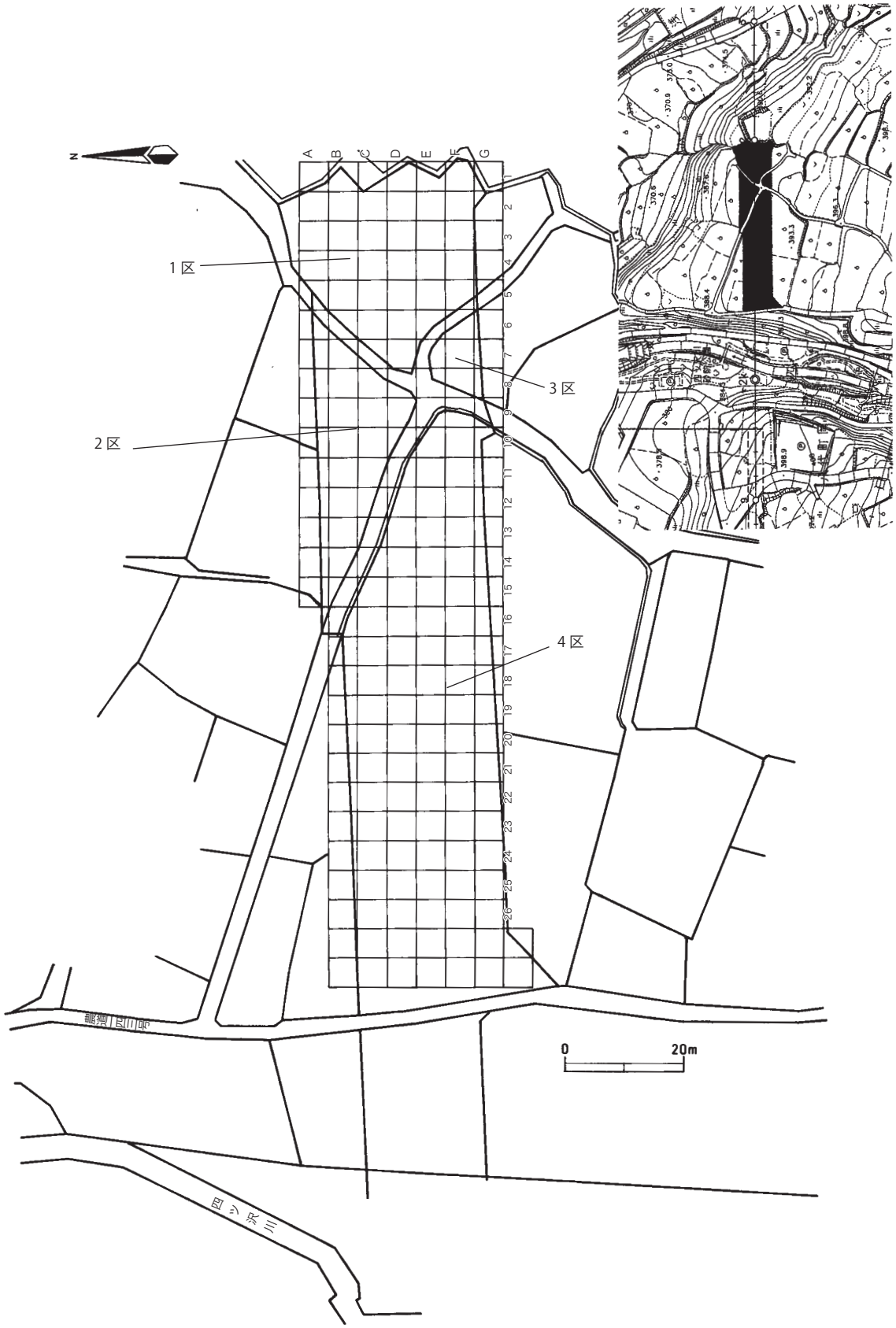
発掘調査については、調査区の東側から行ない、試掘調査のデータを元に、表土については、重機により遺構や遺物、遺物包含層直上まで除去し、それ以降については、人力により精査を行ないながら遺構、遺物の確認と検出に努めた。各遺構については、平面プランを確認後、土層確認用のベルト等を設定しながら掘り下げを行なった。遺物包含層においては、各グリッド毎に土層確認用のベルトを設定しながら掘り下げを行ない、遺構の確認に努めた。

第２節　基本層序

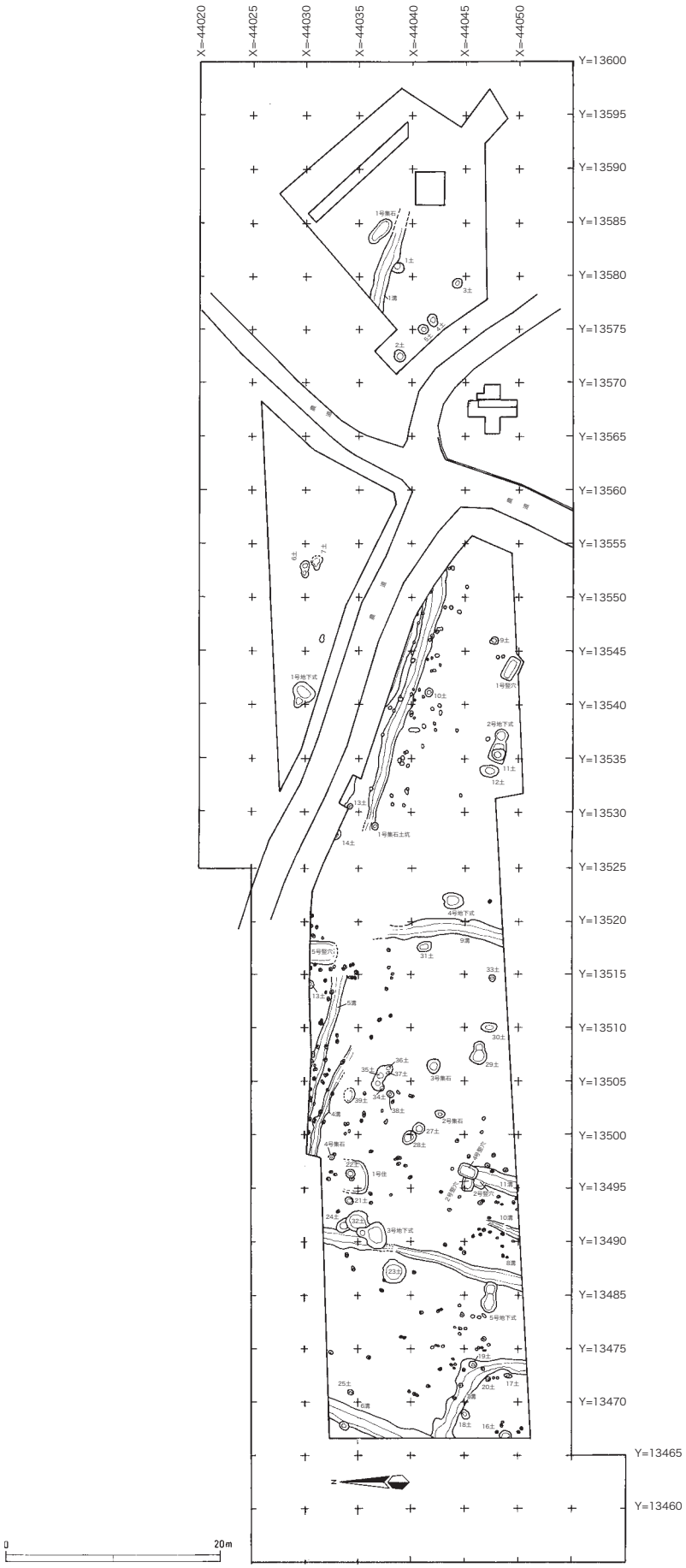
稲山遺跡で確認された土層の堆積は、東側１区と西側４区とでは様相が異なる。東側１区では水田による耕作を行なっていた状況が見て取れ、1 層＝耕作土（表土）黒褐色粘質土、(0.1 m)、2 層＝暗褐色粘質土（0.2 m）、3 層＝褐色粘質土が見られ、4 層＝褐色土：しまり・粘性強い。と、5 層＝褐色土：しまり、粘性強い。鉄分含む。このうちの、3 層が東側１区における遺構確認面である。

西側４区については、主に畑地で１層＝耕作土（表土）（0.2 m）黒褐色粘質土、2 層＝暗褐色土（一部包含層）（0.4 m）、3 層＝褐色土（0.3 m）、4 層＝暗褐色土（0.4 m）で、5 層＝黄褐色粘質土で地山となる。

この様に、西側４区の一部に２層目で遺物包含層（中世）が見られるが、基本的に４層下部の黄褐色粘質土を遺構確認面として調査を行なうこととした。このため、遺構確認など最大で 1.3 m程度を重機により除去することとなった。



第2図　稲山遺跡グリッド配置図


X=44020
X=44025
X=44030
X=44035
X=44040
X=44045
X=44050
Y=13600
Y=13595
Y=13590
Y=13585
Y=13580
Y=13575
Y=13570
Y=13565
Y=13560
Y=13555
Y=13550
Y=13545
Y=13540
Y=13535
Y=13530
Y=13525
Y=13520
Y=13515
Y=13510
Y=13505
Y=13500
Y=13495
Y=13490
Y=13485
Y=13475
Y=13470
Y=13465
Y=13460
1号集石
1土
1溝
3土
2土
6土
7土
1号地下式
9土
1号竪穴
10土
2号地下式
11土
12土
13土
1号集石土坑
14土
4号地下式
9溝
31土
33土
5号竪穴
15土
5溝
30土
29土
36土
35土
37土
3号集石
39土
34土
38土
4溝
2号集石
27土
28土
4号集石
22土
1号住
3号竪穴
2号竪穴
11溝
21土
10溝
24土
32土
3号地下式
8溝
23土
5号地下式
19土
25土
20土
17土
6溝
18土
16土
N
0
20m

第3図　稲山遺跡全体図

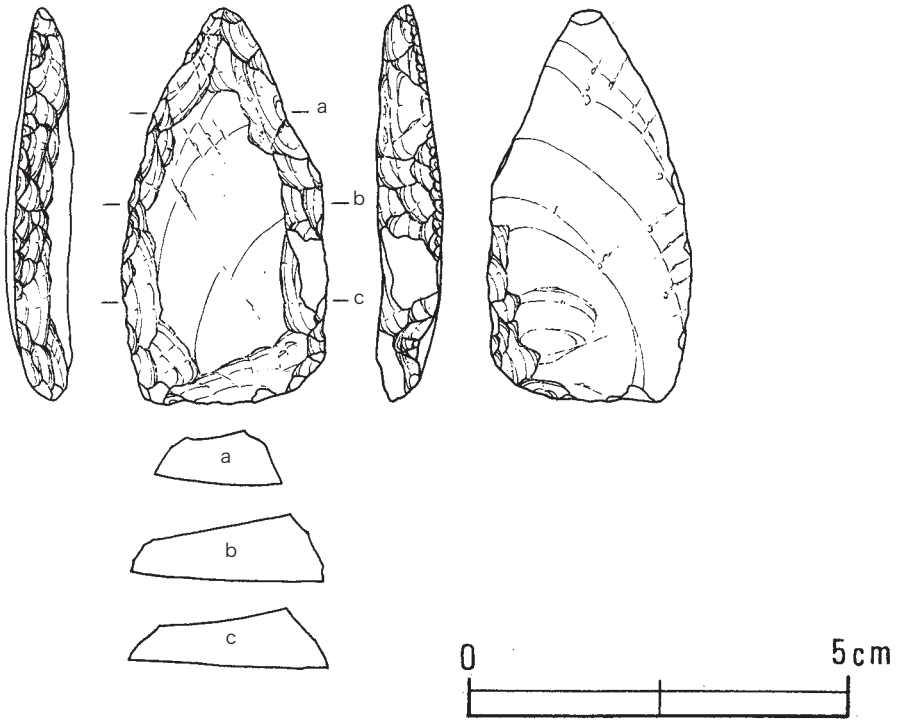
第４章　確認された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

○遺物

第７号溝出土。周縁加工の尖頭器である。茶褐色に風化した安山岩を石材とする。素材は、横長剥片である。素材剥離面は、主要剥離面と背面中央に大きく残る１枚の剥離面の２枚のみであるが、石核の横長の剥離作業面をいっぱいに使って剥離作業を行っている点、打面中央を打撃し直線的に打点を後退させている点が観察でき、近畿・備讃瀬戸地域に分布する瀬戸内技法により剥離された翼状剥片の特徴と近似する。翼状剥片には、石核素材となった盤状剥片の主要剥離面が、片側縁に残存するのが通例であるが、本資料ではその部分にあたる正面左側縁全体に二次加工がなされており存否が不明であるものの、除去されている可能性が高い。基部は折れ面であるが、二次加工は折れ面に及んでおり、折れ面のある状態で石器素材としていることが分かる。二次加工は尖端側両縁に施され、主要剥離面側からの急角度の剥離で、加工縁には微細剥離が連続する、いわゆる刃潰し加工である。腹面には素材打面付近のみに平坦な浅い加工がなされており、刃潰し加工に切られている。最大長 5.3㎝、最大幅 2.7㎝、最大厚 0.9㎝を測り、重さ 15.0 ｇ。

以上の特徴から、本石器は武蔵野台地Ⅳ層下部・Ⅴ層相当の段階のもの（約２万４千年前頃）と思われる。石材である茶褐色に風化した安山岩は関東近県に見られるものであり、近隣で製作された可能性が高い。県内には瀬戸内技法関連の資料はこれまでにないが、横長剥片を使用した同様な形態の黒曜石製の周縁加工尖頭器が１点だけ釈迦堂遺跡群塚越Ａ地区にある。



第４図　旧石器時代出土遺物（Ｓ=1/1）

第２節　縄文時代以降

第１項　遺構

（１）住居跡

本遺跡から確認された住居跡は４区からの１軒で、縄文時代に属する。しかし、遺構が調査区外に延びるなど、完全な形での検出はなく遺構の残存状況は余りよくなかったものの、遺物の出土量は相当数にのぼる。

○第１号住居跡（第５図、第 31 ～ 37 図）

〔**位置**〕C・D － 21・22 グリッドに位置する。当初、住居跡と確認できるまで、土器集中区として遺物を取り上げながら調査を進めた結果、地山近くで炉跡に伴う焼土や住居に伴う壁の立ち上がり等が確認できた状況である。

〔**形状**〕ほぼ円形を呈すると思われるが、住居跡北側が地境の石積みの影響等で検出できなかった。推定で直径約 3.3 mを測る。地床炉と思われる焼土跡が住居跡中央から確認されている。

〔**覆土**〕住居跡との判断が難しかったことから、明確な住居の覆土の判断はできないが、遺物を包含する暗褐色粘質土が主体となる。

〔 **壁** 〕僅かな立ち上がり（5㎝）程度であるが、住居跡南側で検出されている。

〔 **床** 〕地床炉の周辺部において、比較的締まった部分が確認されている。

〔**柱穴**〕住居内には柱穴は確認できていないが、炉の東側には住居に伴うものか不明であるが、土坑が確認されている。

〔**遺物**〕前述したように、遺物集中区として掘り下げを行なっており、地山近くで住居プランや炉跡が確認できたため、遺物集中区の遺物を住居内出土遺物として取り扱うこととした。

〔**時期・時代**〕前述の遺物集中区の時期は、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式の土器のみであり、このことから住居跡も、該期のものと判断できる。

（２）　方形竪穴状遺構

合計５基の竪穴状遺構が４区から確認されている。いずれも方形を呈し、第１号方形竪穴状遺構以外は、重複して確認されている。１～３号竪穴状遺構については、長軸（長辺）が東西方向であるが、４号竪穴状遺構だけが、長軸（長辺）が南北方向である。いずれも柱穴や炉などの遺構は、確認されていない。５号竪穴状遺構には、遺構内にピット？が確認され、遺物は土器片（縄文時代前期最終末）もみられることから、住居跡の可能性も考えられる。

○第１号方形竪穴状遺構（第６図、第 38 図）

〔**位置**〕F・G － 12 グリッドに位置する。

〔**形状**〕長辺 2.35 m、短辺 1.15 m、深さ 0.36 mの隅丸方形を呈する。南側壁中央外側に直径 0.25 m、深さ 0.2 mの半円形のピット状の落ち込みが１箇所見られる。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 **壁** 〕0.4 m程を呈し、壁４箇所ともほぼ垂直に近い状態で立ち上がる。遺構の残存状況は良好である。

〔 **床** 〕しまった状況で確認されているが、柱穴の確認はできなかった。

〔**遺物**〕無し

〔**時期・時代**〕遺物の出土は見られないものの、中世に位置づけられる。

○第２号方形竪穴状遺構（第７図）

〔**位置**〕F － 21 グリッドに位置する。竪穴状遺構の南側は 11 号溝状遺構と重複し、北側は第３号・第４号方形竪穴状遺構と重複する。

〔**形状**〕第 11 号溝状遺構と３・４号竪穴状遺構とが重なるように検出されている。形状は、隅丸方形を呈し長辺 2.2 m、短辺 1.0 m、深さ 0.1 mを測る。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 壁 〕緩やかな立ち上がりを呈する。
〔 床 〕柱穴などの確認はできなかった。
〔遺物〕なし
〔時期・時代〕不明であるが、中世に属するものと思われる。

○第３号方形竪穴状遺構（第７図）

〔位置〕E･F － 21･22 グリッドに位置する。遺構東側が４号竪穴状遺構、遺構南側が２号竪穴状遺構と重複している。
〔形状〕遺構東側は４号竪穴状遺構と重複し、全体の規模は不明であるが、推定長辺 2.0 m、短辺 0.65 m、深さ 0.1 mを測り、隅丸方形を呈すると思われる。
〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となる。
〔 壁 〕緩やかな立ち上がりを呈する。
〔 床 〕柱穴などの確認はできなかった。
〔遺物〕なし
〔時期・時代〕不明であるが、中世に属するものと思われる。

○第４号方形竪穴状遺構（第７図）

〔位置〕E・F － 21 グリッドに位置する。
〔形状〕長辺 1.75 m、短辺 1.25 m、深さ 0.1 mを測る。１号～３号の竪穴状遺構の長辺（長軸）が東西方向なのに対し、本遺構だけが、長辺（長軸）が南北方向を呈する。
〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となる。
〔 壁 〕緩やかな立ち上がりを呈する。
〔 床 〕柱穴などの確認はできなかった。
〔遺物〕なし
〔時期・時代〕不明であるが、中世に属するものと思われる。

○第５号方形竪穴状遺構（第６図、第 38 図）

〔位置〕C － 17 グリッドに位置する。
〔形状〕住居跡北側が調査区外に延びるため、全体の形状や規模は不明であるが、確認できた規模は、長辺 2.95 m、短辺 2.1 m、深さ 0.2 mを測り、隅丸長方形を呈し、住居跡の可能性も考えられる。
〔覆土〕暗褐色粘質土が主体で焼土粒含む。
〔 壁 〕緩やかではあるが、0.2 m程の立ち上がりが見られる。
〔 床 〕ほぼ水平で、締まった状態で確認されている。
〔柱穴〕不規則ではあるが８基が床面居跡中央から西側に確認されている。
〔遺物〕縄文時代前期最終末の十三菩提式の土器の口縁部が出土しており、口唇部に粘土紐が貼付される。
〔時期・時代〕出土遺物から、縄文時代前期最終末の十三菩提式期に位置づけられる。

（３） 溝状遺構

本遺跡から、溝状遺溝が１区から、１号溝状遺構、２～ 11 号溝状遺構が４区から検出されている。この内、北西～南東方向を呈するもの５本、北東～南西方向を呈するもの５本、その他１本である。この内、２号溝状遺構と５号溝状遺構について、個別に遺構番号を付しているが、同一の溝状遺構の可能性が考えられる。

○第１号溝状遺構（第８図、第 39 図）

〔位置〕１区の D － 4・5 グリッドに位置する。
〔形状〕長さ 6.7 m、幅 1.0 ～ 1.85 m、深さ 0.3 ～ 0.35 mを測る。溝のほぼ中央南西側は１号土坑と重複している。溝の底面は丸底を呈し、断面はすり鉢状を呈する。
〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となり、溝の底部周辺には、鉄分や小礫を含む土層の推積が見られることから、旧

河道等の流路に関するものと考えられる。

〔 壁 〕 緩やかな立ち上がりを呈する。

〔遺物〕陶磁器の小破片がみられる。

〔時期・時代〕出土遺物から、中世代に位置づけられる。

○第２号溝状遺構（第９・10・11 図、第 39 図）

〔位置〕E ‐ 10・11・12、D ‐ 12・13・14・15 グリッドに位置し、E ‐ 10 グリッド東側で調査区外に延び、D ‐ 15 グリッド西側では遺構プランは不明瞭になり、1 号集石土坑と重複する。

〔形状〕南東から北西に、現状で 25.4 m、幅 0.5 ～ 1.5 m、深さ 0.3 ～ 0.4 mを測る。2 号溝内や、2 号溝周辺には、数多くのピットが検出されるなど、本溝状遺構と重複している。

〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 壁 〕 緩やかな立ち上がりを呈する。

〔遺物〕遺物は少量であるが、カワラケ、常滑口縁部破片等出土している。

〔時期・時代〕出土遺物から、中世代に位置づけられる。

○第３号溝状遺構（第９・10・11 図、第 39 図）

〔位置〕E ‐ 11、D ‐ 11・12・13 グリッド及び、C ‐ 14 グリッドに位置するが、北東側溝の壁の立ち上がりが調査区外に延び、また 3 号溝の東側及び西側が調査区外に延びる。

〔形状〕北東側の壁の立ち上がりが調査区外になるため、全体の規模は不明であるが、現状の長さは 12.0 mを測り、溝北側の壁の立ち上がりは、調査区外のため不明である。

〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 壁 〕 南側壁のみであるが、比較的緩やかな立ち上がりが見られる。

〔遺物〕甕や陶磁器が出土している。

〔時期・時代〕出土遺物から、中世に位置づけられる。

○第４号溝状遺構（第 12 図）

〔位置〕C ‐ 19・20・21 グリッドに位置する。溝の西側は調査区外、東側は地境の石積みにより不明である。

〔形状〕確認できる現状の長さは 10.1 m、幅 0.45 ～ 1.0 m、深さ 0.2 mを測る。

〔覆土〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 壁 〕 緩やかな立ち上がりを呈する。

〔遺物〕陶磁器の小破片が見られる。

〔時期・時代〕中・近世に位置づけられる。

○第５号溝状遺構（第 12・13 図、第 39 図）

〔位置〕C ‐ 18・19・20 グリッドに位置する。

〔形状〕5 溝西側が調査区外に延び、東側及び北側の溝の立ち上がりが不明瞭となり、しっかりとした溝のプランは確認できなかった。

〔覆土〕黄褐色粘質土が主体となる。

〔 壁 〕 溝の南側においては、しっかりとした立ち上がりが見られるが、前述したとおり北側の壁の立ち上がりは不明瞭である。

〔遺物〕土師質土器、瓦質土器、内耳土器が見られる。

〔時期・時代〕中世に位置づけられる。

○第６号溝状遺構（第 14 図、第 38 図）

〔位置〕C ‐ 25・26、D・E ‐ 26 グリッドに位置する。

〔形状〕本遺跡の最西端に位置し、北東～南西方向を呈する。溝の北・南側が調査区外に延びるため、全体の規模は不明である。現状で確認されている規模は、長さ 17.4 m、幅 1.7 ～ 2.0 m、深さ 0.5 ～ 0.6 mを測り、

南側は 7 号溝状遺構と重複する。溝の断面や形状などから流路のような性格は考えにくく、中世の館跡等を取り巻く堀を連想させる形状である。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体をなす。

〔 **壁** 〕壁高 0.5 m程を測り、明瞭に立ち上がる。底面は、ほぼ平らな面を呈する。

〔**遺物**〕無し。

〔**時期・時代**〕出土遺物が、見られないため、詳細は不明であるが、中世に位置づけられる。

○第 7 号溝状遺構（第 15 図、第 39 図）

〔**位置**〕E ‐ 25・26、F・G ‐ 25 グリッドに位置する。

〔**形状**〕南側から西側に湾曲する形で、調査区外に延び、溝の北側は 6 号溝と、また、溝全体は複数の土坑やピットと重複しており、溝自体は不定形を呈する。確認されている現状の長さは 11.5 m、幅 0.8 ～ 2.0 m を測る。深さも数㎝程度である。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体をなす。

〔 **壁** 〕壁の立ち上がりはほとんど見られない状況で、壁の高さも数㎝程度である。

〔**遺物**〕常滑片が出土している。また、本遺構内から、旧石器の尖頭器が出土している。

〔**時期・時代**〕中世に位置づけられる。

○第 8 号溝状遺構（第 16・17・22 図、第 39 図）

〔**位置**〕C・D ‐ 22、C・D・E・F・G ‐ 23 グリッドに位置する。

〔**形状**〕3 号地下式坑周辺で、一部不明瞭となるが、南西～北東方向に調査区を縦断する。長さ 18.8 m、幅 1.0 ～ 1.5 mを測る。溝の南側で第 5 号地下式坑と重複し、北側では第 3 号地下式坑、第 29・第 32 号土坑と重複する。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 **壁** 〕壁高は 60㎝程で、西側はほぼ垂直に近い状況で立ち上がるが、東側は緩やかに立ち上がる。

〔**遺物**〕土師質土器が数点と、陶器が出土している。

〔**時期・時代**〕中世に位置づけられる。

○第 9 号溝状遺構（第 20 図、第 39 図）

〔**位置**〕D・E・F ‐ 17 グリッドに位置する。

〔**形状**〕ほぼ真っ直ぐに南北方向を呈し、現状で確認されている規模は、長さ 10.8 m、幅 1.4 ～ 1.8 m、深さ 0.3 ～ 0.5 mを測る。断面は、緩やかなＶ字状を呈する。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となるが、溝内には、2㎝程度の小石から 20㎝程度の礫が覆土中や底面におおく見られ、覆土の最下層には砂粒が確認されている。また、溝内に礫が集中している箇所が 3 箇所程確認されている。このことから、流路に関する遺構の可能性は高い。

〔 **壁** 〕明瞭な立ち上がりは見られず、緩やかに立ち上がる。底面は、起伏が見られる。

〔**遺物**〕土師質土器や須恵器等出土している。

〔**時期・時代**〕出土遺物から、中世に位置づけられる。

○第 10 号溝状遺構（第 16 図）

〔**位置**〕G・F ‐ 22 グリッドに位置する。

〔**形状**〕試掘調査時に確認された遺構で、現状の長さ 2.7 m、幅 1.0 m、深さ 0.15 mを測る。溝の北側は不明瞭になる。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体をなす。

〔 **壁** 〕10㎝程度で緩やかに壁が立ち上がる。

〔**遺物**〕無し

〔**時期・時代**〕不明

○第 11 号溝状遺構（第 7 図、第 39 図）

〔**位置**〕F ‐ 21・22 グリッドに位置し、溝の北側は第 2 ～ 4 号方形竪穴状遺構と重複する。

〔**形状**〕確認されている現状の規模は、長さ 6.1 m、幅 1.7 m、深さ 0.3 mを測る。

〔 **壁** 〕緩やかな傾斜を呈している。底面も丸底を呈する。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体をなす。

〔**遺物**〕無し

〔**時期・時代**〕不明

（4） 土坑（第 5 ・ 8 ・11・13 ～ 15、17 ～ 20 図、：第 38・40・43・44・46 図）

本遺跡から、土坑は 39 基が確認されている。1 区から、1 ～ 5 号、6・7 号が 2 区、ほかすべて 4 区から検出されている。しかし、ほとんどの土坑から遺物の出土は見られなかったため、各土坑の時代や時期の特定は難しい。その中で、9 号土坑では古銭（北宋銭）が 5 枚出土しており、墓坑としての埋納銭の可能性が示唆される。また、23・32 号土坑で、土師質土器、23・34 号土坑では、五領ヶ台式土器、21・29・34 号土坑では縄文時代の石器が確認されていることから、これらは該期の遺構として考えられる。

各土坑における規模等の詳細については、第 1 表の土坑・ピット一覧表を参照されたい。

（5） 地下式坑

地下式坑は、本遺跡の 1 区から、1 号地下式坑、4 区から 2 ～ 5 号地下式坑の 5 基が検出された。地下式坑は、「竪坑（入口）と、竪坑底部から横に掘り広げ、本体である地下室を築いた遺構」としている。

検出された地下式坑の形態分類等については、2 パターンほどが確認されている。

また、地下式坑の調査方法について、確認された地下室部分の残存状況は良好であり、地下室の天井が残り、空洞の状況である。このため、調査中に天井崩落の危険性が考えられたため、まず、竪坑（入口）を掘り下げ、地下室の方向を見極めたあと、天井部分の除去を行い、地下式坑の調査を行った。このため、地下式坑覆土等のセクション図等は、作図していない状況である。

なお、2 号地下式坑の覆土について、「稲山遺跡の地下式土坑の自然化学分析」として、土壌分析、脂肪酸分析などをパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その報告原稿を第 5 章に掲載した。

○第 1 号地下式坑（第 21 図）

〔**位置**〕C・D ‐ 12、C ‐ 13 グリッドに位置する。

〔**形状**〕竪坑は、本体部の北西側に見られ、直径 0.8 mを測り、底面まで深さ 0.7 mを測る。地下室は、隅丸長方形を呈し、長辺の最大幅、北東～南西方向に 2.5 m、底部は同方向に 2.45 mを測る。短辺は、北西～南東方向に最大幅 1.8 m、底面は 1.5 mを測る。天井までの推定の高さ約 1.2 mである。

〔**覆土**〕本体部において、ほとんどしまりのない暗褐色粘質土がみられた。また、本体部の底面から 0.1 m程上面で長辺 50㎝、短辺 20㎝と、長辺 30㎝、短辺 15㎝の平石が見られた。これについては、竪坑や地下室の入り口部分等に、使用されていた可能性が考えられる。

〔 **壁** 〕 壁は緩やかに立ち上がり、壁面全体に掘削時についた工具痕が確認できる。

〔**床の状態**〕ほぼ水平で、硬くしまっている。

〔**その他の施設**〕竪坑の内面には、 5 箇所の柱穴状の掘り込みが見られる。その内、内面北東と南西の 2 箇所の掘り込みは半円形で、その規模は長さ 13 ～ 15㎝、幅 5㎝、深さ 35㎝を測る。また、北西側に 1 箇所と南東側の本体部分側の 2 箇所の合計 3 箇所には直径 10㎝の円形もしくは、長径 15㎝、短径 7㎝の楕円形の掘り込みが確認されている。これについては、竪坑部分に構築物があった可能性を示唆させるものである。

〔**遺物**〕本遺構内からは、出土遺物は見られなかった。

〔**時期・時代**〕中世（14 ～ 15 世紀）に位置づけられる。

○第 2 号地下式坑（第 21 図、第 40 図）

〔**位置**〕F ‐ 13・14 グリッドに位置する。11 号土坑の下部に地下室部分が位置する。

〔**形状**〕第 1 号地下式坑と形態は類似している。竪坑は南西側に構築され、ほぼ円形を呈し、直径 1.05 m、深さ 0.95 mを測る。本体部は、竪坑底面よりさらに 0.75 mほど掘り下がり、地表から本体部底面まで 1.70 m程である。本体部の平面形は、竪坑部分の南東側が短辺 1.0 m、長辺の北西側が 2.0 mを測り、台形状を呈する。本体部の北東～南西方向の断面はカマボコ状を呈し、天井部までの高さは推定で 1.2 m程である。

〔**覆土**〕しまりのない暗褐色粘質土が見られる。

〔 **壁** 〕床面近くは、垂直に立ち上がるが、上面はドーム型に天井があったと思われる。また、 1 号地下式坑同様、壁面全体に掘削時についた工具痕が見られる。

〔**床の状態**〕床はほぼ水平で、礫層を掘り込んでいるため、多少凸凹している。

〔**その他の施設**〕竪坑南東側の内面には、 1 号地下式坑同様、柱穴状の掘り込みが 3 箇所見られる。直径 10㎝ ～ 15㎝の円形もしくは楕円形を呈する。 1 号地下式坑同様の施設があった可能性がある。

〔**遺物**〕床面から 10 ～ 50㎝の覆土中から、骨片、土師質土器、擂鉢の破片が出土している。

〔**時期・時代**〕中世（14 ～ 15 世紀）に位置づけられる。

○第 3 号地下式坑（第 22 図、第 40 図）

〔**位置**〕C ‐ 22、D ‐ 22･23 グリッドに位置する。

〔**形状**〕北側に竪坑、本体部が南側に見られる。竪坑は直径約 0.7 m、深さ 1.25 mを測る。1・2 号地下式坑には、竪坑と本体部の連結部には段が見られるが、3 号地下式坑は無段で竪坑と本体部の深さは同一である。本体部の底面の形状は、長辺 2.75 m、短辺 2.35 mを測り、形状はほぼ楕円形を呈する。断面は、東西方向でフラスコ状を呈する。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土で、しまり粘性などは見られない。

〔 **壁** 〕底面からは緩やかに立ち上がる。

〔**床の状態**〕礫層がみられるため、多少凸凹している。

〔**遺物**〕土師質土器が出土している。

〔**時期・時代**〕中世（14 ～ 15 世紀代）に位置づけられる。

○第 4 号地下式坑（第 20 図）

〔**位置**〕E ‐ 16 グリッドに位置する。

〔**形状**〕竪坑は北東方向に見られ、長径 0.7 m、短径 0.6 mの楕円形を呈し、3 号地下式坑同様、本体との連結部分は無段である。本体は、南西方向に構築され、長辺 2.3 m、短辺 1.8 mを測り、形状は明瞭なコーナーは見られず、小判型を呈する。断面は東西方向で、フラスコ状を呈し、壁の立ち上がりは緩やかに立ち上がる。本体部の高さ（天井部）1.2 m程で、今回、検出されたなかでも比較的、小さな地下式坑である。

〔**覆土**〕しまりのない暗褐色粘質土が主体である。覆土中には、25㎝大と 35㎝大の平石 2 点が、底面から 20㎝ほど浮いて確認されている。おそらく、竪坑に使用されたと考えられ、本体部に流れ込んだものと思われる。

〔 **壁** 〕やや内湾しながら立ち上がるが、天井部はドーム形を呈すると思われる。

〔**床の状態**〕やや丸底を呈している。

〔**遺物**〕土師質土器や擂鉢が出土している。

〔**時期・時代**〕中世（14 ～ 15 世紀代）に位置づけられる。

○第 5 号地下式坑（第 25 図）

〔**位置**〕F ‐ 23･24 グリッドに位置する。

〔**形状**〕東側に竪坑が見られ、当初普通の土坑として掘り下げを行なっていたが、底面西側の壁に横穴が検出されたことから、地下式坑と判断し調査を行なった。竪坑は、長径 1.7 m、短径 1.5 m、深さ 0.3 mを測

る。断面はすり鉢状を呈する。竪坑と本体部の連結する部分には有段を呈する。本体部分は南北に 3.2 m、東西に 1.6 mを測り、細長い小判型を呈する。断面の形状はカマボコ型を呈し、本体部の高さ（天井部）約 0.95 mを測る。検出された地下式坑の中では、平面的には広いものの、立体的には狭さを感じる。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔 **壁** 〕壁の立ち上がりは緩やかに立ち上がる。

〔**床の状態**〕ほぼ水平で、しっかりしている。

〔**遺物**〕無し。

〔**時期・時代**〕中世（14 ～ 15 世紀代）に位置づけられる。

（6）集石土坑

本遺跡から、集石土坑が 1 ～ 4 号が 4 区、5 号が 2 区の合計 5 基が検出されている。このうち、1 号集石土坑は、出土遺物から中世頃の所産と考えられ、3 号集石土坑も出土遺物から縄文時代中期初頭と考えられるが、このほかの集石土坑については、遺物が確認できなかったため、時代・時期は不明である。

○第 1 号集石土坑（第 11 図、第 26 図、第 40 図）

〔**位置**〕D ‐ 15 グリッドに位置する。

〔**形状**〕集石の広がりは、北西～南東方向に 1.9 m、北東～南西方向に 1.2 mの範囲に、5㎝～ 30㎝大の礫が平面的に広がる。集石の下には、直径 0.7 m、深さ 0.2 mを測る土坑が確認され、形状は円形を呈し、断面形は鍋形状を呈する。

〔**覆土**〕土坑の覆土は、暗褐色粘質土を呈し焼土やカーボンを含む。

〔**遺物**〕土坑南側底部には、土師質土器が伏せられた状態で出土し、覆土中には柱状高台皿、羽釜、土師質土器が出土している。

〔**時期・時代**〕平安時代末～中世に属するものと考えられる。

○第 2 号集石土坑（第 27 図、第 39 図）

〔**位置**〕E ‐ 20 グリッドに位置する。

〔**形状**〕長径 0.92 m、短径 0.75 mの楕円形を呈し、深さ 0.23 mのすり鉢状を呈する。

〔**覆土**〕覆土は暗褐色土を呈し、土坑内には 10 ～ 25㎝大の礫が 30 点程、確認されている。

〔**時期・時代**〕覆土中や、集石内に土器片等は認められないことから、時期の特定は難しい。

○第 3 号集石土坑（第 5・28 図、第 38 図）

〔**位置**〕E ‐ 19 グリッドに位置する。

〔**形状**〕長径 1.65 m、短径 1.4 mの範囲に 10 ～ 25㎝大の礫が広がり、本遺跡内において規模の大きい集石の広がりを持つ。土坑は長径 1.7 m、短径 1.4 m、深さ 0.6 mを測り、平面形は不整円形を呈し、断面形は底部中央に 0.2 m程の落ち込みがみられ、大きさ約 20㎝、厚さ 5㎝程度の平石が 18 点ほど底面を覆う様な状況で、敷き詰められている。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体で僅かにカーボンが含まれる。

〔**遺物**〕諸磯 b 式期と五領ヶ台式期の土器片が出土している。

〔**時期・時代**〕縄文時代中期初頭に位置づけられる。

○第 4 号集石土坑（第 27 図、第 40 図）

〔**位置**〕D ‐ 21 グリッドに位置する。

〔**形状**〕調査区北側が調査区外に延びる。推定長径 0.65 m、短径 0.56 m、深さ 0.15 mを測る。平面形は、楕円形を呈し、底面は丸底。底面には、15㎝～ 30㎝の平石が見られる。平石については、3 号集石土坑と同様に集石土坑の底面に平石が敷き詰められている状況と類似しており、集石土坑上部が削平されている可能性が考えられる。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔**時期・時代**〕集石土坑底部が、第３号集石土坑と同様の形態が見られるため、縄文時代中期初頭に位置づけられる。

○５号集石土坑（第 27 図）

〔**位置**〕C ‐ 11 グリッドに位置する。

〔**形状**〕長径 0.80 m、短径 0.60 m、深さ 0.24 mを測る。平面形は、不整円形を呈する。底面は丸底。30㎝～45㎝大の大型の平石が４枚見られるが、３号・４号集石土坑のように底面に敷き詰められている状況ではなく、床面より浮いている状況である。

〔**覆土**〕暗褐色粘質土が主体となる。

〔**時期・時代**〕出土遺物が無く不明である。

（７） 集　石

本遺跡から、集石は１区において、１基が確認されている。

○第１号集石（第 29 図、第 40 図）

〔**位置**〕D ‐ 4 グリッドに位置する。

〔**形状**〕北西～南東 3.1 m、北東～南西方向 1.9 mの範囲に、5㎝～ 45㎝大の礫が集中し、地山より 10㎝程度浮いている状況で確認されている。集石下部には、土坑などの掘り込みは見られない。

〔**遺物**〕集石内には、14 世紀代の常滑の胴部破片が出土している。

〔**時期・時代**〕14 世紀代に位置づけられる。

（８） ピット（第５～７、９～ 19、24、25、30 図）

本遺跡から、ピットは 238 基が確認されている。柵列や建物跡などのような規則的な配置は認められないものの、調査区４区においてすべてのピットが検出されている。ピットの規模等の詳細のデータについては、第１表の土坑・ピット一覧表を参考とされたい。

第２項 遺物（第４図、第 31 図～ 46 図）

本遺跡の出土遺物に関しては、「稲山遺跡のあらまし」でもふれたが、発掘調査面積に対し、出土遺物はプラスチィックコンテナに 10 箱程度と比較的少ない状況であった。しかし、確認された出土遺物は、旧石器時代、縄文時代前期最終末、中期初頭、中世を主体としている。

旧石器時代では、約 24,000 年前の瀬戸内技法による尖頭器が１点ではあるが、溝状遺構から出土している。これは、四ッ沢川を挟んだ銚子原遺跡では切出形石器が出土しており、この石器も 26,000 年～ 24,000 年前に位置づけられ、本遺跡との関連が注目される。

縄文時代の遺物として、そのほとんどが五領ヶ台式期に位置づけられ、第 31 図～第 37 図の第１号住居跡の出土遺物である。本遺跡としての特徴は、集合沈線文は少なく、どちらかというと縄文系土器、キャリパー形での波状口縁に棒状貼付文を施すものが数多く見られる。また、中期初頭の他、前期末の十三菩提式もみられ、５号竪穴状遺構から出土し、口縁部にソーメン状浮線文を施す土器片が出土している。

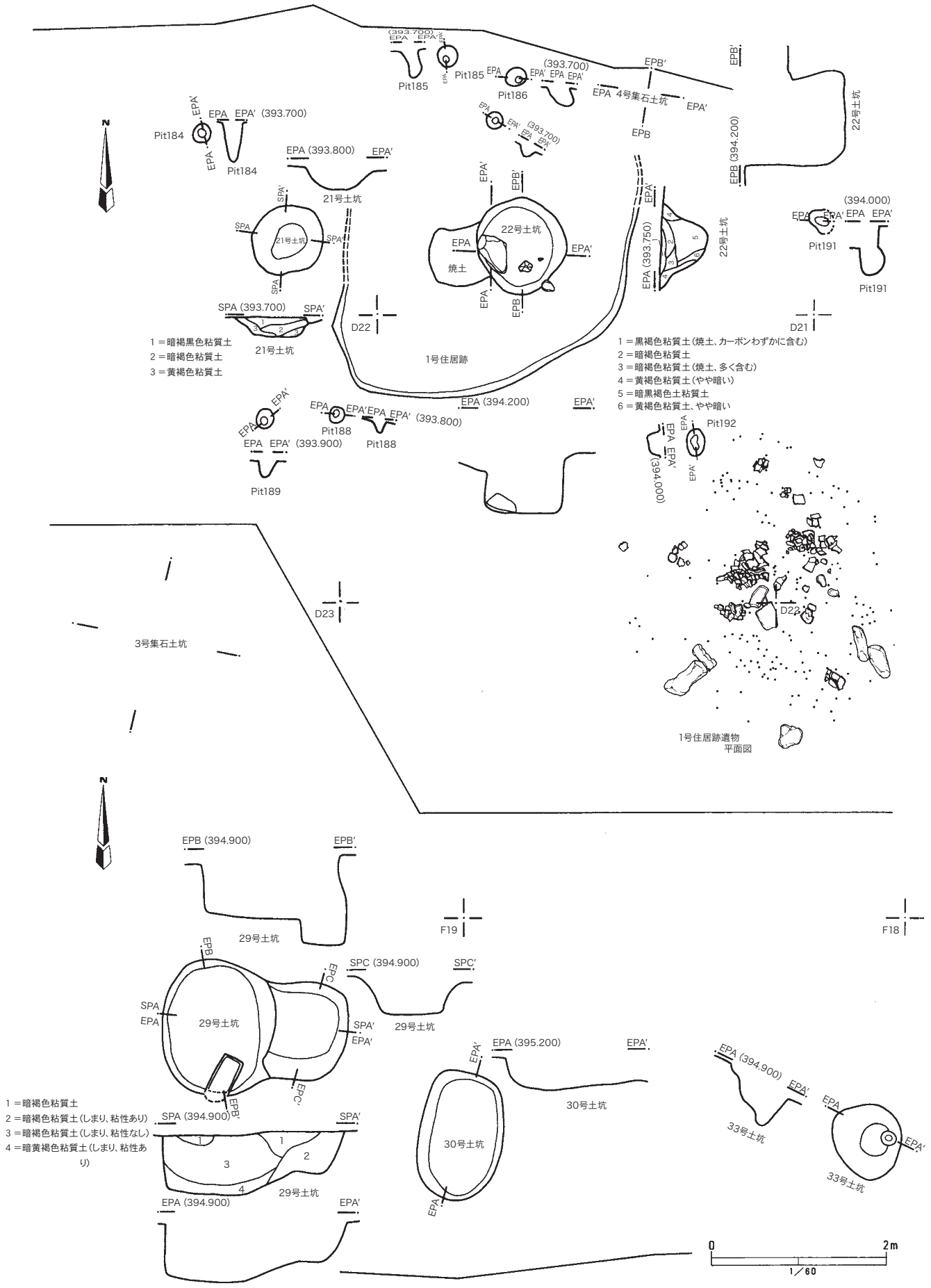
弥生時代として、遺構外の出土であるものの、羽状沈線文が頸部にみられる土器片が出土し、弥生時代中期に位置づけられる。また､須恵器片も数点の出土がみられる。なかでも遺構外ではあるが⊠の胴部破片が見られる。

また、中世としては、土師質土器を（大・中・小）中心として、擂鉢、土鍋、羽釜等も破片ではあるが出土している。中には、12 世紀末頃の柱状高台を持つ皿なども見られる。

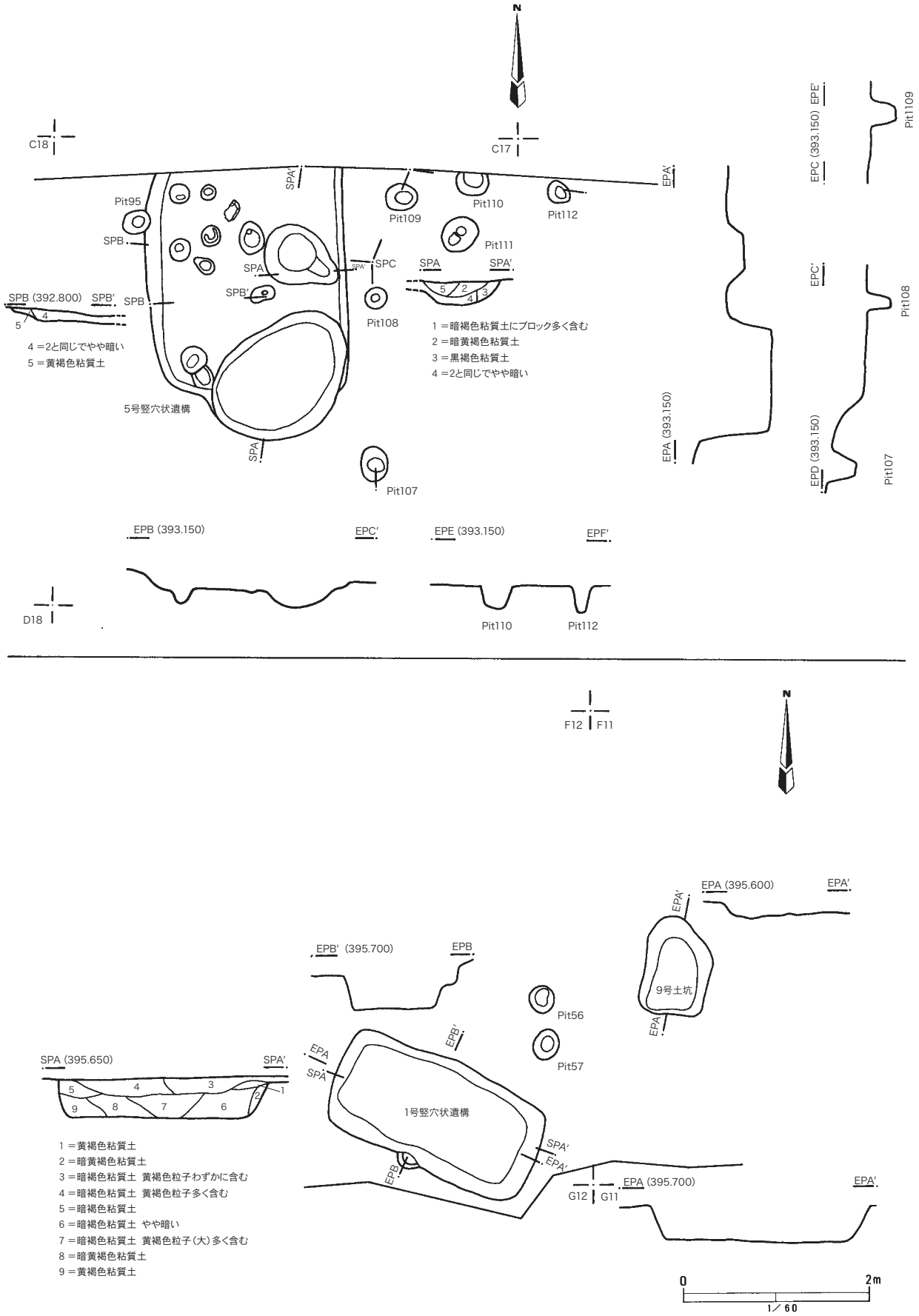
土師質土器には、ろくろ成形の外に、手捏ねの手法で成形された土師質土器が１点ではあるが、出土している。

このほか、鉢類や擂鉢、陶磁器片が見られ、その他には古銭等がみられた。

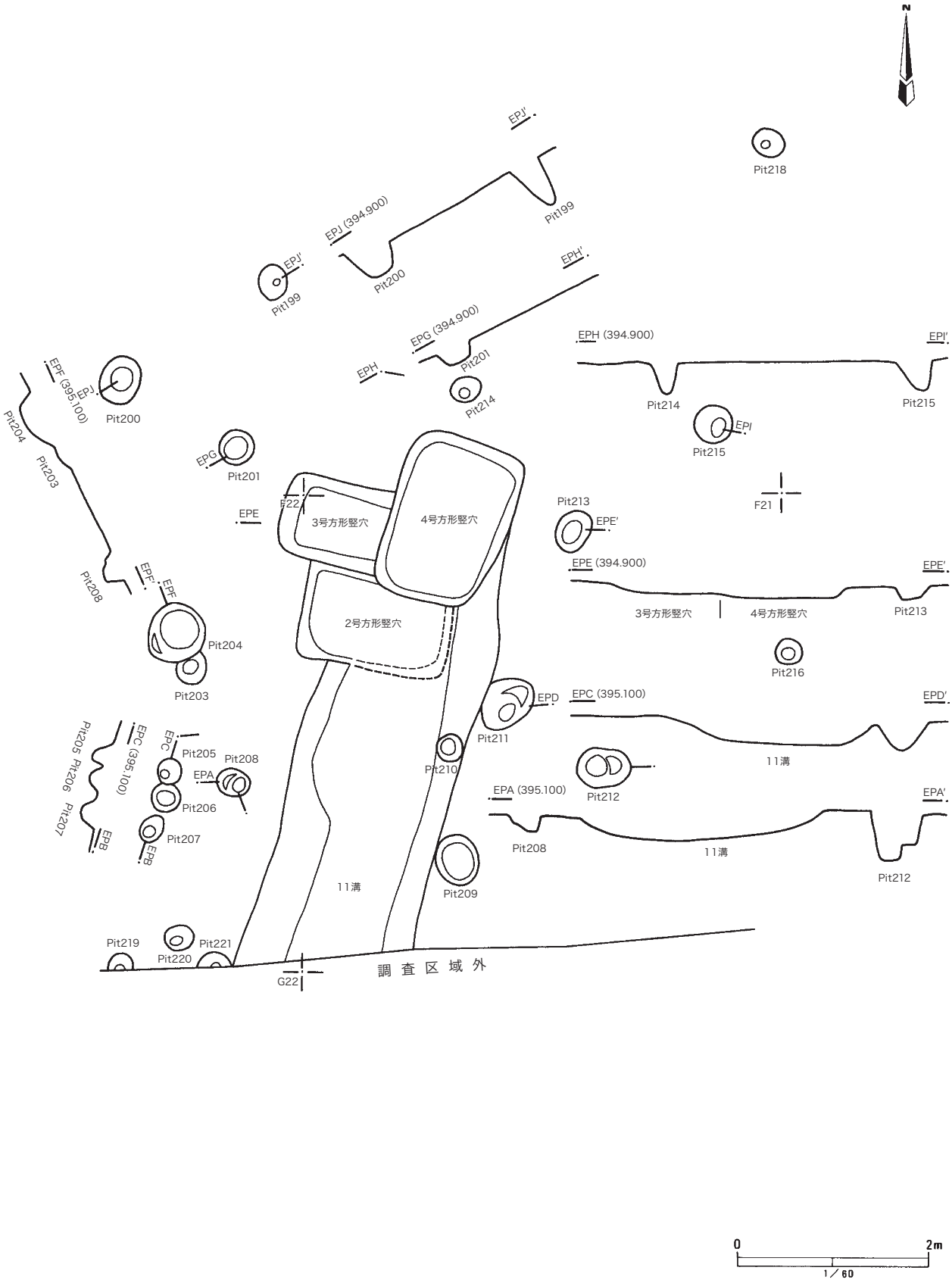
遺物の詳細なデータについては遺物一覧表（第２表～第５表）を参照されたい。



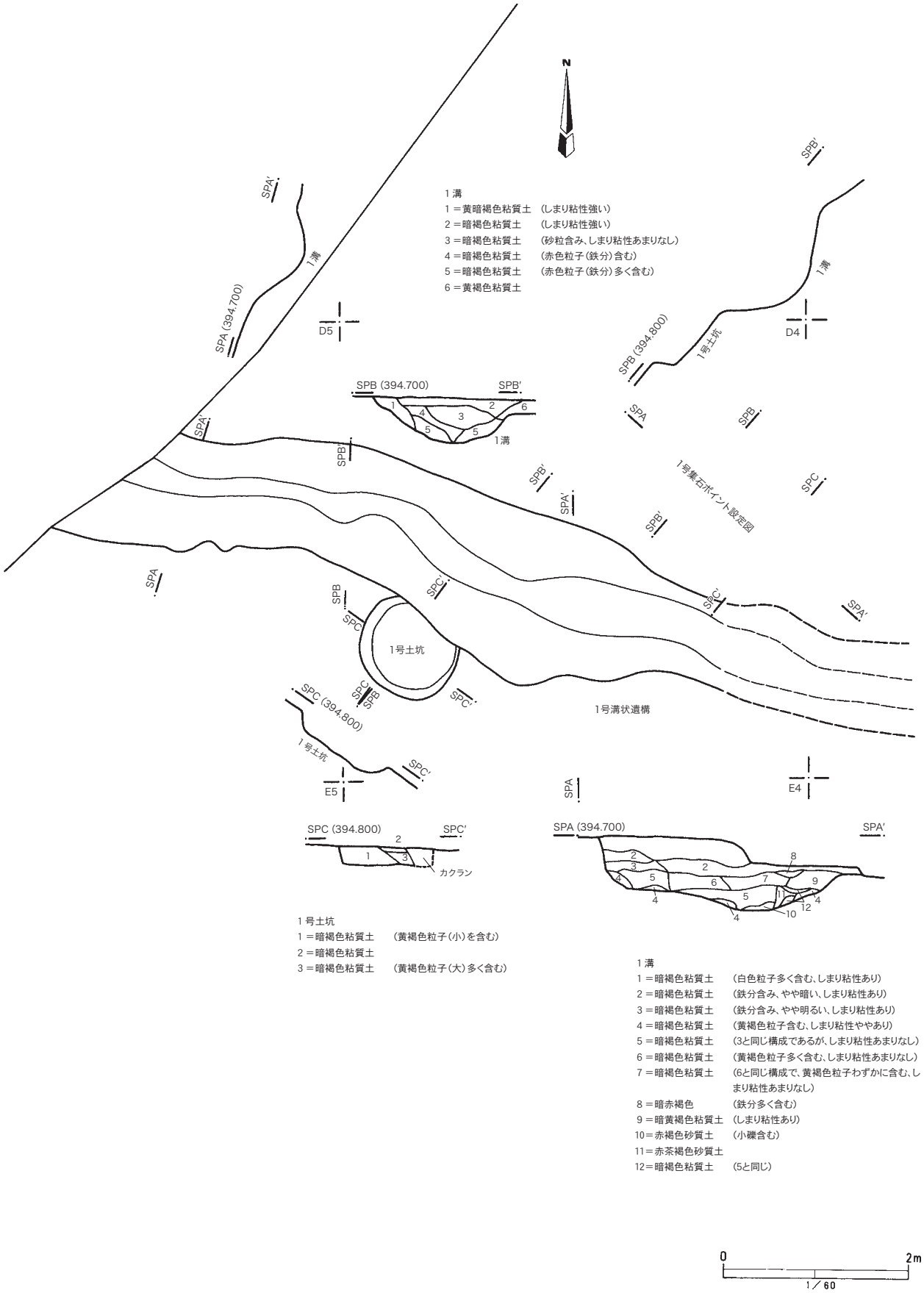
第5図　第１号住居跡、第21･22･29･30･33号土坑、３・４号集石土坑ポイント



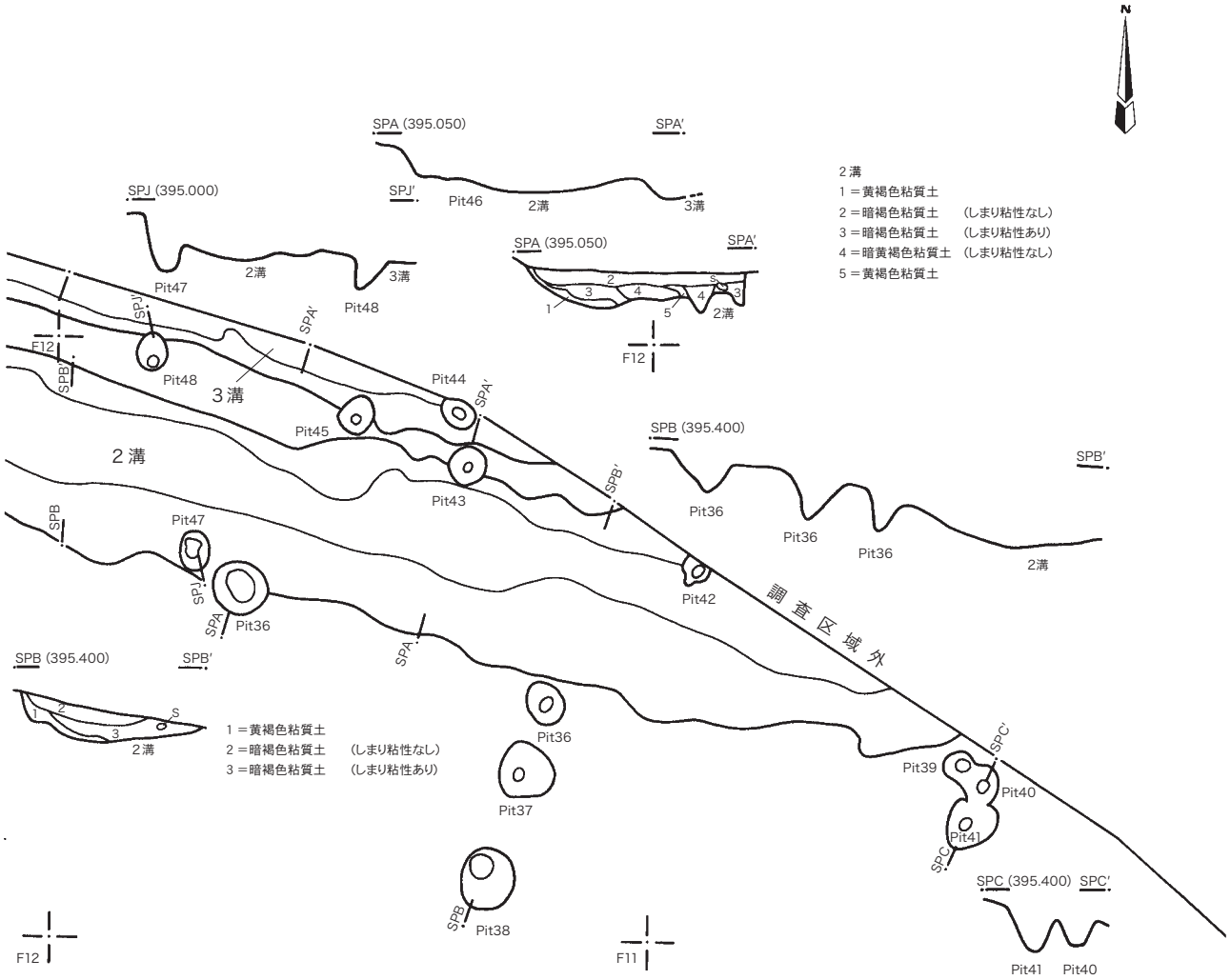
第6図　第１・５号竪穴状遺構、ピット56･57､95･107~112

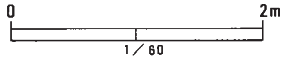


第7図　第11号溝状遺構、第２～４号方形竪穴状遺構、ピット199~201、203~216、218~221

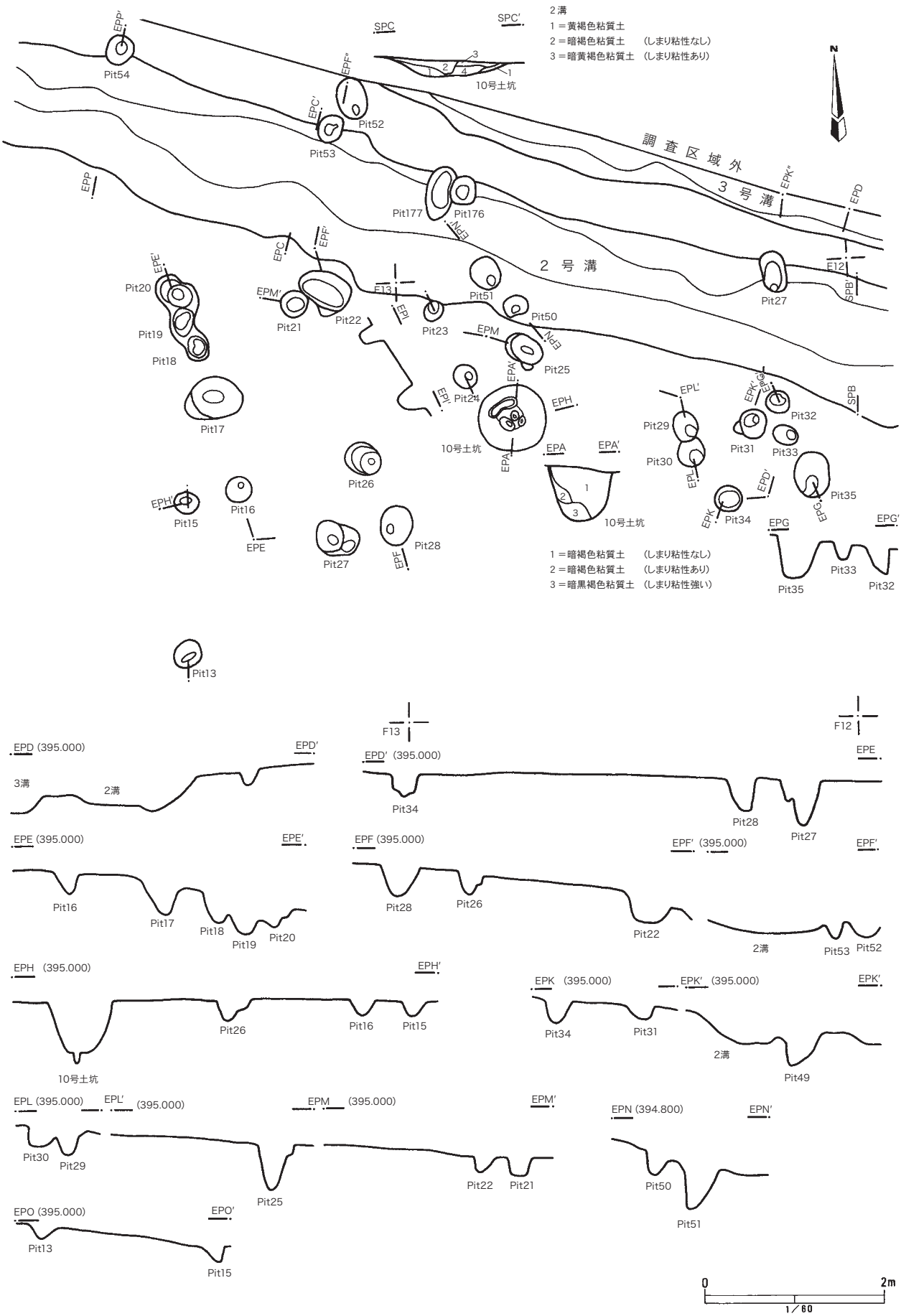


第8図　第１号溝状遺構、第１号土坑、第１号集石ポイント

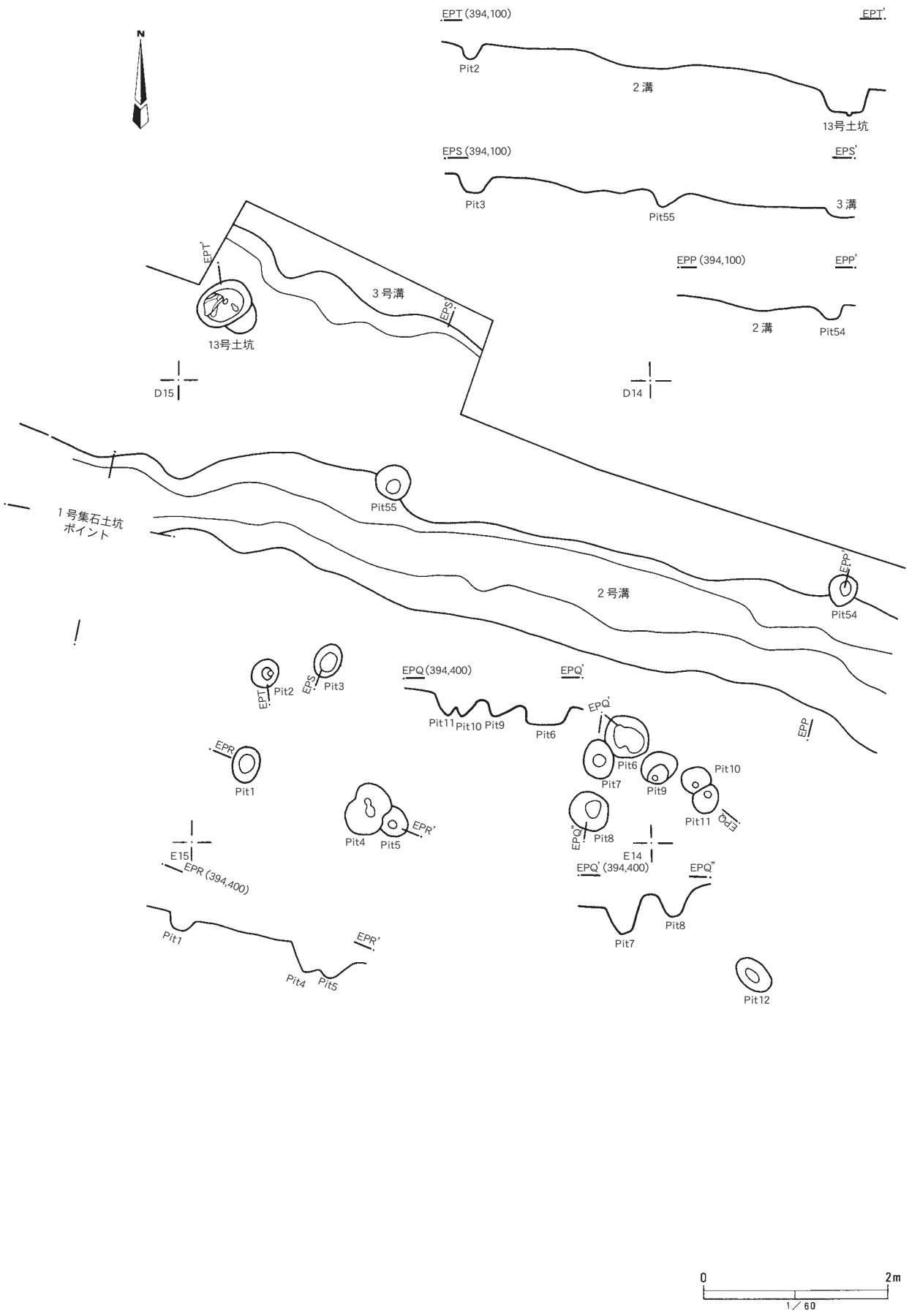




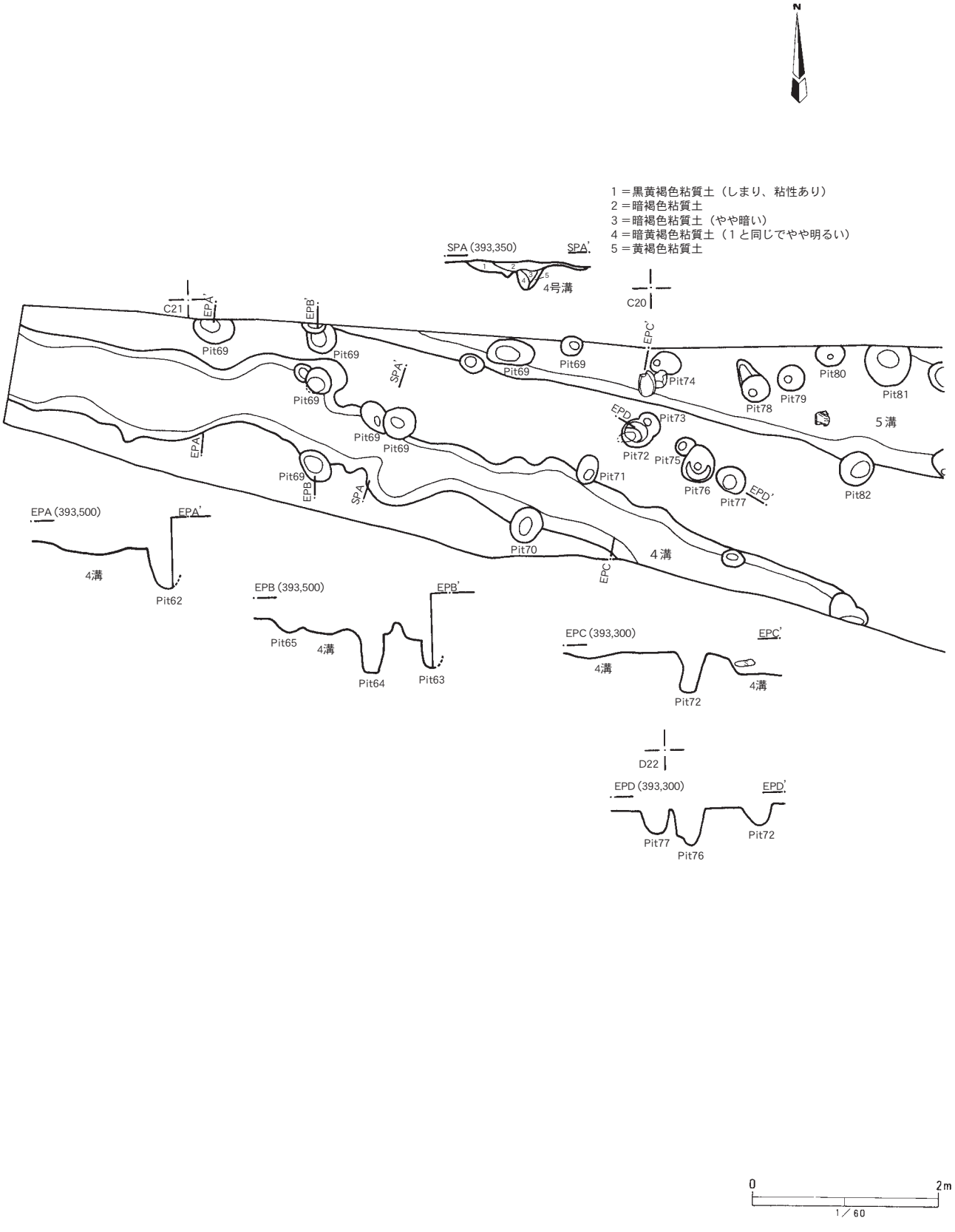
第9図　第２・３号溝状遺構その①ピット136~148



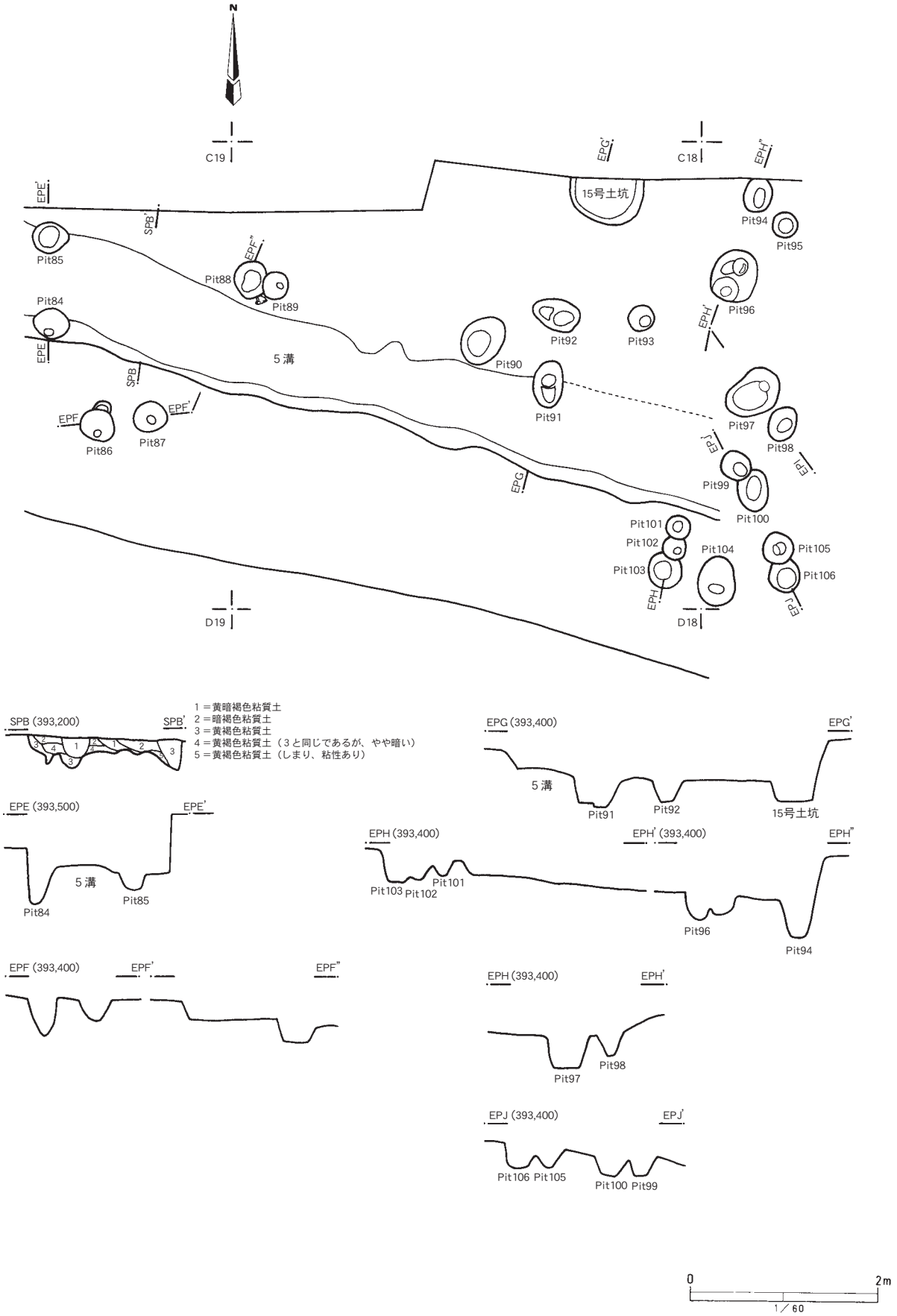
第10図　第２・第３号溝状遺構その②、第10号土坑、ピット15~35、149~154



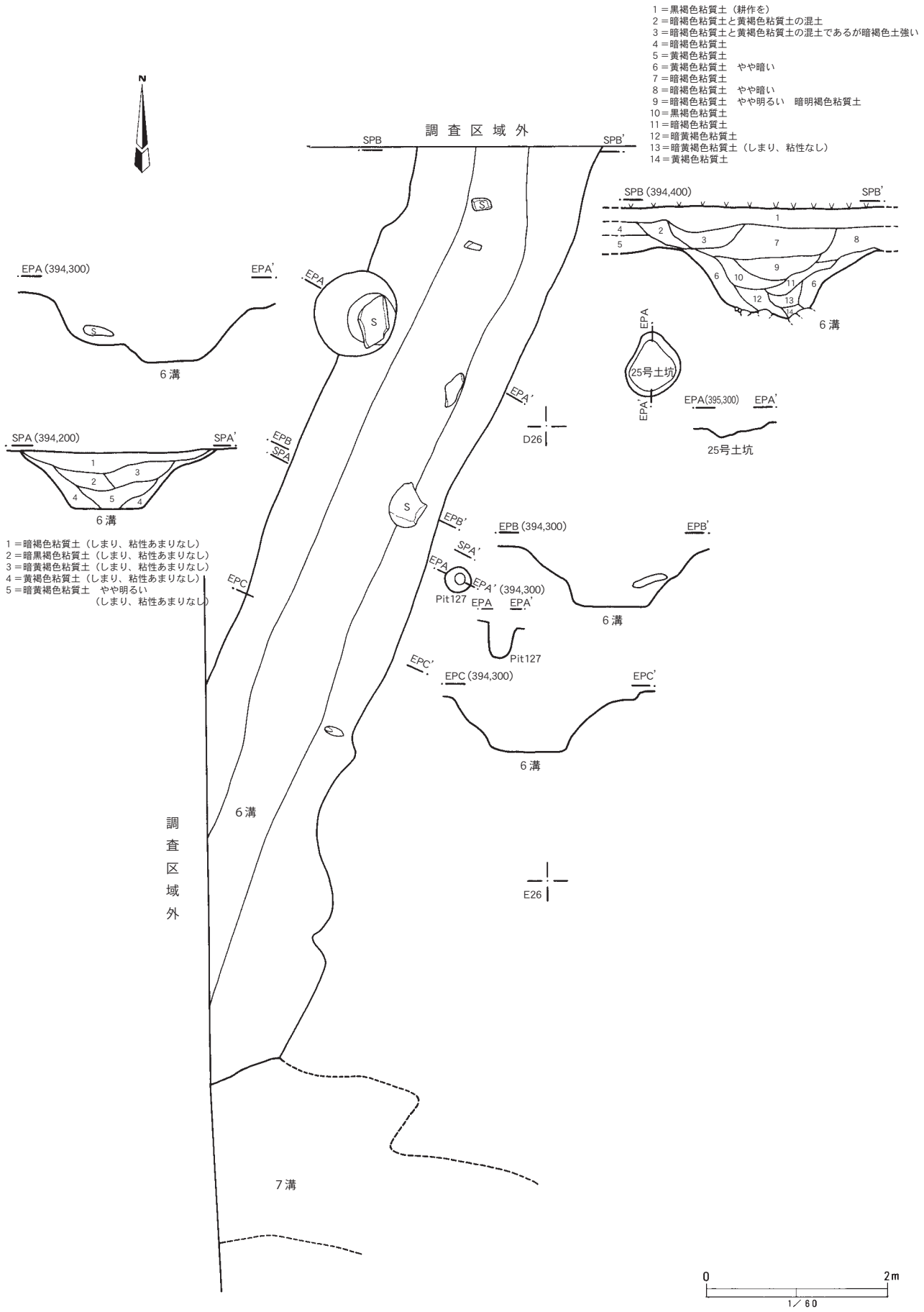
第11図　第２・第３号溝状遺構その③、第13号土坑、ピット1~12、54・55



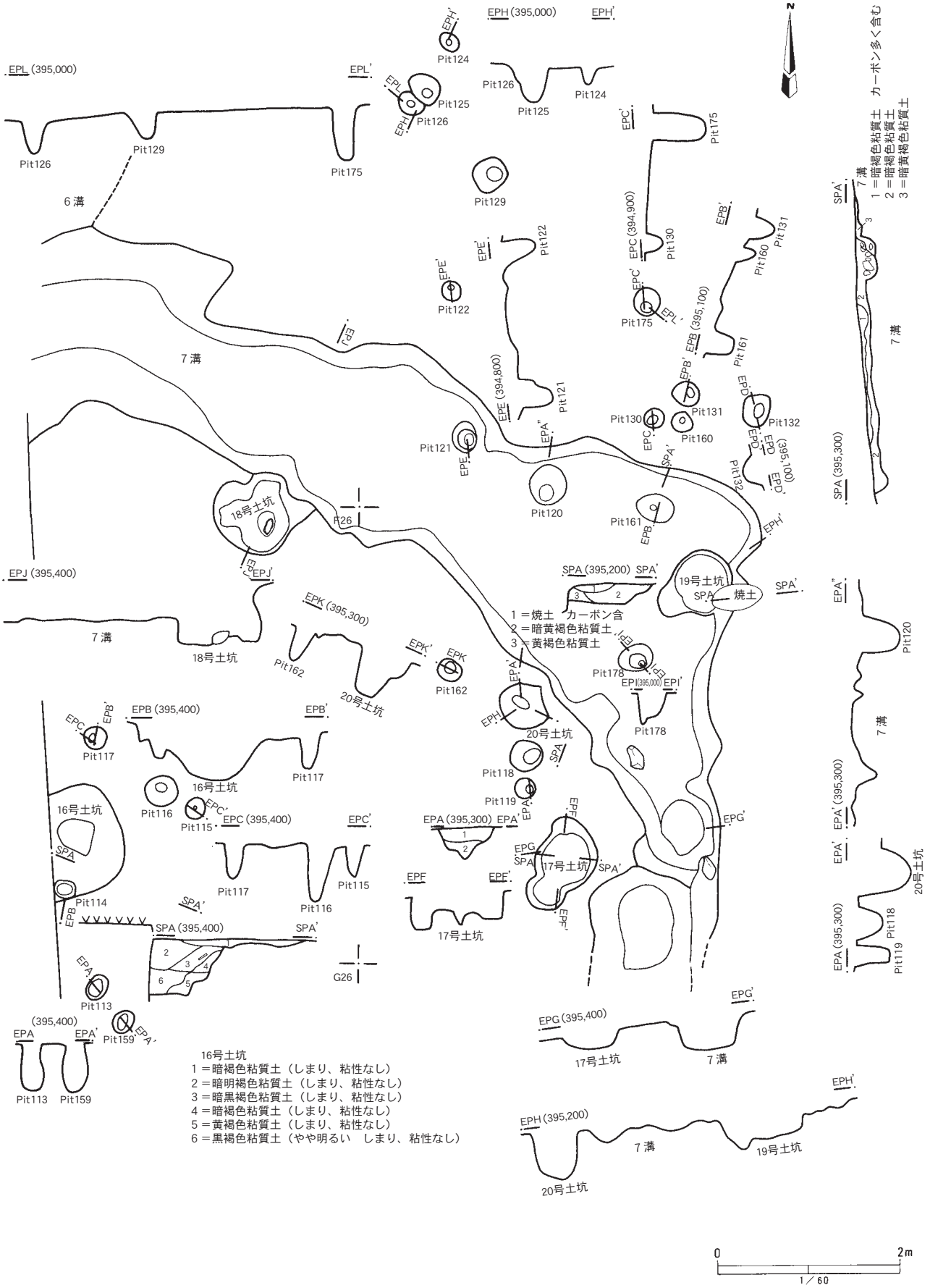
第12図　第４・第５号溝状遺構その①　Pit62~82



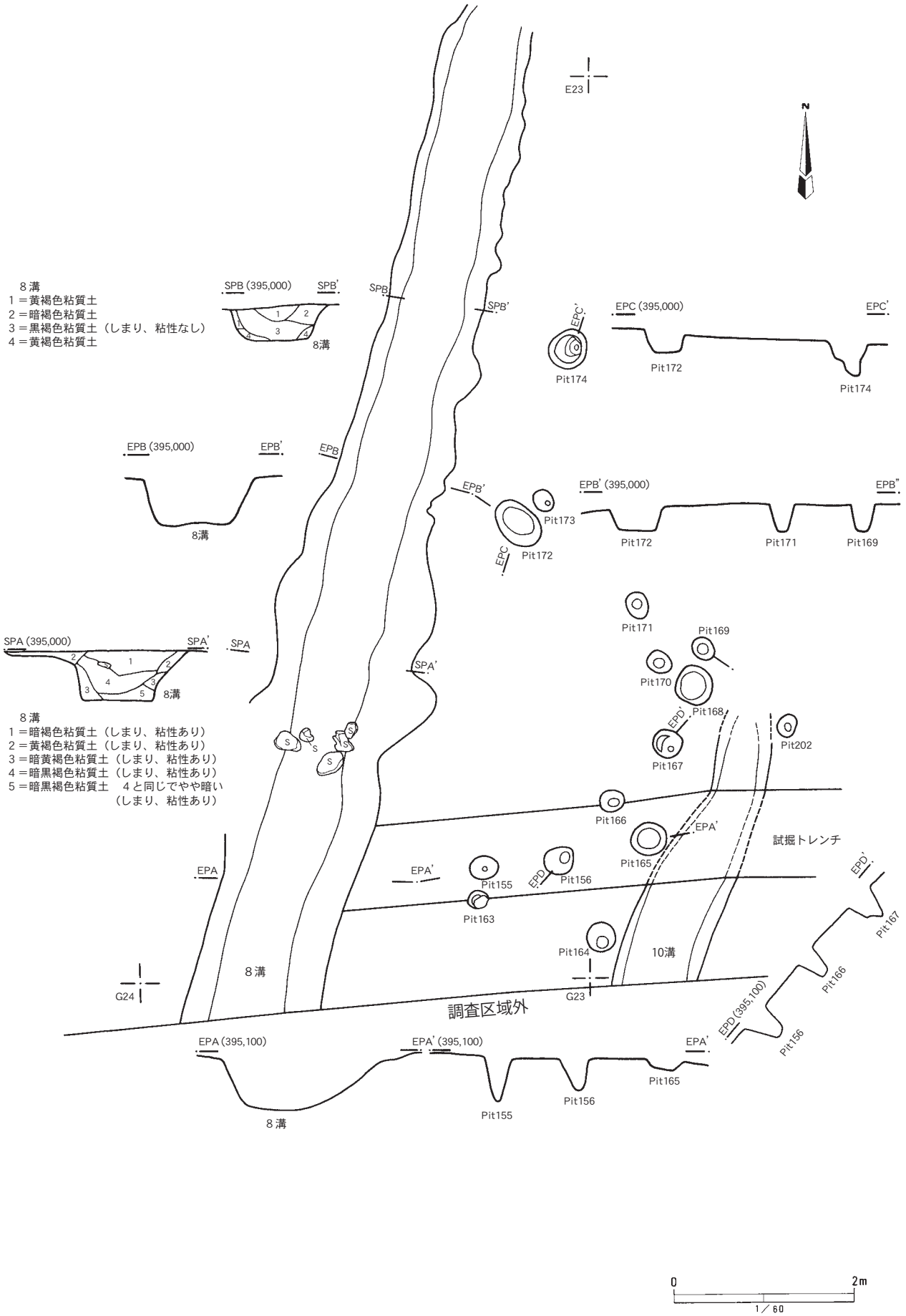
第13図　第５号溝状遺構その②・第15号土坑･Pit84~106



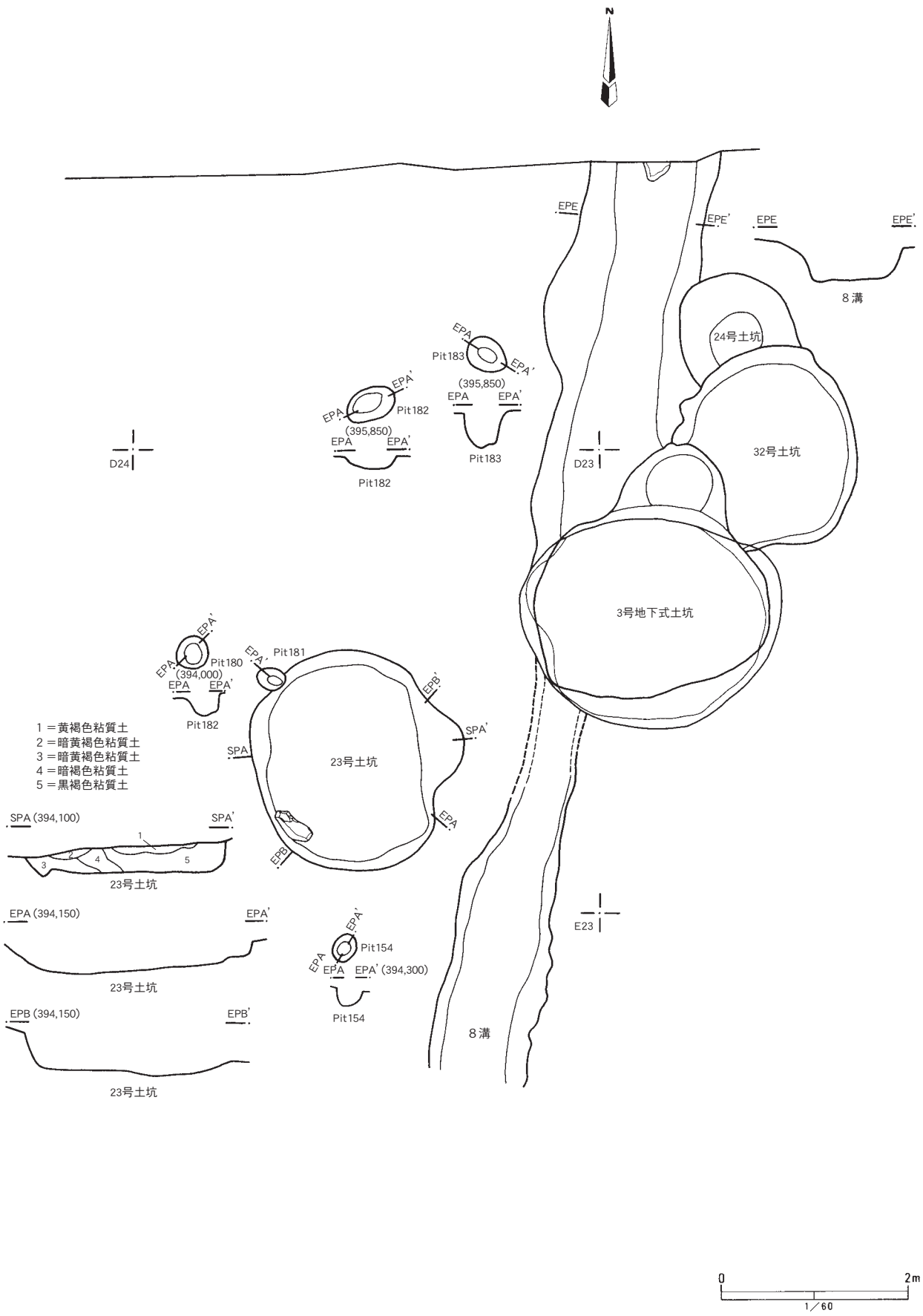
第14図　第６号溝状遺構・第25号土坑･Pit127



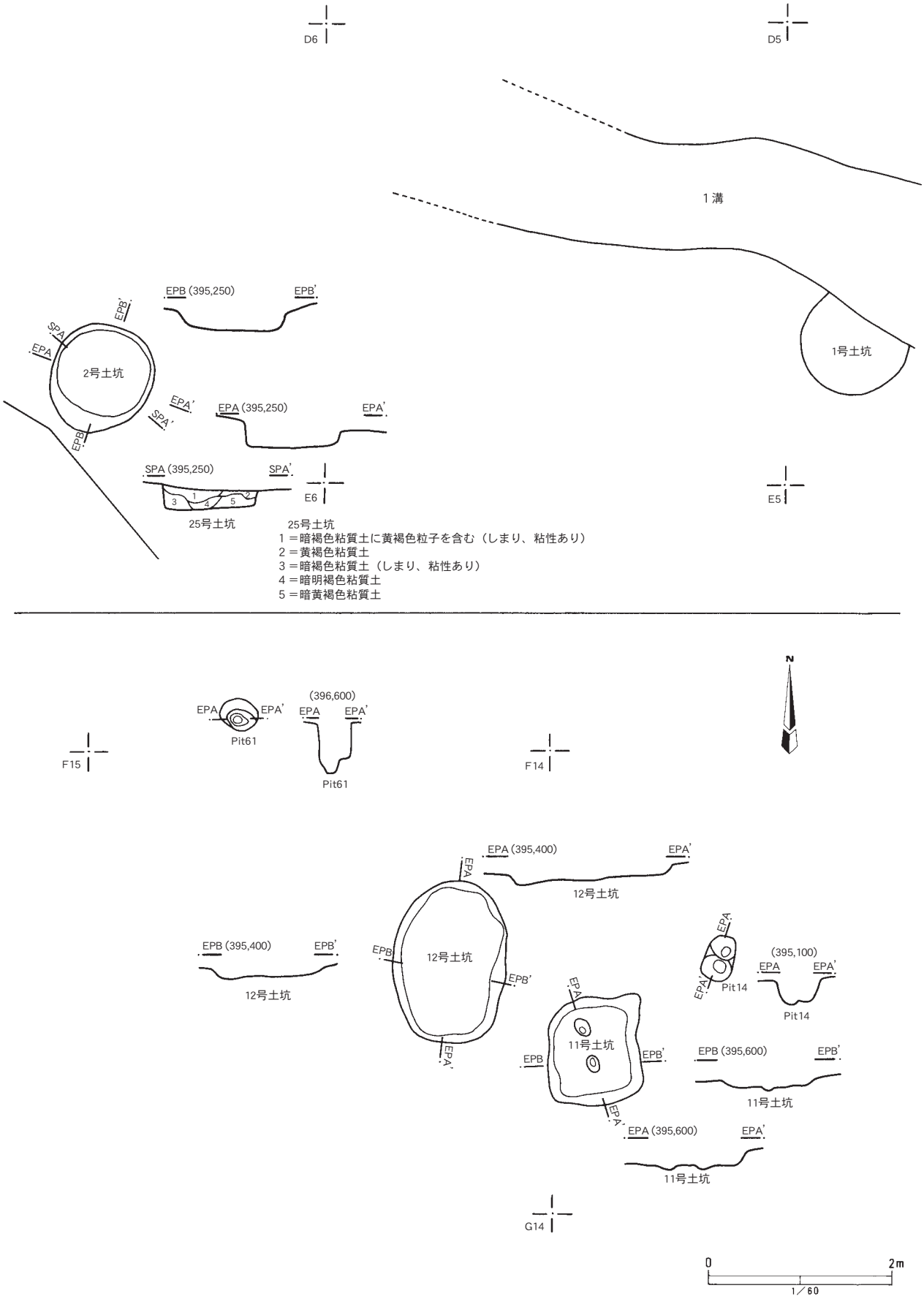
第15図　第７号溝状遺構・第16~20号土坑・Pit113~122、124~126、129~132、159~162、175



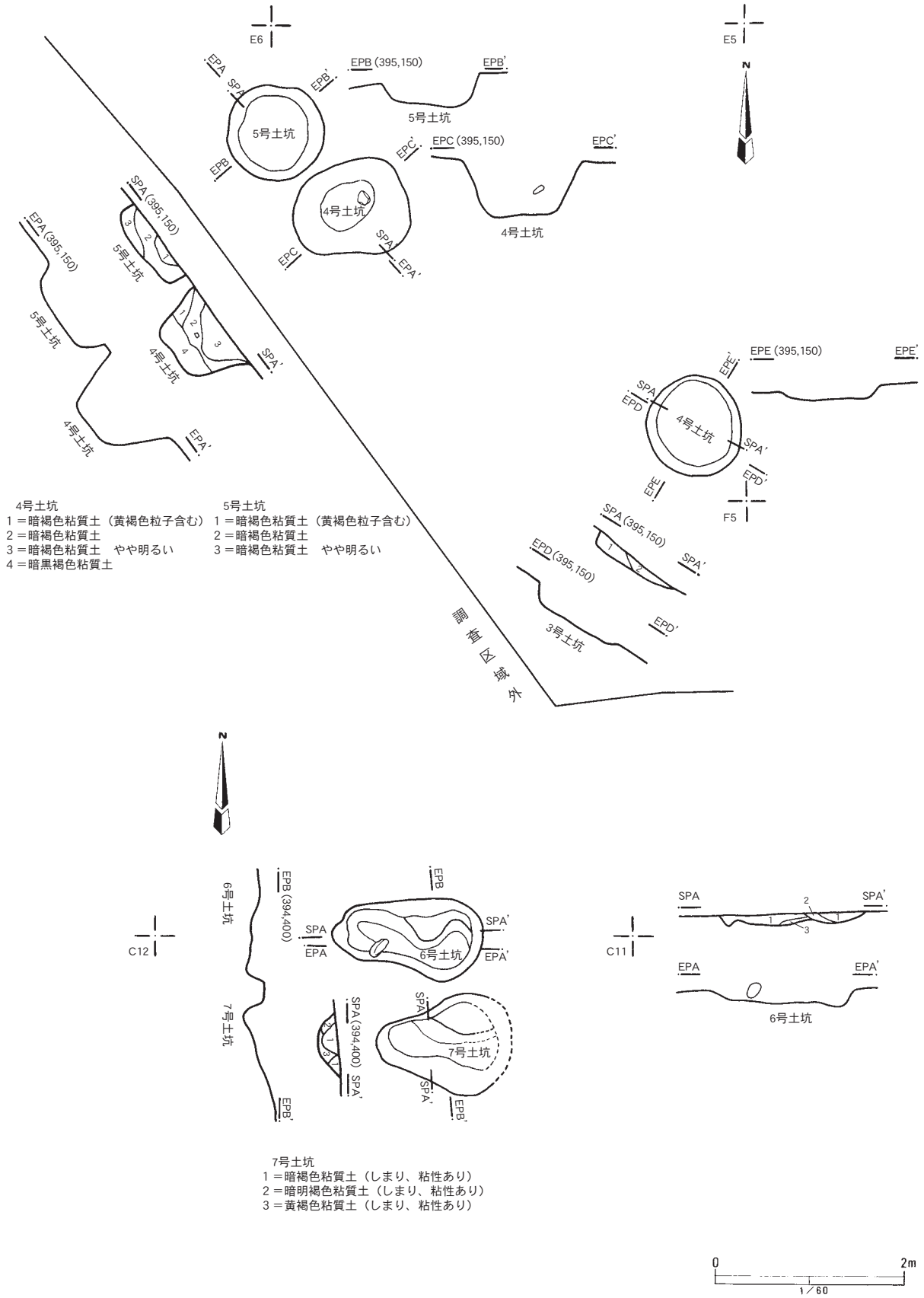
第16図　第８号溝その①・第10号溝状遺構、Pit163~174、155、156、202



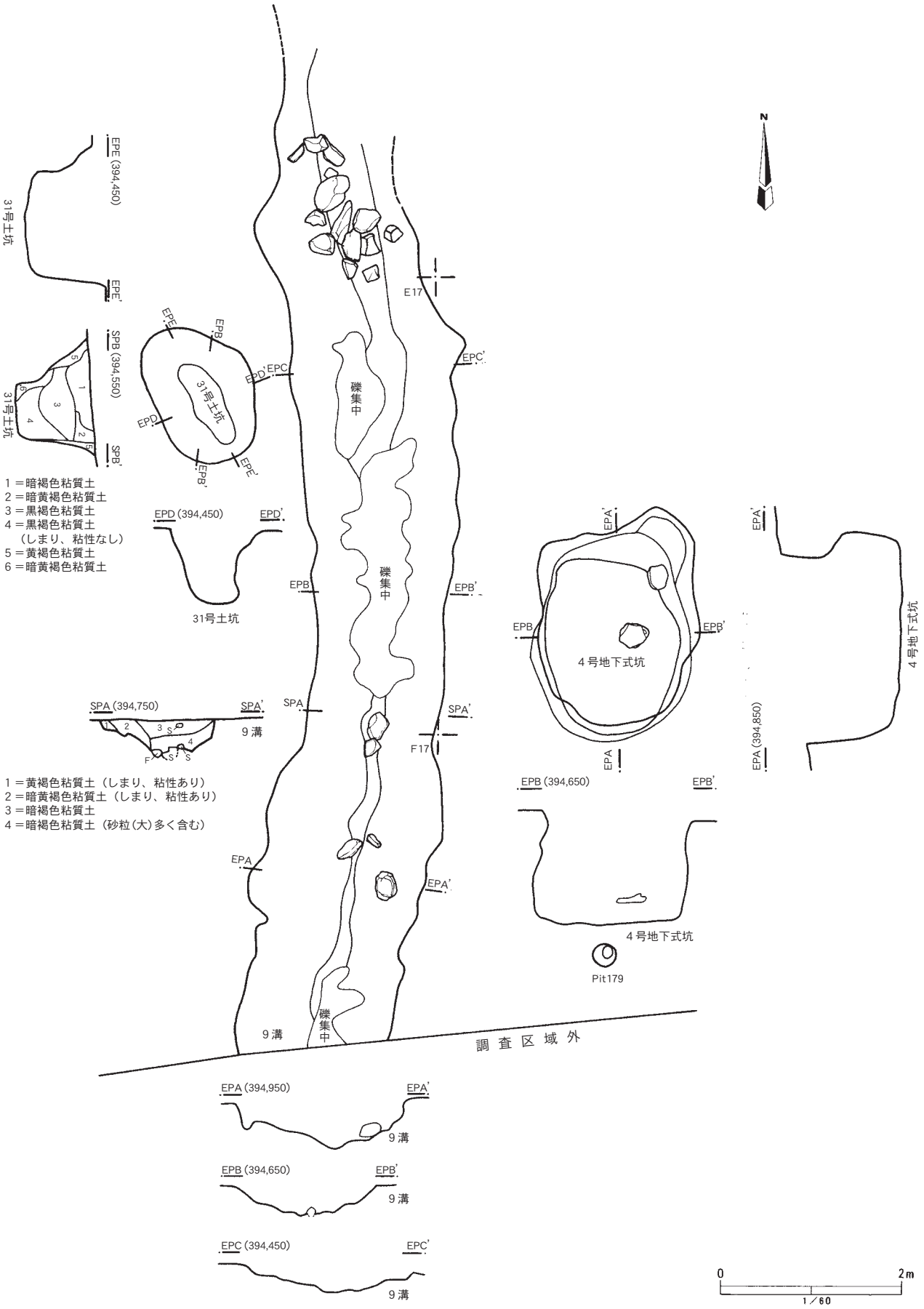
第17図　第８号溝状遺構、その②、第23号土坑、ﾋﾟｯﾄ154、180~183



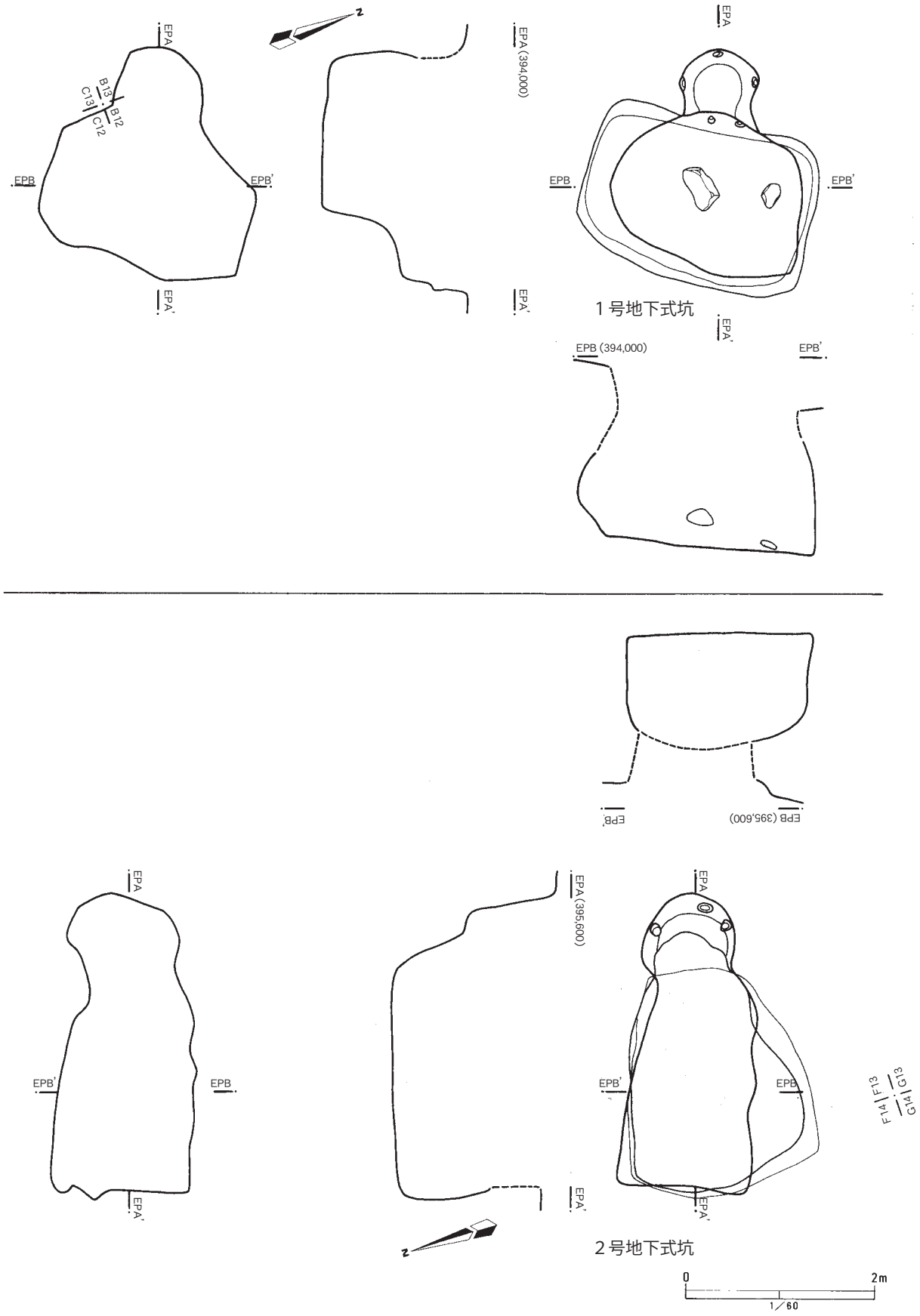
第18図　第２号･11号･12号土坑・ピット14･61



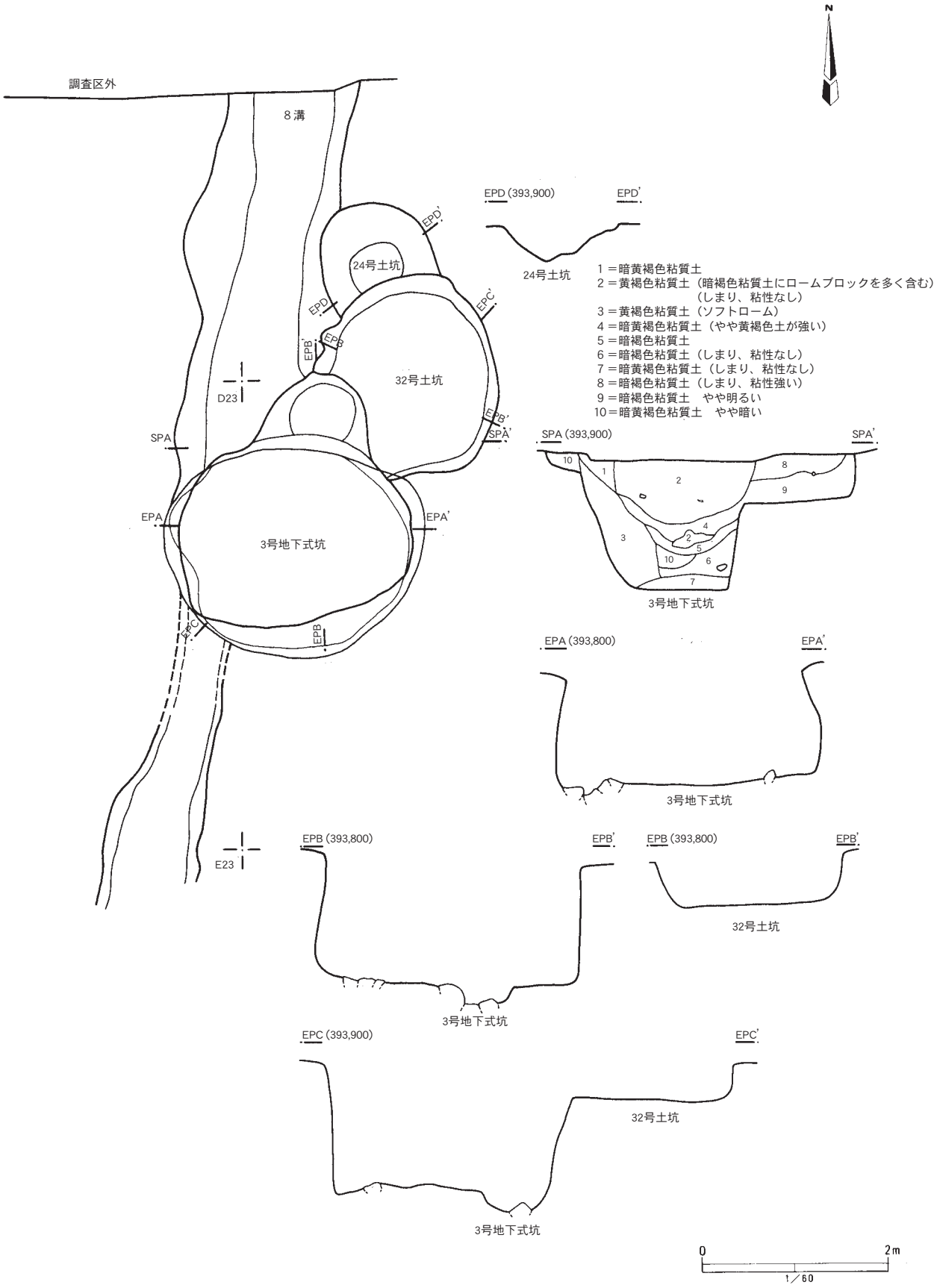
第19図　第３号～７号土坑



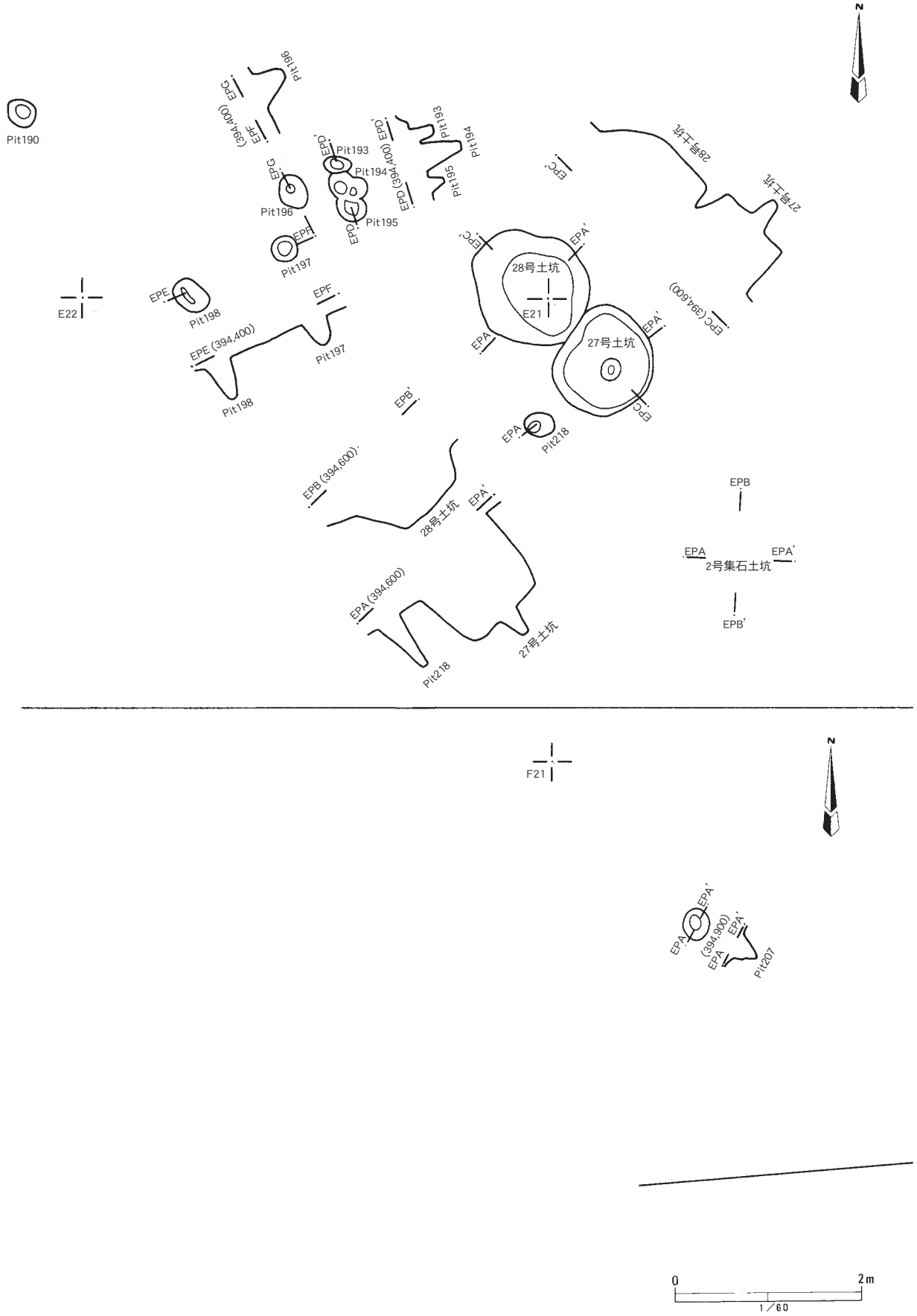
第20図　第９号溝状遺構・第31号土坑・4号地下式坑、ピット179



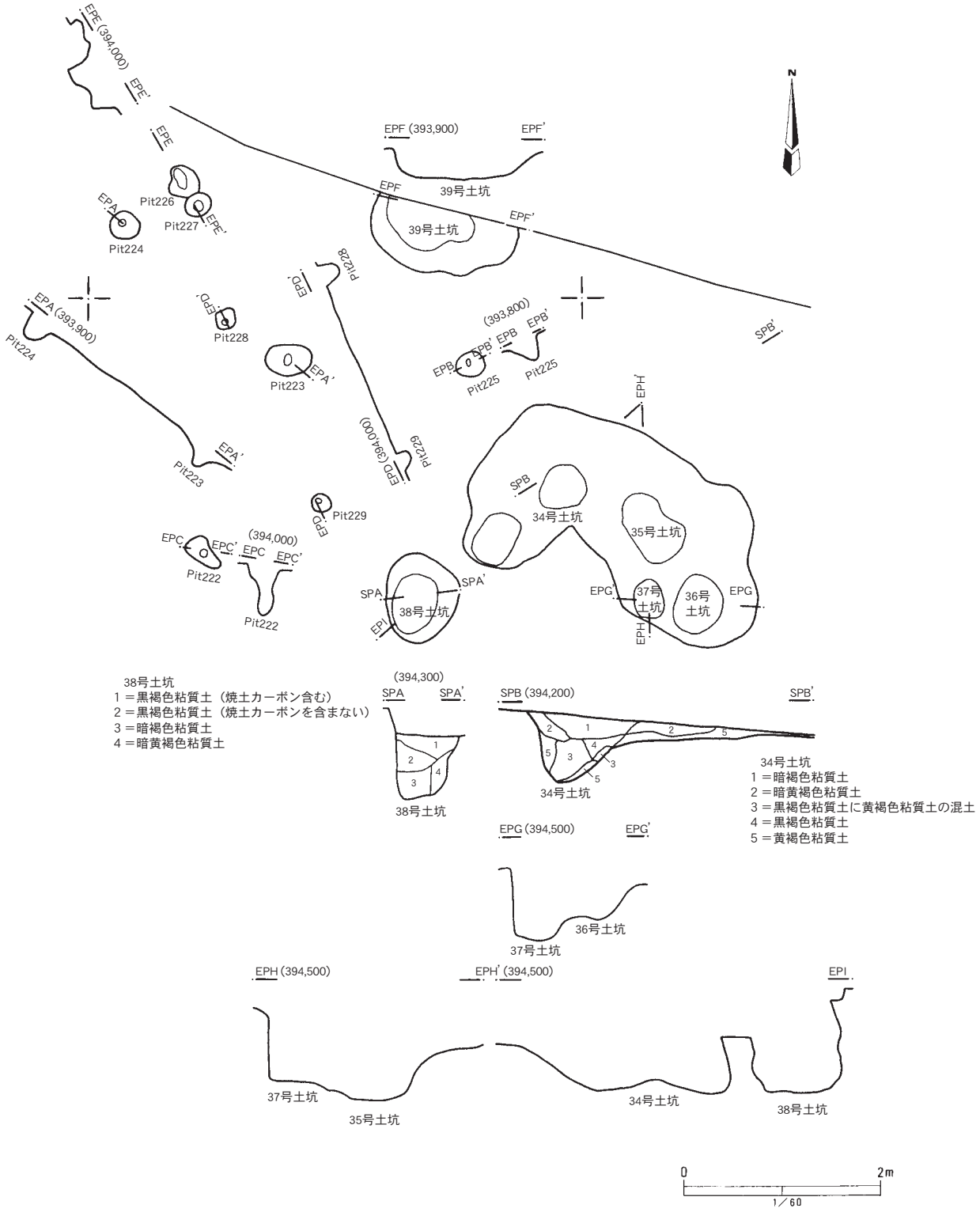
第21図　第１号地下式坑（上）・第２号地下式坑（下）



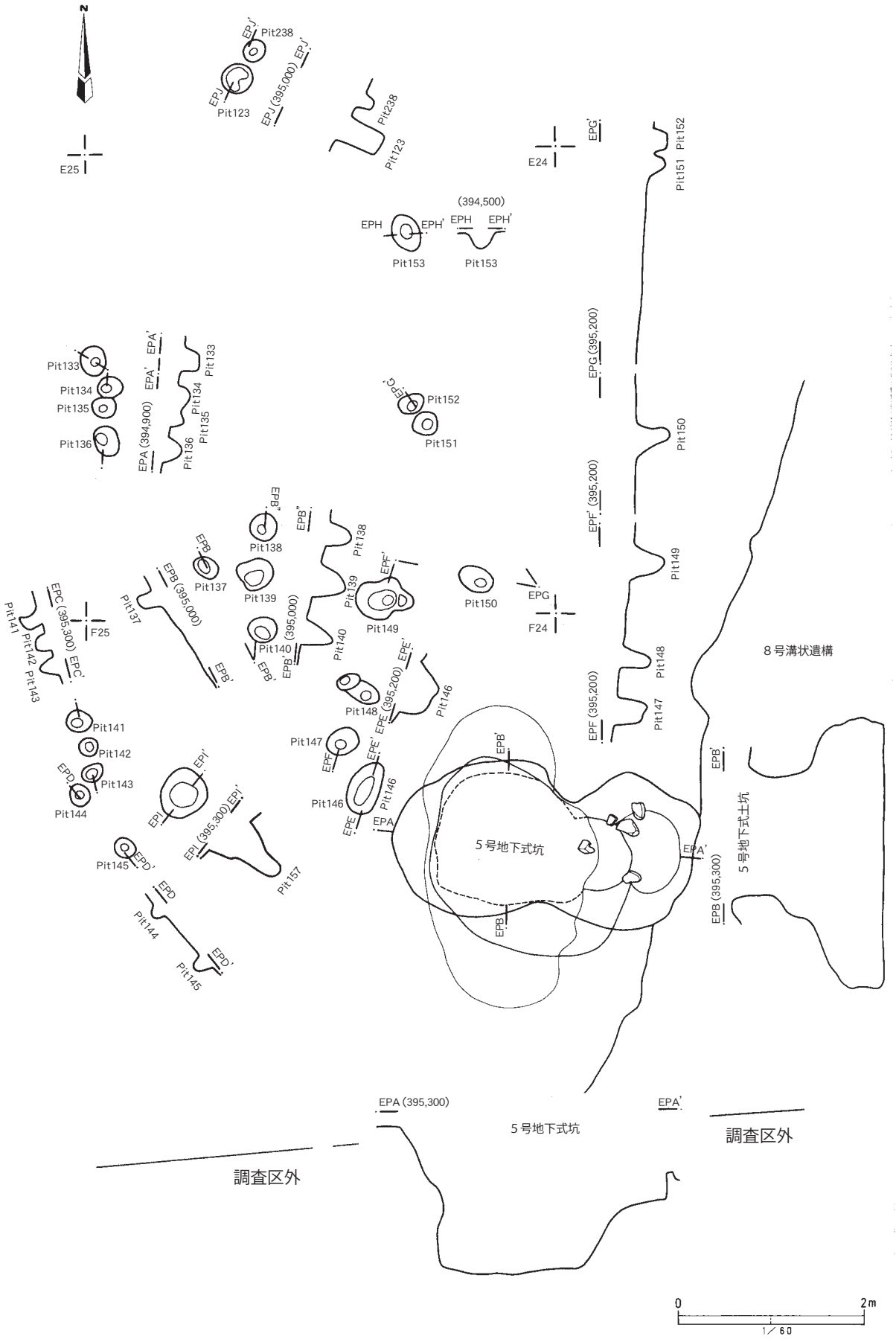
第22図　第３号地下式坑、第24号・32号土坑



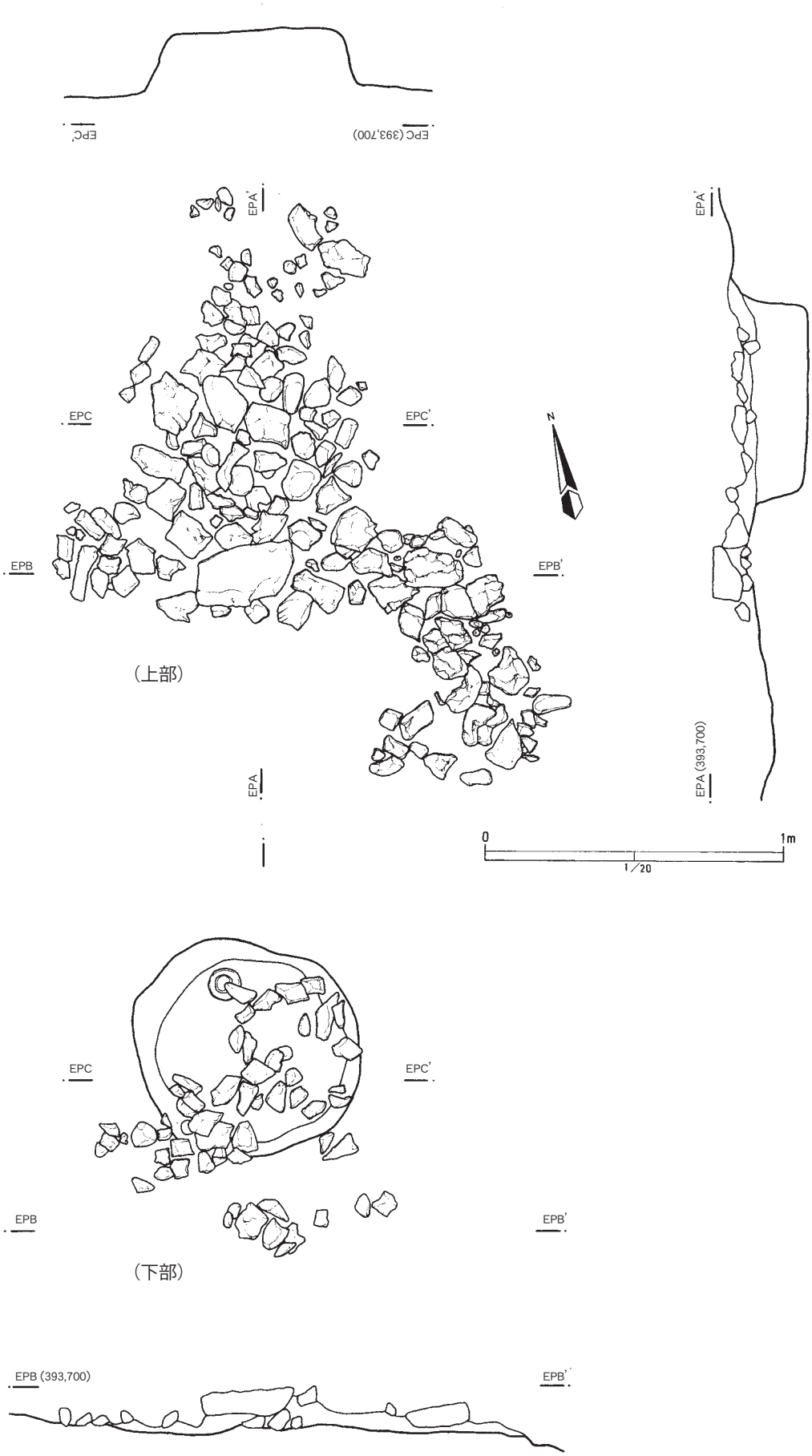
第23図　第27号・第28号土坑、２号集石土坑ポイント設定図　Pit190、193~198、207、218



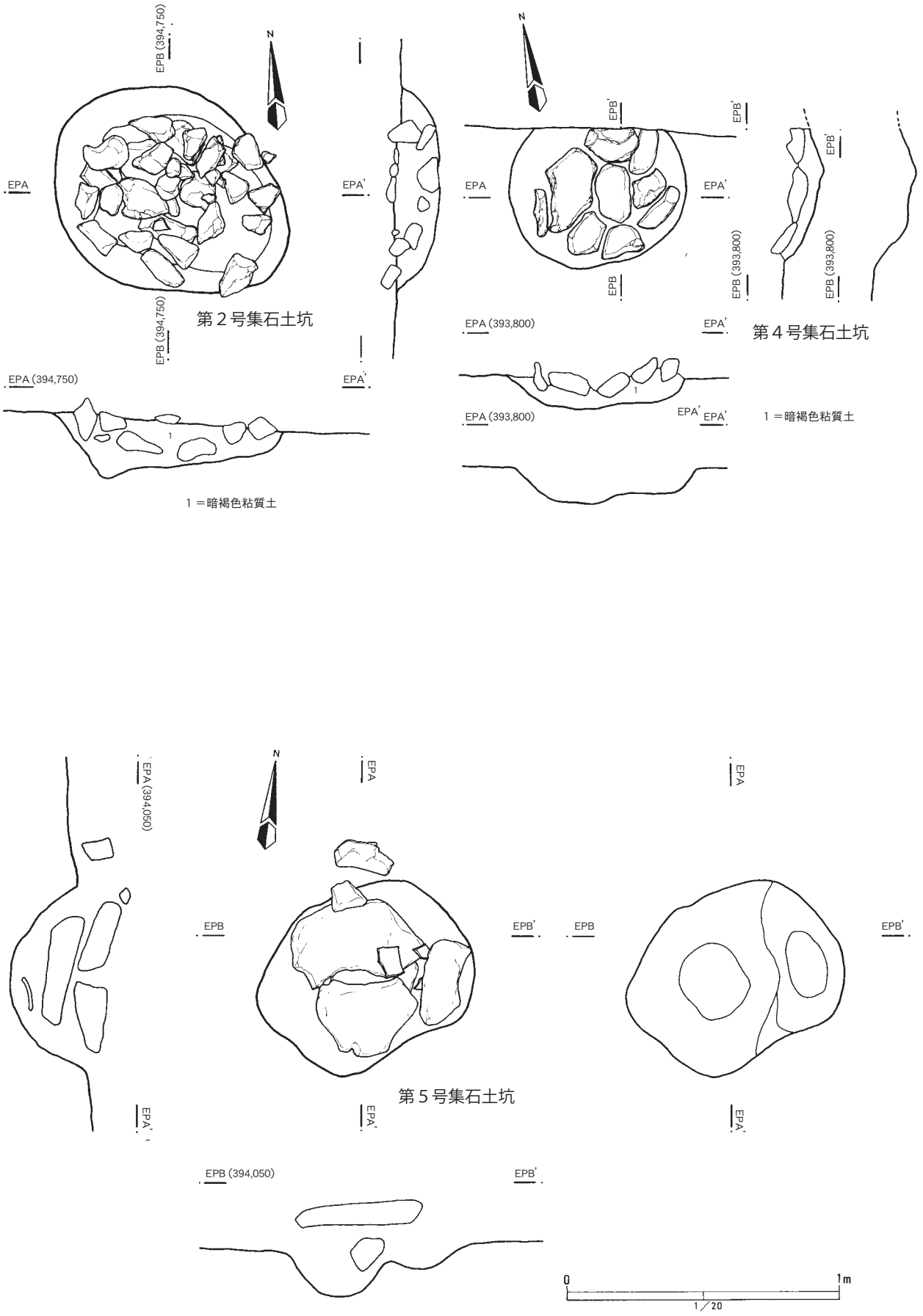
第24図　第34号~第39号土坑 Pit222~229



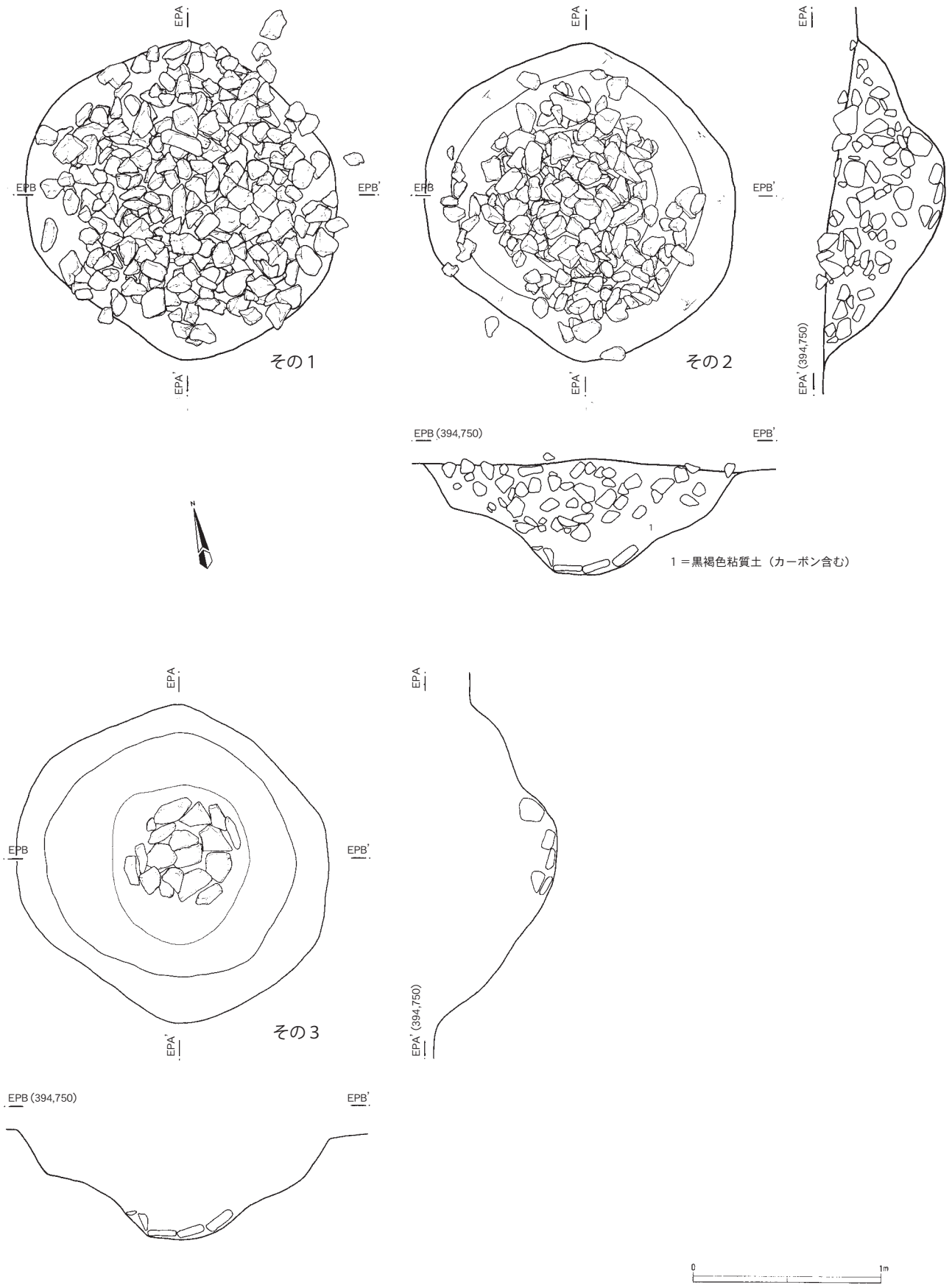
第25図　第５号地下式坑・Pit123、133~153、157、238



第26図　第１号集石土坑



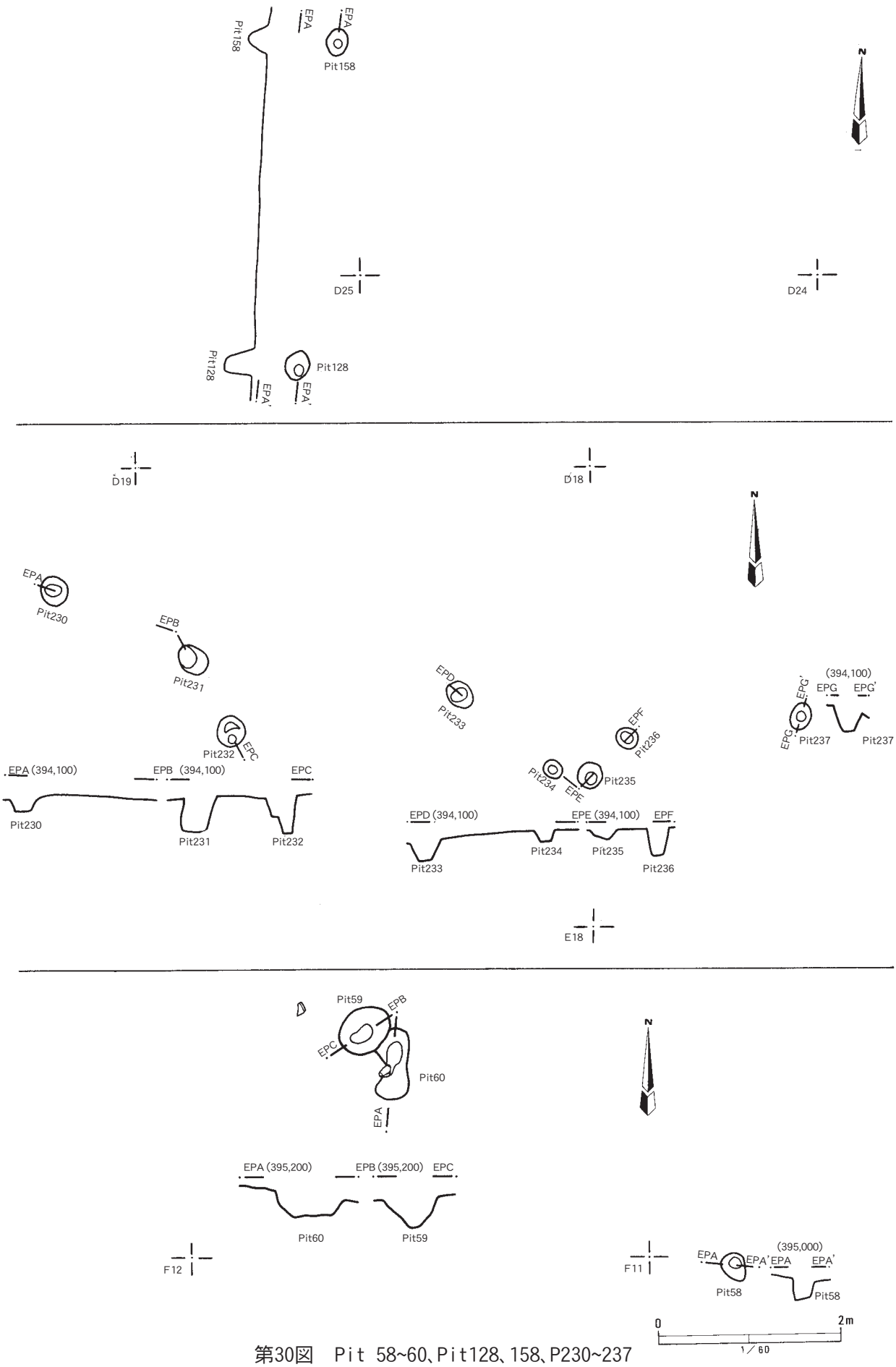
第27図　第２号・４号・５号集石土坑



第28図　第３号集石土坑

EPA (394,350)
EPA
EPA'
EPB
EPB'
EPC
EPC'
N
0
1m
1／20
EPB (394,350)
EPB'
EPC (394,350)
EPC'

第29図　第１号集石



第30図　Pit 58~60、Pit128、158、P230~237

第１表　土坑・ピット一覧表（1）

遺構名	位置（グリッド）	平面形	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	備　考／その他
1号土坑	D-4	半円形	1.12	0.80	0.23	1号溝状遺構と重複
2号土坑	D-6	円　形	1.21	1.06	0.36	
3号土坑	E-5	円　形	1.05	1.03	0.20	
4号土坑	E-5	不整円形	1.26	1.00	0.65	
5号土坑	E-6	円　形	1.05	1.00	0.34	
6号土坑	B･C-10	楕円形	1.58	0.62	0.15	
7号土坑	C-10	不整円形	(1.32)	0.60	0.36	
8号土坑	C-11	—	—	—	—	5号集石土坑とする
9号土坑	F-11	方　形	1.10	0.70	0.18	古銭5枚出土：墓坑？
10号土坑	E-12	円　形	0.76	0.75	0.68	
11号土坑	F-13･14	方　形	1.45	1.20	0.25	
12号土坑	F-14	楕円形	1.75	1.24	0.24	
13号土坑	C-14	不整円形	0.60	0.54	0.30	
14号土坑	C-15	半円形	0.92	—	0.69	土坑半分調査区外
15号土坑	C-18	半円形	0.80	—	0.67	土坑北側半分調査区外
16号土坑	F-26	半円形	1.30	—	0.45	土坑南側調査区外
17号土坑	F-25	不整楕円形	1.05	0.40	0.45	
18号土坑	E･F-26	不整円形	1.05	0.83	0.73	7号溝状遺構と重複
19号土坑	F-25	不整円形	0.90	0.70	0.42	
20号土坑	F-25	不整円形	0.60	0.45	0.58	
21号土坑	C-22	円　形	0.84	0.82	0.26	
22号土坑	C-21	不整円形	1.09	0.97	1.15	
23号土坑	D-23	不整円形	2.38	2.06	0.52	土師質土器
24号土坑	B-22	半円形	—	1.09	0.43	土坑南側32号土坑と重複
25号土坑	C-25	不整円形	0.73	0.51	0.16	
26号土坑	—	—	—	—	—	※欠番
27号土坑	E-20	不整円形	1.20	1.03	0.73	
28号土坑	E･D-20･21	不整円形	1.33	1.17	0.64	
29号土坑	F-19	不整楕円形	1.41	0.75	1.02	
30号土坑	F-18･19	楕円形	0.98	0.64	0.38	
31号土坑	E-17	楕円形	1.57	1.08	0.90	
32号土坑	B･D-22	不整円形	2.18	1.93	0.62	3号地下式土坑と重複
33号土坑	F-18	不整円形	0.59	0.54	0.49	
34号土坑	D-20	—	—	—	0.57	35･36･37号と土坑重複
35号土坑	D-19	—	—	—	0.60	34･36･37号と土坑重複
36号土坑	D-19	—	—	—	0.36	34･35･37号と土坑重複
37号土坑	D-19	—	—	—	0.74	34･35･36号と土坑重複
38号土坑	D-20	不整円形	0.89	0.67	1.05	
39号土坑	C-20	不整楕円形	1.50	0.63	0.30	
Pit1	D-14	楕円形	0.37	0.30	0.25	
Pit2	D-14	不整円形	0.30	0.25	0.17	
Pit3	D-14	楕円形	0.37	0.26	0.22	
Pit4	D-14	楕円形	0.54	0.29	0.24	Pit5と重複
Pit5	D-14	円　形	0.33	0.30	0.31	西側Pit4と重複
Pit6	D-14	不整円形	0.50	0.45	0.21	
Pit7	D-14	楕円形	0.42	0.30	0.42	
Pit8	D-14	不整円形	0.45	0.41	0.31	
Pit9	D-13･14	不整円形	0.43	0.28	0.17	
Pit10	D-13	不整円形	0.33	0.25	0.16	Pit11と重複
Pit11	D-13	不整円形	0.32	0.25	0.25	Pit10と重複
Pit12	E-13	楕円形	0.40	0.29	0.20	
Pit13	E-13	不整円形	0.35	0.27	0.17	
Pit14	F-13	楕円形	0.49	0.27	0.29	
Pit15	E-13	円　形	0.25	0.22	0.20	
Pit16	E-13	円　形	0.27	0.26	0.27	

第１表　土坑・ピット一覧表（2）

遺構名	位置（グリッド）	平面形	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	備　考／その他
Pit17	E-13	不整円形	0.62	0.45	0.40	
Pit18	E-13	不整形	—	—	0.34	Pit19･20 と重複
Pit19	E-13	不整形	—	—	0.24	Pit18･20 と重複
Pit20	D･E-13	不整形	—	—	0.20	Pit18･19 と重複
Pit21	E-13	円　形	0.31	0.25	0.22	
Pit22	D･E-13	楕円形	0.55	0.35	0.37	
Pit23	E-12	不整円形	0.25	0.18	0.24	
Pit24	E-12	不整円形	0.39	0.25	0.26	
Pit25	E-12	不整円形	0.45	0.28	0.52	
Pit26	E-13	不整円形	0.37	0.30	0.29	
Pit27	E-13	楕円形	0.47	0.35	0.51	
Pit28	E-13	楕円形	0.45	0.33	0.35	
Pit29	E-12	不整円形	0.32	0.22	0.26	Pit30 と重複
Pit30	E-12	不整円形	0.35	0.26	0.23	Pit29 と重複
Pit31	E-12	不整円形	0.39	0.30	0.17	
Pit32	E-12	円　形	0.25	0.24	0.34	
Pit33	E-12	不整円形	0.28	0.19	0.22	
Pit34	E-12	不整円形	0.31	0.29	0.30	
Pit35	E-12	楕円形	0.50	0.37	0.50	
Pit36	E-11	不整円形	0.37	0.30	0.37	
Pit37	E-11	不整円形	0.47	0.43	0.42	
Pit38	E-11	不整円形	0.50	0.45	0.32	
Pit39	E-11	不整形	—	—	0.28	Pit40 と重複
Pit40	E-11	不整形	—	—	0.22	Pit39 と重複
Pit41	E-11	不整円形	0.48	0.36	0.41	
Pit42	E-11	不　明	—	—	0.12	北側調査区外
Pit43	E-11	不整円形	0.33	0.31	0.29	
Pit44	E-11	楕円形	0.32	0.21	0.26	
Pit45	E-11	不整円形	0.32	0.27	0.14	
Pit46	E-11	不整円形	0.53	0.49	0.29	
Pit47	E-11	不整円形	0.35	0.28	0.46	
Pit48	E-11	不整円形	0.32	0.26	0.30	
Pit49	D･E-12	楕円形	0.44	0.37	0.36	
Pit50	E-12	不整円形	0.27	0.20	0.30	
Pit51	D･E-12	不整円形	0.37	0.28	0.53	
Pit52	D-13	楕円形	0.46	0.28	0.18	
Pit53	D-13	不整円形	0.45	0.26	0.20	
Pit54	D-13	不整円形	0.33	0.28	0.15	
Pit55	D-14	不整円形	0.40	0.36	0.22	
Pit56	F-12	不整円形	0.28	0.23	0.16	
Pit57	F-12	不整円形	0.34	0.27	0.14	
Pit58	F-10	不整円形	0.33	0.25	0.27	
Pit59	E-11	不整円形	0.61	0.46	0.36	Pit60 と重複
Pit60	E-11	不整円形	0.76	0.24	0.30	Pit59 と重複
Pit61	E-14	不整円形	0.42	0.35	0.57	
Pit62	C-20	不　明	0.45	—	0.45	北側調査区外
Pit63	C-20	不　明	—	—	0.48	北側調査区外
Pit64	C-20	不整楕円形	0.45	0.17	0.48	
Pit65	C-20	楕円形	0.40	0.25	0.15	
Pit66	C-20	不　明	0.38	—	0.25	Pit67 と重複
Pit67	C-20	不整円形	0.35	—	0.30	Pit66 と重複
Pit68	C-20	楕円形	0.50	0.25	0.23	
Pit69	C-20	不整円形	0.25	0.17	0.26	
Pit70	C-20	楕円形	0.42	0.30	0.10	
Pit71	C-20	楕円形	0.33	0.20	0.32	
Pit72	C-20	不　明	0.34	—	0.45	Pit73 と重複

第１表　土坑・ピット一覧表（3）

遺構名	位置（グリッド）	平面形	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	備　考／その他
Pit73	C-19･20	不　明	0.27	—	0.16	Pit72 と重複
Pit74	C-19･20	楕円形	0.32	0.22	0.34	
Pit75	C-19	ほぼ円形	0.20	—	0.22	Pit76 と重複
Pit76	C-19	不整円形	0.40	0.29	0.29	Pit75 と重複
Pit77	C-19	楕円形	0.33	0.25	0.25	
Pit78	C-19	楕円形	0.47	0.12	0.29	
Pit79	C-19	円　形	0.29	0.25	0.20	
Pit80	C-19	ほぼ楕円形	0.30	—	0.20	北側調査区外
Pit81	C-19	ほぼ円形	0.49	—	0.30	北側調査区外
Pit82	C-19	円　形	0.38	0.30	0.25	
Pit83	C-19	不　明	0.40	—	0.35	４号溝状遺構と重複
Pit84	C-19	不整円形	0.37	0.30	0.51	
Pit85	C-19	不整円形	0.35	0.28	0.25	
Pit86	C-19	不整円形	0.43	0.32	0.43	
Pit87	C-19	円　形	0.37	0.35	0.25	
Pit88	C-18	円　形	0.42	0.32	0.26	Pit89 と重複
Pit89	C-18	不整円形	0.34	0.26	0.41	Pit88 と重複
Pit90	C-18	楕円形	0.54	0.31	0.22	
Pit91	C-18	楕円形	0.49	0.22	0.41	
Pit92	C-18	楕円形	0.50	0.29	0.25	
Pit93	C-18	円　形	0.28	0.24	0.19	
Pit94	C-17	楕円形	0.38	0.28	0.44	
Pit95	C-17	不整円形	0.30	0.23	0.10	
Pit96	C-17	楕円形	0.54	0.45	0.30	
Pit97	C-17	不整楕円形	0.62	0.45	0.37	
Pit98	C-17	楕円形	0.37	0.29	0.26	
Pit99	C-17	ほぼ円形	0.34	0.30	0.22	Pit100 と重複
Pit100	C-17	楕円形	0.45	0.28	0.22	Pit99 と重複
Pit101	C-18	ほぼ円形	0.25	0.24	0.17	Pit102 と重複
Pit102	C-18	不整円形	0.25	0.21	0.16	Pit101･103 と重複
Pit103	C-18	不整円形	0.40	0.35	0.35	Pit102 と重複
Pit104	C-17･18	楕円形	0.51	0.35	0.33	
Pit105	C-17	ほぼ円形	0.35	0.33	0.19	Pit106 と重複
Pit106	C-17	不整円形	0.36	0.28	0.28	Pit105 と重複
Pit107	C-17	楕円形	0.35	0.26	0.33	
Pit108	C-17	円　形	0.25	0.20	0.26	
Pit109	C-17	円　形	0.33	0.28	0.27	
Pit110	C-17	半円形	0.37	—	0.25	北側調査区外
Pit111	C-17	楕円形	0.42	0.35	0.39	
Pit112	C-16	不整円形	0.28	0.18	0.29	
Pit113	G-26	楕円形	0.25	0.20	0.52	
Pit114	F-26	不整円形	0.23	0.15	0.20	16 号土坑と重複
Pit115	F-26	円　形	0.25	0.23	0.36	
Pit116	F-26	円　形	0.37	0.35	0.65	
Pit117	F-26	円　形	0.25	0.23	0.40	
Pit118	F-25	円　形	0.36	0.30	0.30	
Pit119	F-25	円　形	0.25	0.20	0.41	
Pit120	F-25	不整円形	0.45	0.39	0.47	
Pit121	E-25	不整円形	0.33	0.26	0.37	
Pit122	E-25	不整円形	0.22	0.17	0.41	
Pit123	D-24	円　形	0.35	0.30	0.50	
Pit124	D･E-25	楕円形	0.25	0.21	0.21	
Pit125	E-25	不　明	0.37	—	0.44	Pit126 と重複
Pit126	E-25	不　明	0.28	—	0.37	Pit125 と重複
Pit127	D-26	円　形	0.32	0.26	0.43	
Pit128	D-25	楕円形	0.34	0.22	0.32	

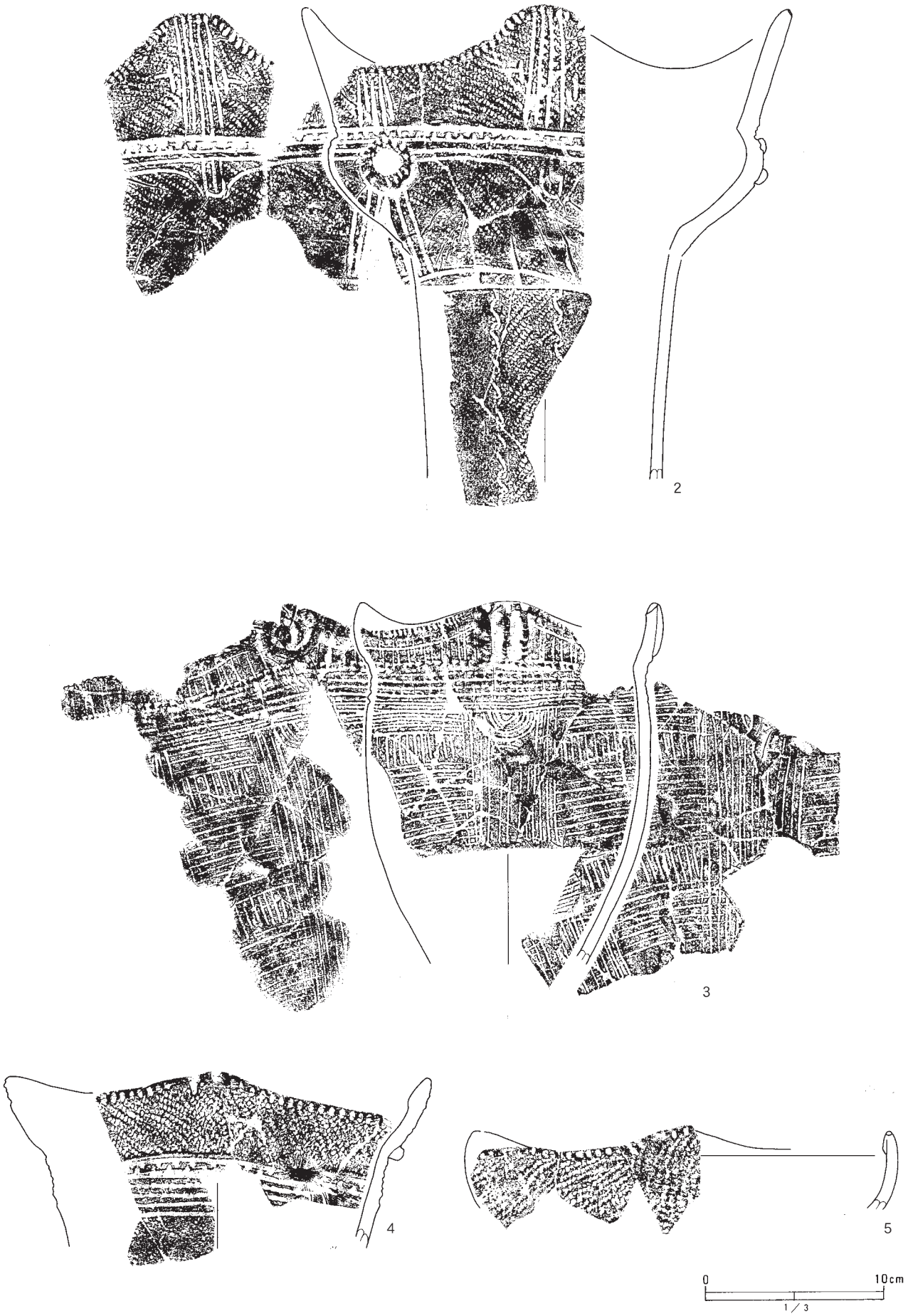
第１表　土坑・ピット一覧表（4）

遺構名	位置（グリッド）	平面形	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	備　考／その他
Pit129	E-25	方　形	0.42	0.32	0.31	
Pit130	E-25	円　形	0.23	0.22	0.22	
Pit131	E-25	不整円形	0.32	0.26	0.25	
Pit132	E-25	不整円形	0.33	0.27	0.20	
Pit133	E-24・25	不整円形	0.33	0.26	0.21	
Pit134	E-24	円　形	0.26	0.24	0.14	Pit135 と重複
Pit135	E-24	不整円形	0.27	0.20	0.14	Pit134 と重複
Pit136	E-24	楕円形	0.32	0.24	0.20	
Pit137	E-24	楕円形	0.28	0.20	0.25	
Pit138	E-24	円　形	0.30	0.28	0.28	
Pit139	E-24	不整円形	0.40	0.24	0.34	
Pit140	F-24	円　形	0.20	0.17	0.35	
Pit141	F-24・25	不整円形	0.18	0.12	0.22	
Pit142	F-24・25	円　形	0.11	0.10	0.15	
Pit143	F-24・25	不整円形	0.26	0.18	0.20	
Pit144	F-24・25	円　形	0.22	0.20	0.19	
Pit145	F-24	円　形	0.12	0.10	0.18	
Pit146	F-24	楕円形	0.60	0.20	0.38	
Pit147	F-24	不整円形	0.35	0.20	0.38	
Pit148	F-24	楕円形	0.47	0.11	0.35	
Pit149	E・F-24	不整円形	0.60	0.36	0.38	
Pit150	E-24	楕円形	0.38	0.22	0.36	
Pit151	E-24	不整円形	0.31	0.28	0.30	
Pit152	E-24	不整円形	0.28	0.20	0.15	
Pit153	E-24	不整円形	0.42	0.28	0.19	
Pit154	E-23	不整円形	0.31	0.25	0.21	
Pit155	F-23	不整円形	0.31	0.25	0.50	
Pit156	F-23	不整円形	0.35	0.20	0.35	
Pit157	F-24	円　形	0.52	0.43	0.76	
Pit158	C-25	楕円形	0.30	0.19	0.21	
Pit159	G-26	楕円形	0.29	0.20	0.54	
Pit160	E-25	円　形	0.22	0.21	0.19	
Pit161	E・F-25	楕円形	0.40	0.30	0.30	
Pit162	F-25	円　形	0.26	0.23	0.36	
Pit163	F-23	円　形	0.20	0.18	0.32	
Pit164	F-22・23	円　形	0.31	0.29	0.44	
Pit165	F-22	不整円形	0.39	0.33	0.13	
Pit166	F-22	円　形	0.27	0.24	0.32	
Pit167	F-22	円　形	0.34	0.30	0.36	
Pit168	F-22	不整円形	0.44	0.40	0.15	
Pit169	F-22	不整円形	0.28	0.23	0.31	
Pit170	F-22	不整円形	0.29	0.22	0.20	
Pit171	F-22	不整円形	0.28	0.25	0.31	
Pit172	E・F-23	楕円形	0.61	0.40	0.26	
Pit173	E-23	不整円形	0.25	0.19	0.28	
Pit174	E-23	不整円形	0.43	0.38	0.40	
Pit175	E-25	円　形	0.32	0.23	0.61	
Pit176	D-12	不整円形	0.32	0.27	0.10	
Pit177	D-12	楕円形	0.60	0.27	0.22	
Pit178	F-25	楕円形	0.36	0.26	0.37	
Pit179	F-16	円　形	0.26	0.24	0.35	
Pit180	D-23	円　形	0.36	0.31	0.24	
Pit181	D-23	不整円形	0.29	0.20	0.17	23 号土坑と重複
Pit182	C-23	楕円形	0.53	0.30	0.15	
Pit183	C-23	楕円形	0.45	0.34	0.40	
Pit184	C-22	円　形	0.23	0.19	0.44	

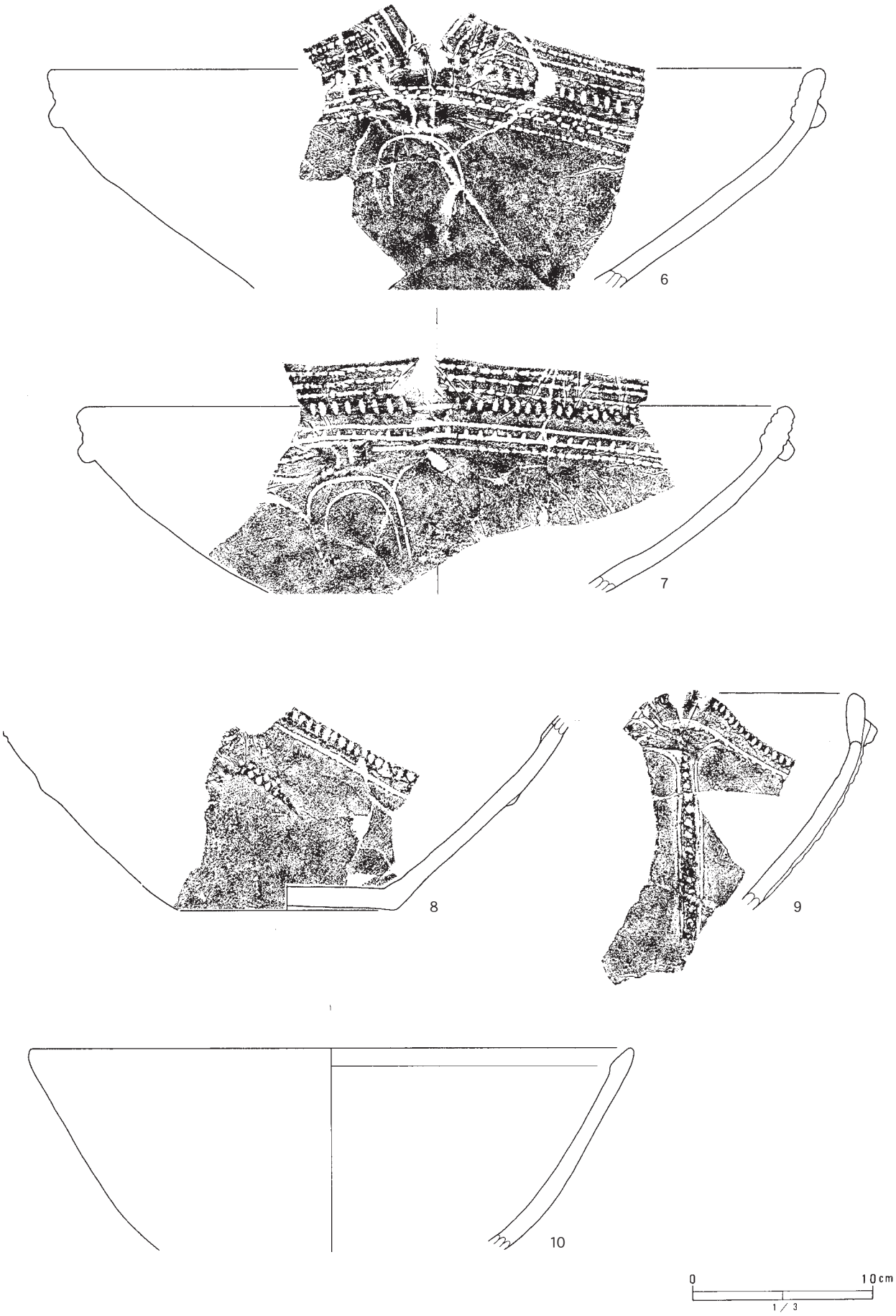
第１表　土坑・ピット一覧表（5）

遺構名	位置（グリッド）	平面形	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	備　考／その他
Pit185	C-21	円形	0.25	0.23	0.33	
Pit186	C-21	円形	0.25	0.18	0.21	
Pit187	C-21	円　形	0.18	0.15	0.12	
Pit188	D-22	円　形	0.18	0.15	0.16	
Pit189	D-22	円　形	0.23	0.20	0.18	
Pit190	D-22	円　形	0.31	0.24	0.40	
Pit191	C-21・22	ほぼ円形	0.30	(0.20)	0.32	Pit 東側不明
Pit192	D-21	楕円形	0.28	0.17	0.16	
Pit193	D-21	楕円形	0.27	0.15	0.16	
Pit194	D-21	不　明	—	—	0.44	Pit195 と重複
Pit195	D-21	不　明	—	—	0.17	Pit194 と重複
Pit196	D-21	楕円形	0.40	0.24	0.35	
Pit197	D-21	ほぼ円形	0.30	0.28	0.30	
Pit198	D-21	楕円形	0.40	0.26	0.45	
Pit199	E-22	不整円形	0.35	0.23	0.53	
Pit200	E-22	楕円形	0.50	0.40	0.41	
Pit201	E-22	円　形	0.37	0.35	0.31	
Pit202	F-22	不整円形	0.25	0.19	0.28	
Pit203	F-22	不　明	0.38	0.29	0.11	Pit204 と重複
Pit204	F-22	不整円形	0.66	0.55	0.20	Pit203 と重複
Pit205	F-22	円　形	0.26	0.25	0.18	
Pit206	F-22	円　形	0.33	0.30	0.14	
Pit207	F-22	楕円形	0.30	0.20	0.20	
Pit208	F-22	楕円形	0.35	0.25	0.19	
Pit209	F-21	ほぼ円形	0.52	0.37	0.16	
Pit210	F-21	ほぼ円形	0.30	0.27	0.21	
Pit211	F-21	不整楕円形	0.65	0.35	0.30	
Pit212	F-21	楕円形	0.55	0.35	0.51	
Pit213	F-21	楕円形	0.45	0.33	0.16	
Pit214	E-21	不整円形	0.30	0.25	0.34	
Pit215	E-21	円　形	0.40	0.35	0.35	
Pit216	E-20・F-21	円　形	0.28	0.26	0.14	
Pit217	F-20	円　形	0.34	0.26	0.25	
Pit218	E-21	円　形	0.30	0.25	0.67	
Pit219	F-22	不　明	—	—	0.28	南側調査区域外
Pit220	F-22	不整円形	0.30	0.24	0.35	
Pit221	F-22	不　明	—	—	0.32	南側調査区域外
Pit222	D-20	楕円形	0.38	0.16	0.48	
Pit223	D-20	楕円形	0.48	0.30	0.20	
Pit224	C-20	円　形	0.29	0.26	0.25	
Pit225	D-20	円　形	0.30	0.25	0.24	
Pit226	C-20	不整円形	0.32	0.28	0.35	Pit227 と重複
Pit227	C-20	円　形	0.28	0.24	0.22	Pit226 と重複
Pit228	D-20	不整円形	0.24	0.15	0.21	
Pit229	D-20	円　形	0.19	0.16	0.15	
Pit230	D-19	不整円形	0.34	0.26	0.18	
Pit231	D-18	不整円形	0.37	0.23	0.38	
Pit232	D-18	円　形	0.34	0.28	0.45	
Pit233	D-18	不整円形	0.32	0.25	0.27	
Pit234	D-18	円　形	0.21	0.19	0.13	
Pit235	D-17・18	不整円形	0.29	0.25	0.11	
Pit236	D-17	円　形	0.26	0.22	0.31	
Pit237	D-17	楕円形	0.30	0.23	0.30	
Pit238	D-24	円　形	0.23	0.20	0.17	

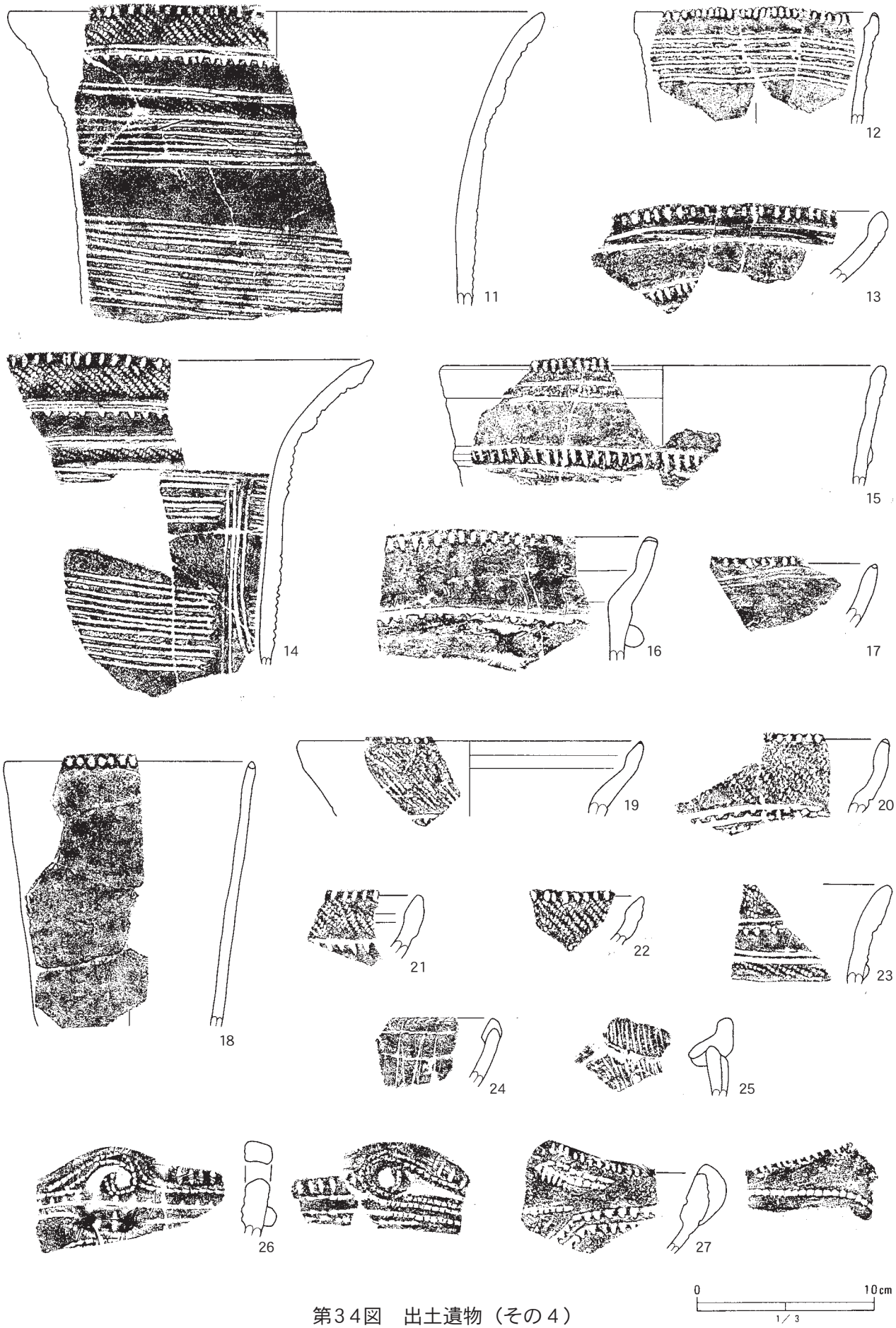
第31図　出土遺物（その１）



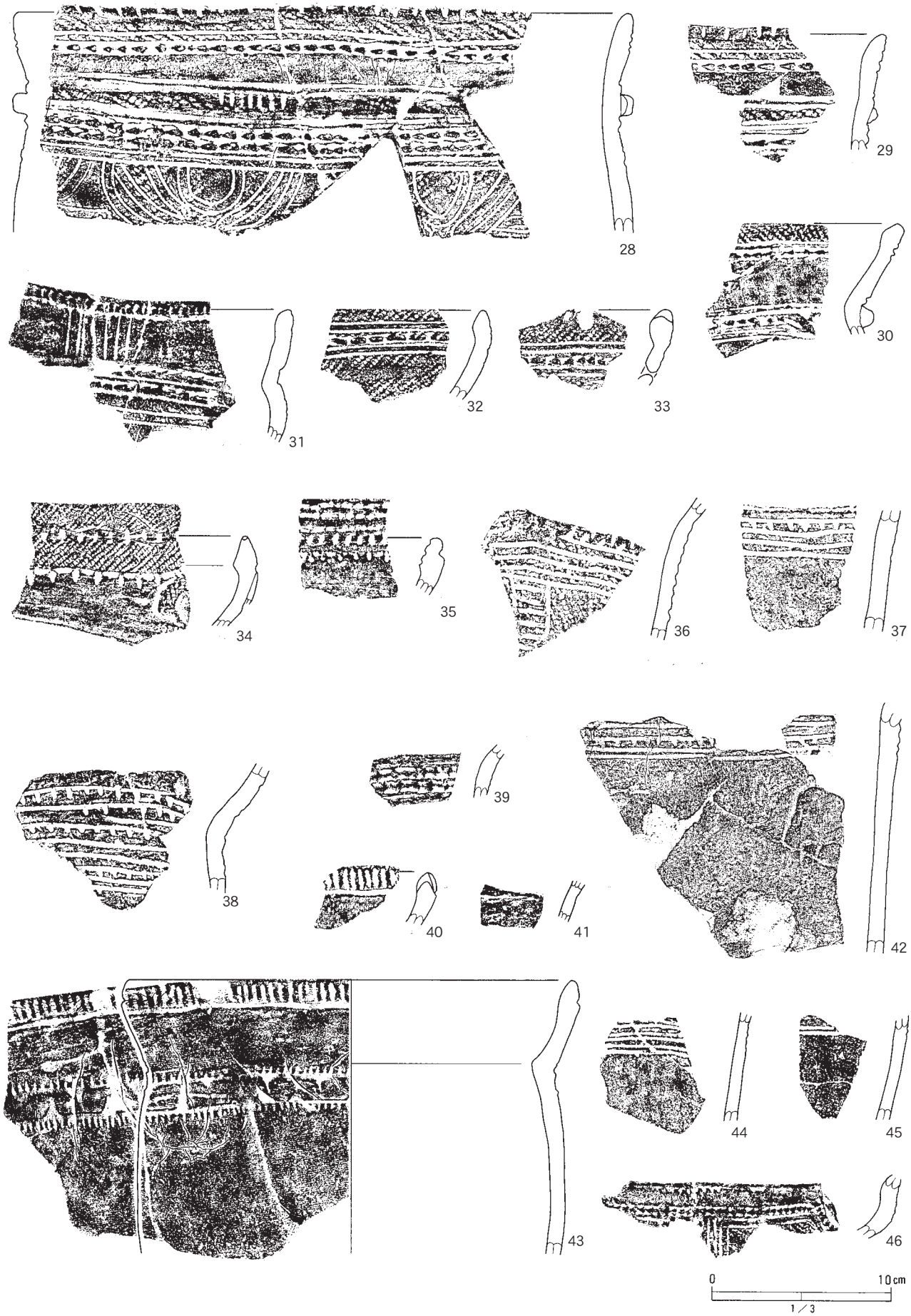
第32図　出土遺物（その２）



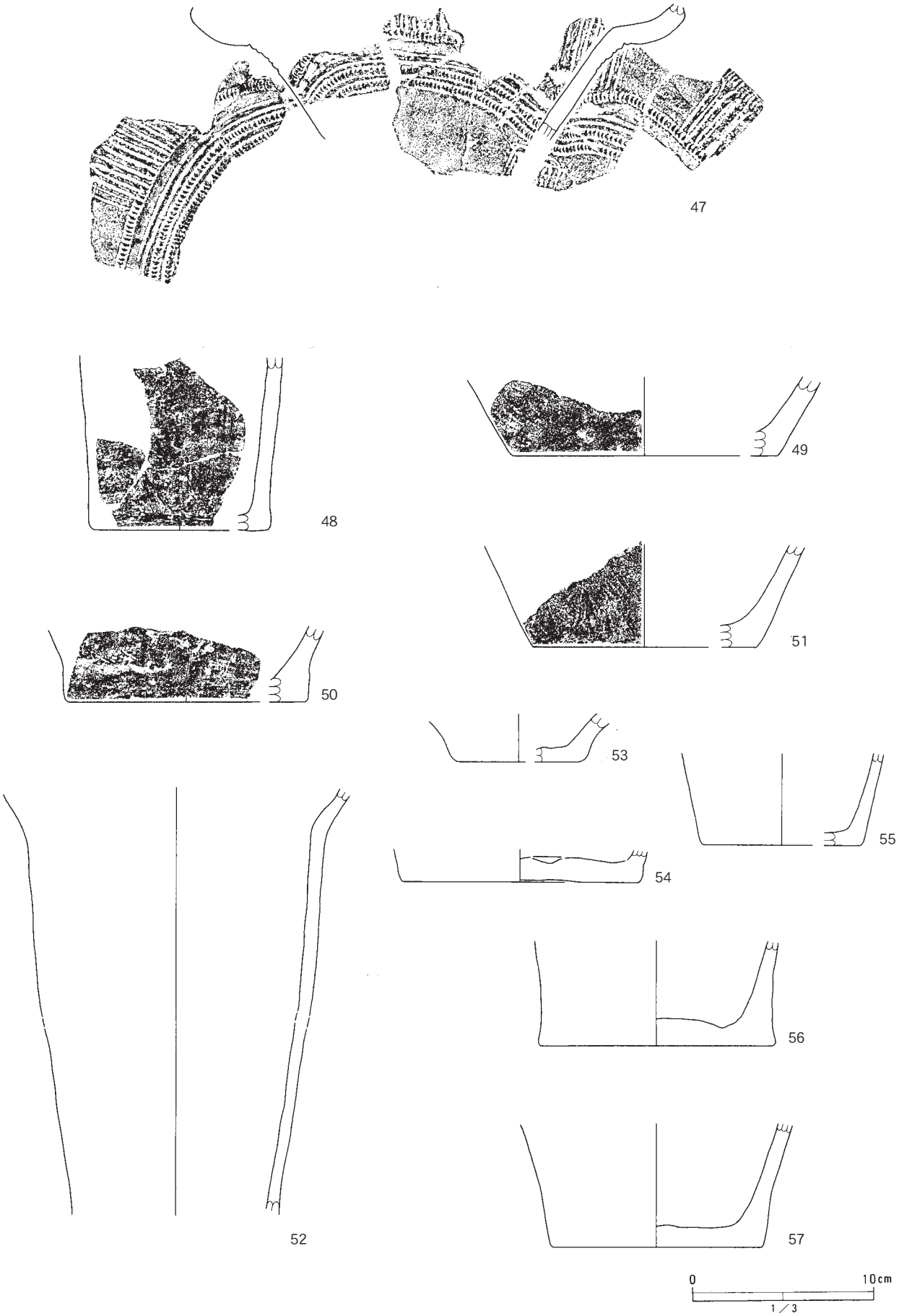
第３３図　出土遺物（その３）



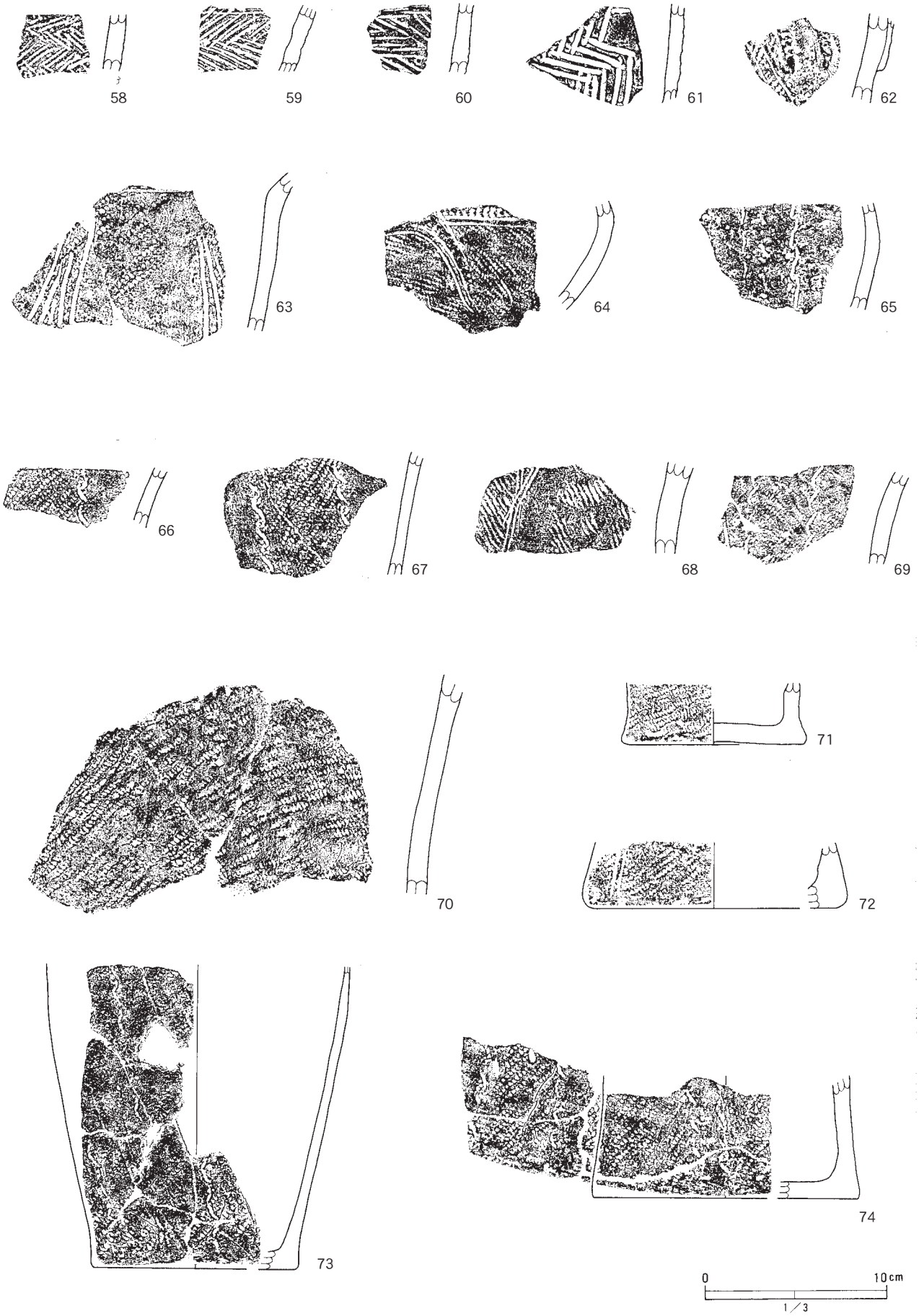
第３４図　出土遺物（その４）



第35図　出土遺物（その５）

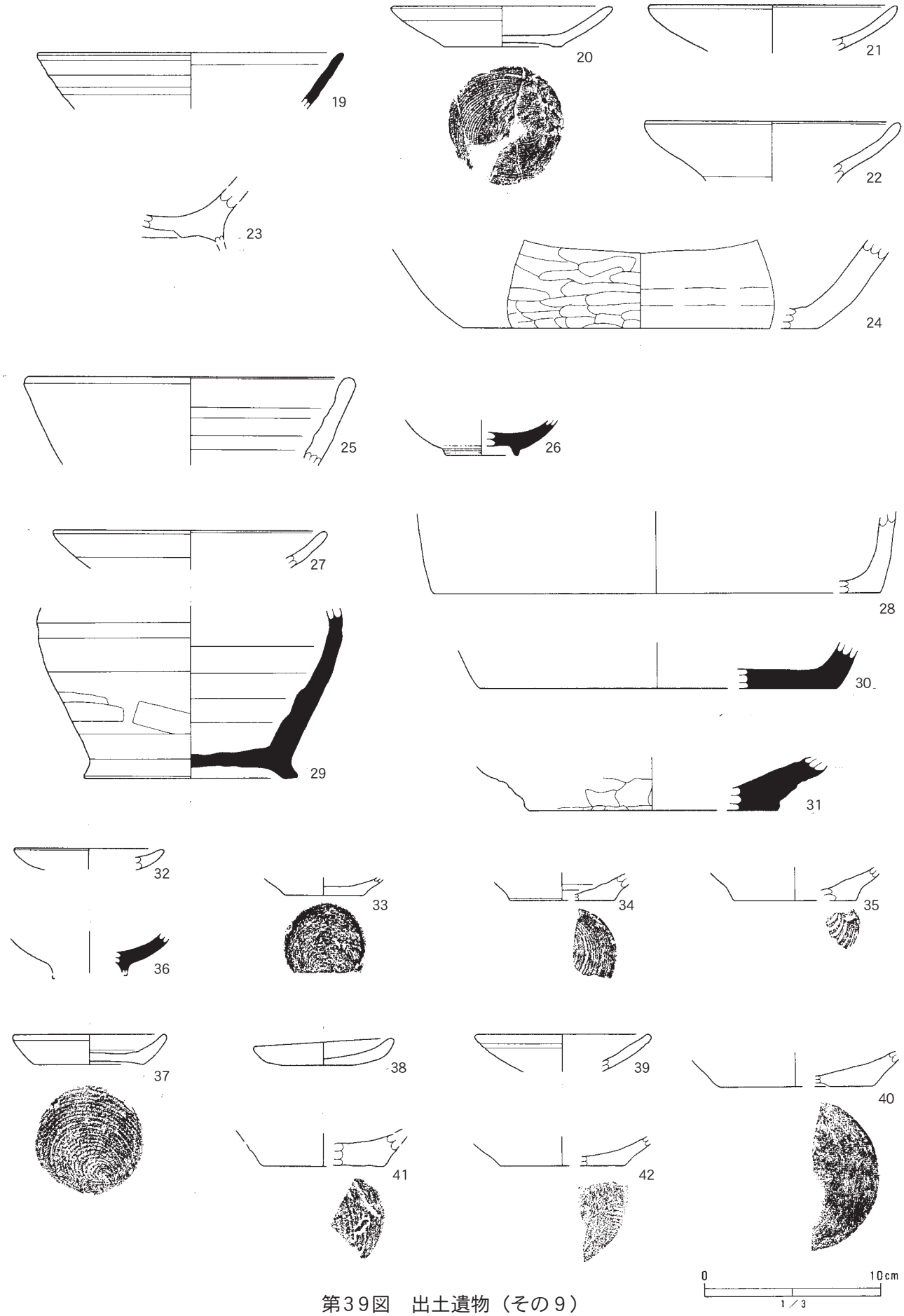


第36図　出土遺物（その６）

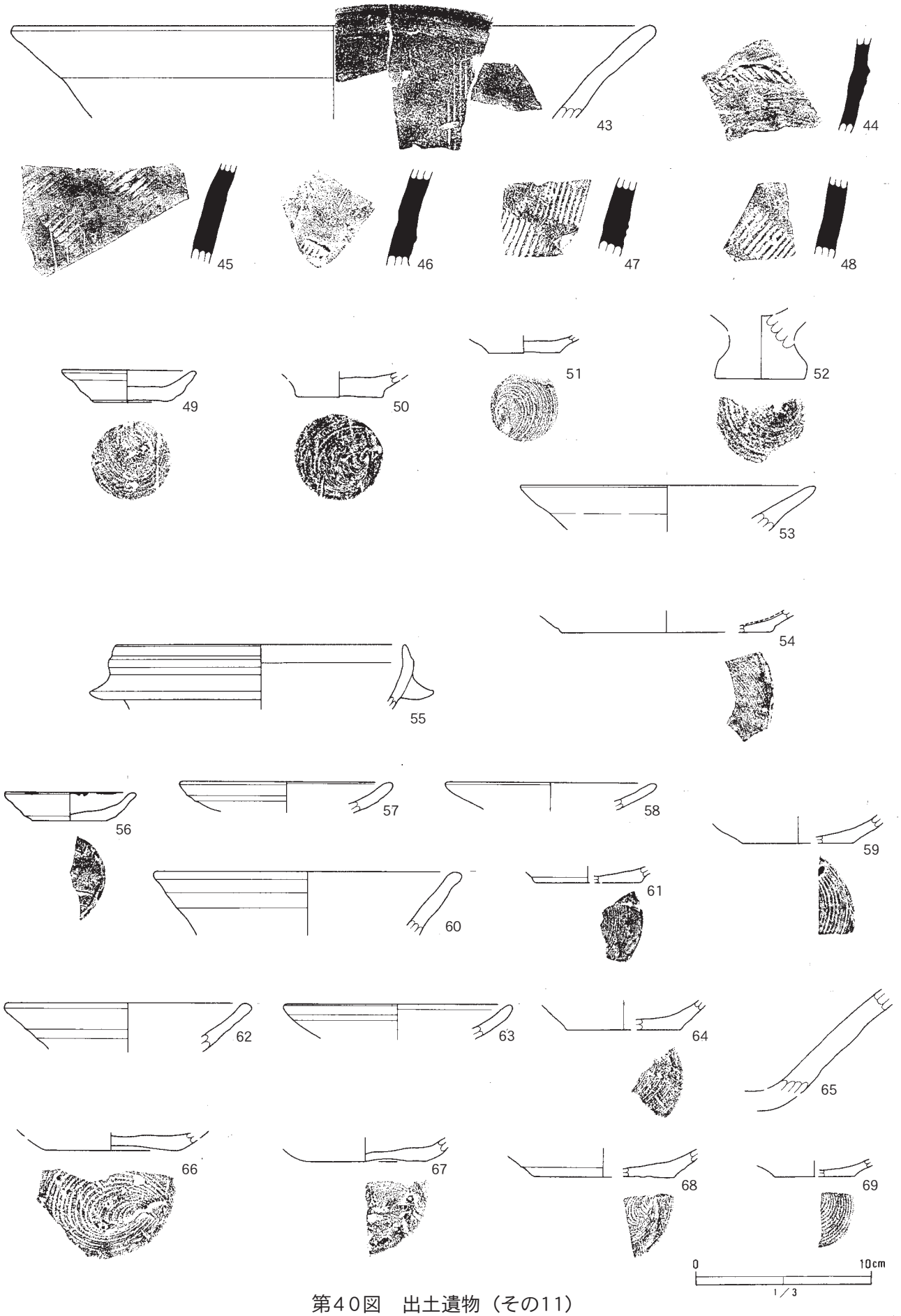


第37図　出土遺物（その７）

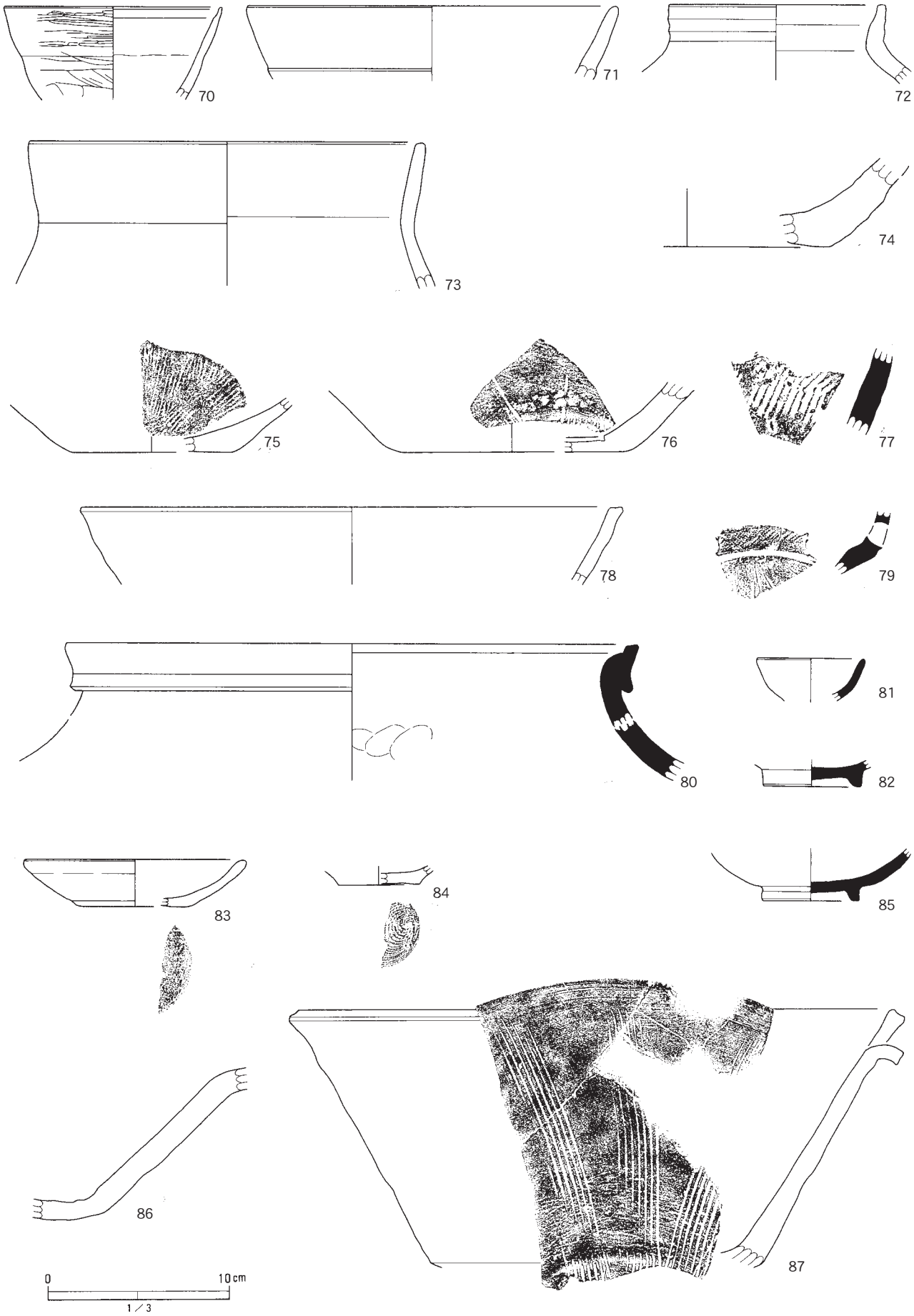
第38図　出土遺物（その８）



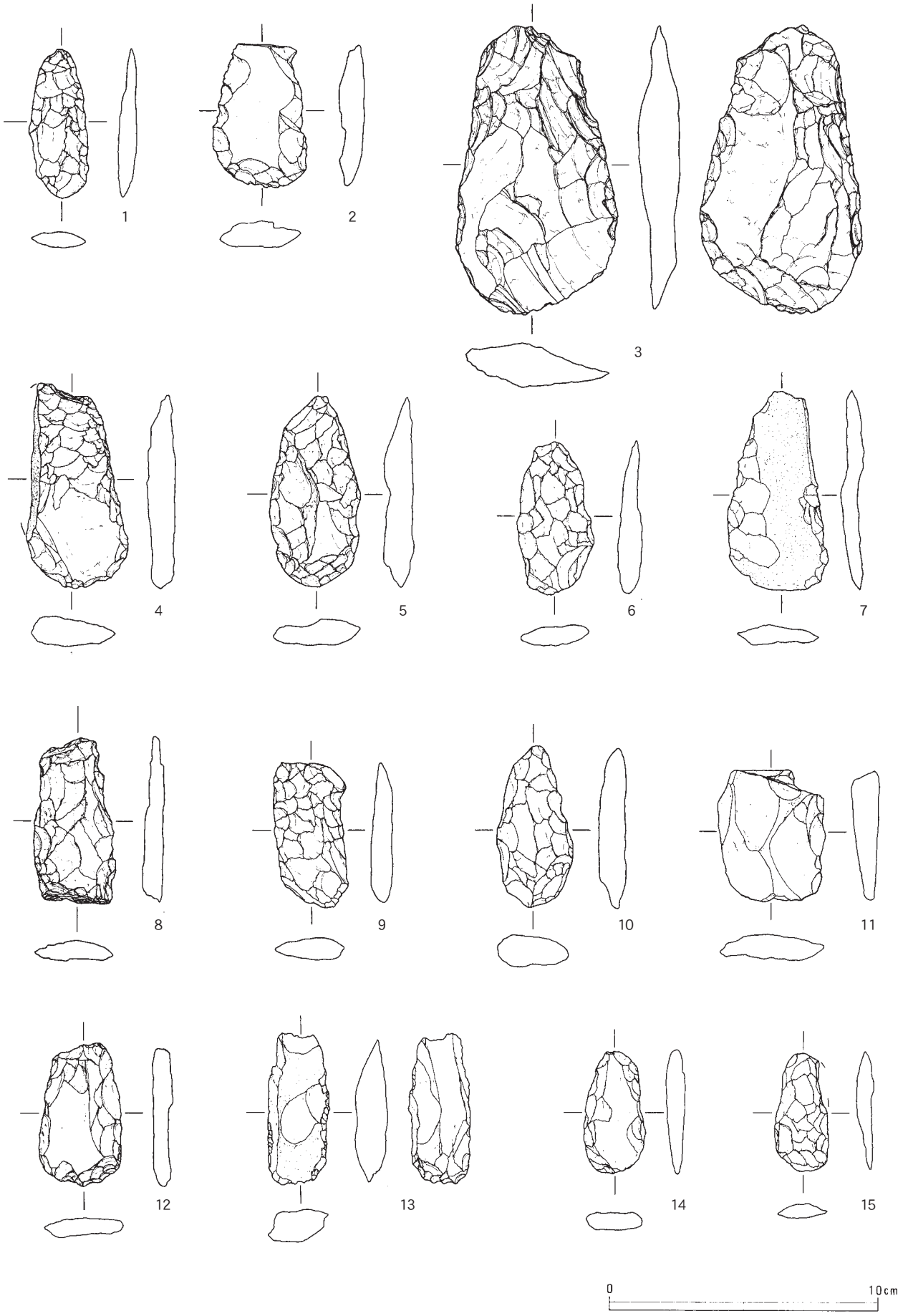
第39図　出土遺物（その９）



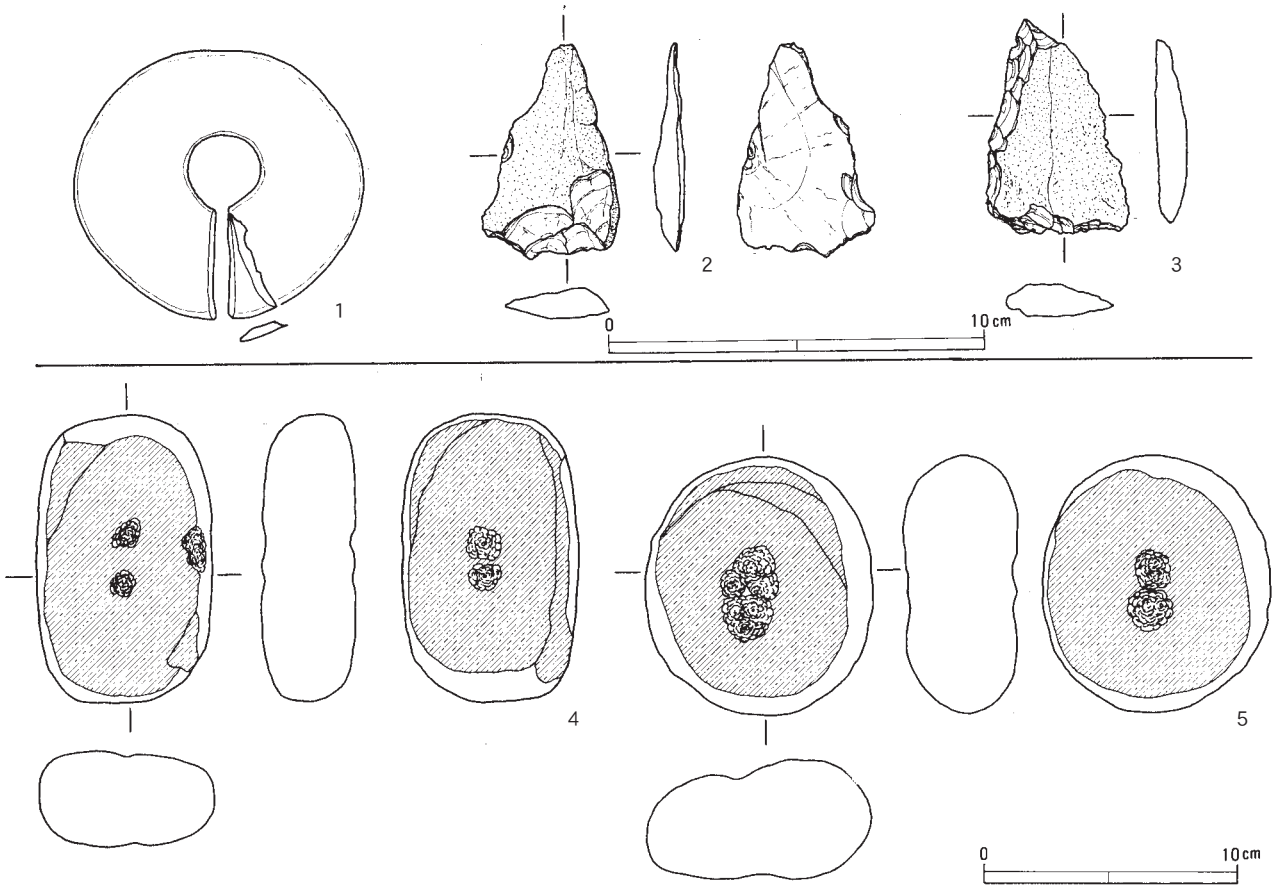
第４０図　出土遺物（その11）



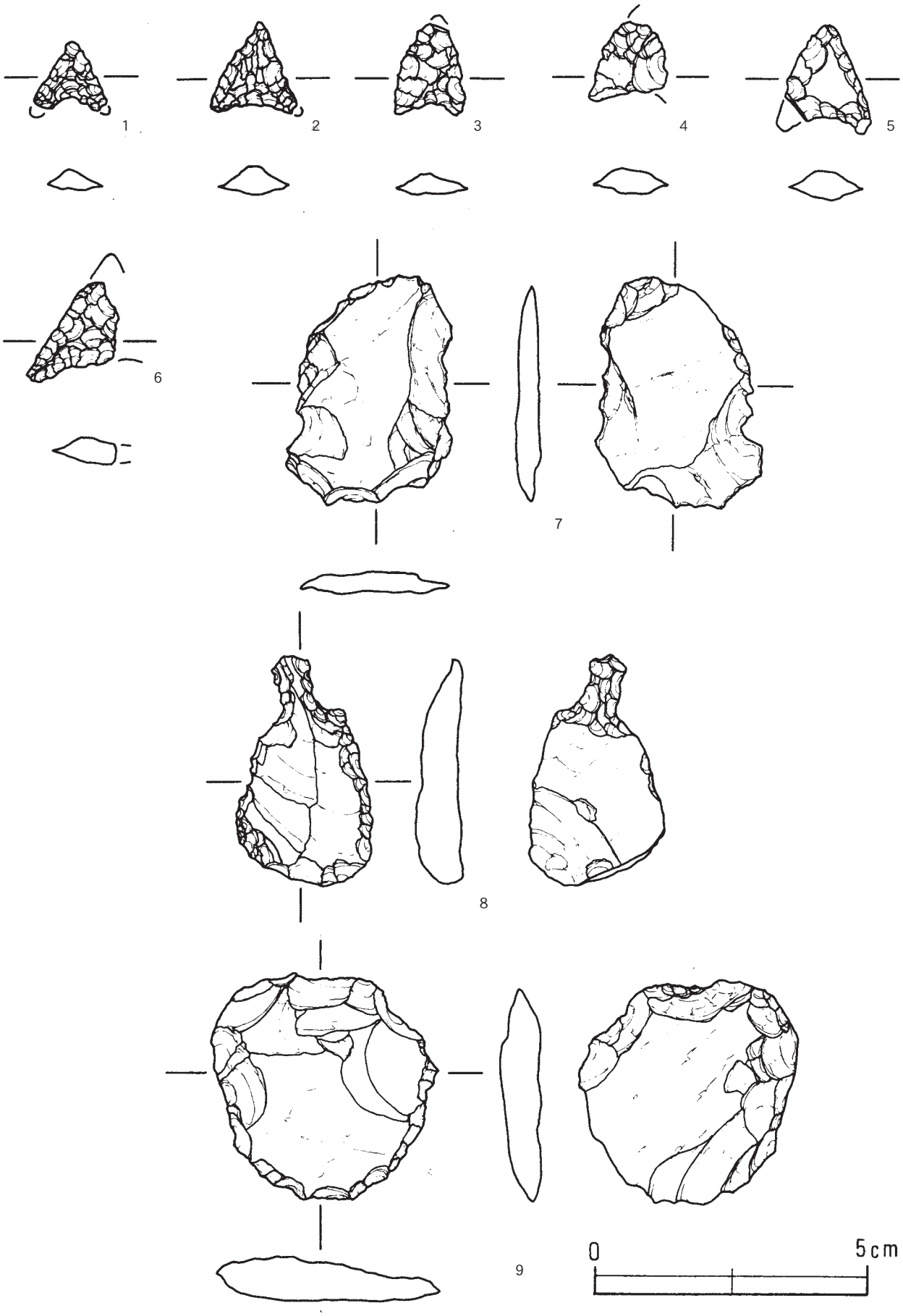
第41図　出土遺物（その12）



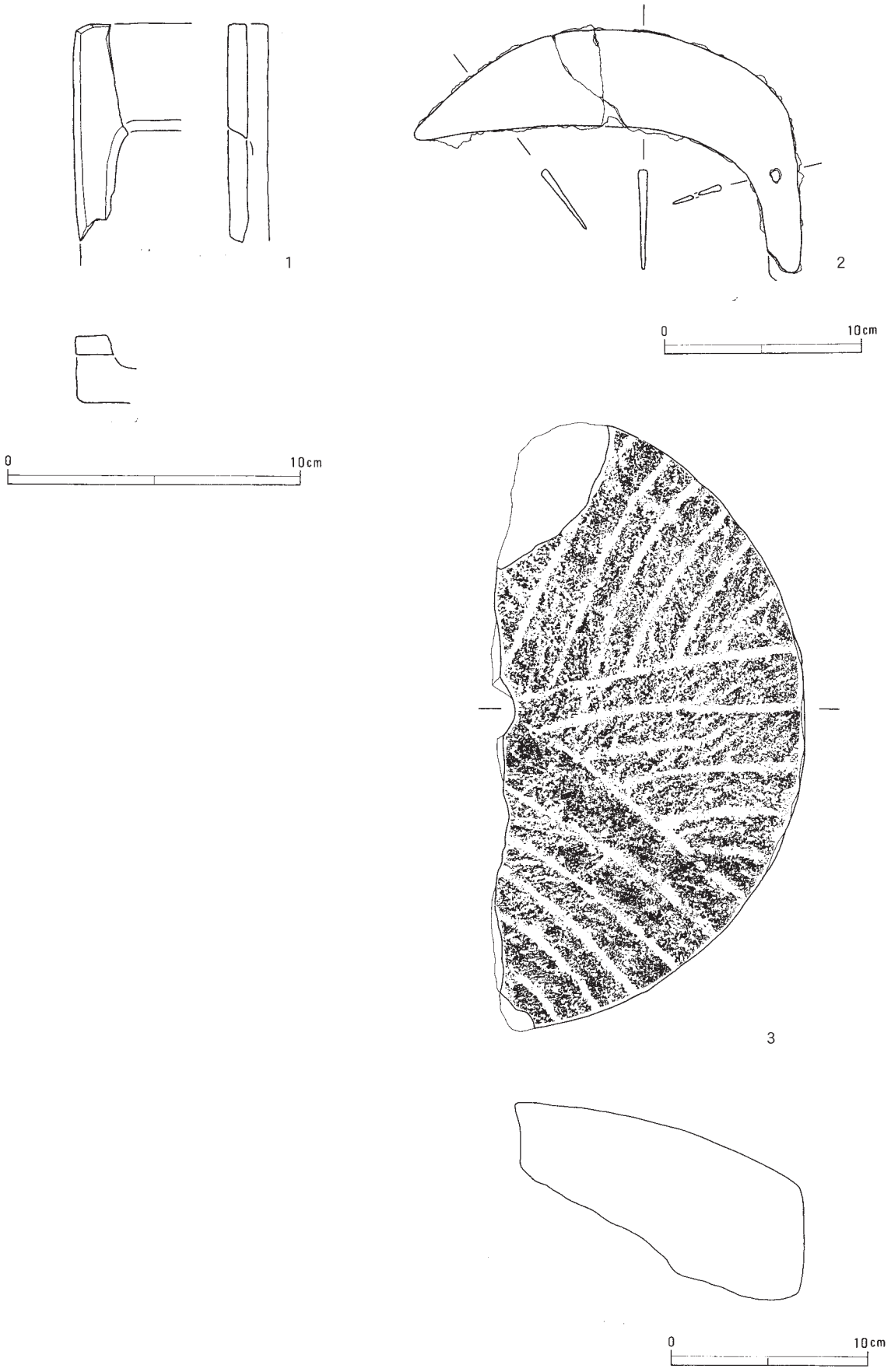
第42図　出土遺物（その13）石器



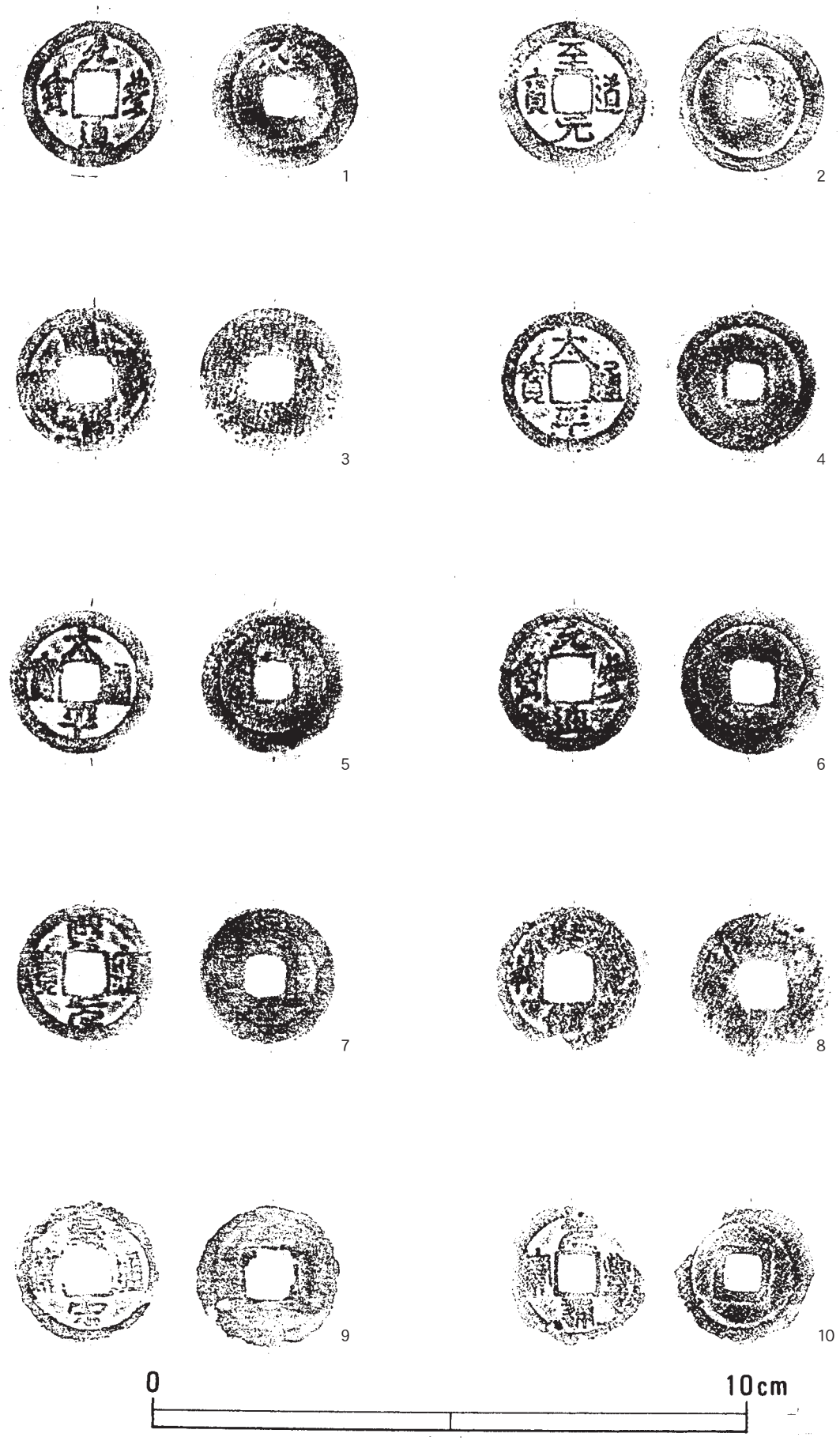
第43図　出土遺物（その14）石器・石製品



第44図　出土遺物（その15）石器



第４５図　出土遺物（その16）その他の遺物



第46図　出土遺物（その17）古銭

第２表　土器観察表（１）

図版番号	挿図番号	遺構名	遺物番号	種　別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	胎　土	焼成	時　代	時　期	備　考
31	1	１号住居跡	424/717/725/728/810/797/810/824/867/830/865/916/957	土　器	深鉢	(35.6)	(45.8)	(14.0)	褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
32	2	１号住居跡	209/210/305/414/506/507/580/766/912/	土　器	深鉢	(27.0)	(26.1)	(10.2)	暗褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
32	3	１号住居跡	422/625/683/825/863/864	土　器	深鉢	(16.4)	(20.0)	-	暗褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
32	4	１号住居跡	520/665/959/D-21 一括	土　器	深鉢	(23.0)	9.4	-	暗褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
32	5	１号住居跡	31/367/420	土　器	深鉢	(23.0)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
33	6	１号住居跡	345/348/388/417/433/525	土　器	浅鉢	(42.6)	(12.0)	-	赤褐色	砂粒・雲母（緻密）	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
33	7	１号住居跡	343/416/417/775/D-22 一括	土　器	浅鉢	(38.6)	(10.2)	-	にぶい赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
33	8	１号住居跡	217/228/412/413	土　器	浅鉢	-	10.7	(12.0)	褐色	白色粒子・雲母・砂粒	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
33	9	１号住居跡	313/319	土　器	浅鉢	-	11.9	-	赤褐色	雲母・石英	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
33	10	１号住居跡	434/690/632/451/444/435/431/627/708	土　器	浅鉢	(33.2)	(11.2)	-	褐色	雲母・石英・砂粒	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	11	１号住居跡	765	土　器	深鉢	(29.8)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	12	１号住居跡	836/888/927	土　器	深鉢	(13.6)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	13	１号住居跡	505/511/570	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	14	１号住居跡	776	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	15	１号住居跡	611/614/853	土　器	深鉢	(24.6)	-	-	外：黒褐色、内：褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	16	１号住居跡	533	土　器	深鉢	-	-	-	赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	17	１号住居跡	220	土　器	深鉢	-	-	-	赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	18	１号住居跡	318/329/347/537/687	土　器	深鉢	(14.0)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ代Ⅱ
34	19	１号住居跡	198	土　器	深鉢	(19.0)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	20	１号住居跡	418/419	土　器	深鉢	-	-	-	黒褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	21	１号住居跡	755	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	22	１号住居跡	515	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	23	１号住居跡	529	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	24	１号住居跡	997	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
34	25	１号住居跡	751	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい黄褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	26	１号住居跡	720	土　器	浅鉢	-	-	-	明褐色	砂粒・雲母・石英	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
34	27	１号住居跡	709	土　器	浅鉢	-	-	-	赤褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
35	28	１号住居跡	597/747	土　器	深鉢	(24.0)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
35	29	１号住居跡	523/695	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	雲母・砂粒	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
35	30	１号住居跡	620	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい赤褐色	雲母・砂粒	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
35	31	１号住居跡	471/926/D-21 一括	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	32	１号住居跡	442	土　器	深鉢	-	-	-	黄褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	33	１号住居跡	727	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ（補修孔あり）
35	34	１号住居跡	610	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	35	１号住居跡	554	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	36	１号住居跡	645	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	37	１号住居跡	D-22 一括	土　器	深鉢	-	-	-	明褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	38	１号住居跡	506/667	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	39	１号住居跡	996	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ

第２表　土器観察表（２）

図版番号	挿図番号	遺構名	遺物番号	種　別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	胎　土	焼成	時　代	時　期	備　考
35	40	１号住居跡	189	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	41	１号住居跡	879	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台？
35	42	１号住居跡	502/950	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	43	１号住居跡	684/704	土　器	深鉢	(24.6)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	44	１号住居跡	305	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
35	45	１号住居跡	1066	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
35	46	１号住居跡	860/1010/1024	土　器	深鉢	-	-	-	明褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台
36	47	１号住居跡	462/887/903	土　器	深鉢	-	-	-	黄褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	前期最終末	十三菩提
36	48	１号住居跡	428/655	土　器	深鉢	-	-	(10.0)	褐色	白色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	49	１号住居跡	437	土　器	深鉢	-	-	(14.6)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	50	１号住居跡	560	土　器	深鉢	-	-	(13.0)	明褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	51	１号住居跡	221	土　器	深鉢	-	-	(12.2)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	52	１号住居跡	217/224/389/391/801/802/C-22	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	53	１号住居跡	229	土　器	深鉢	-	-	(6.9)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	54	１号住居跡	365/635	土　器	深鉢	-	-	(13.2)	明褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	55	１号住居跡	487	土　器	深鉢	-	-	(8.8)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	56	１号住居跡	381/369/376/381/900/956	土　器	深鉢	-	-	(12.8)	暗赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
36	57	１号住居跡	875/913	土　器	深鉢	-	-	(11.6)	暗赤褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭？	五領ヶ台？
37	58	１号住居跡	279	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	59	F-25 グリッド	一括	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	60	１号住居跡	746	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	61	１号住居跡	1037	土　器	壺	-	-	-	黄褐色	砂粒・雲母	緻密	弥生	中期	
37	62	１号住居跡	527	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	63	１号住居跡	612・621	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	64	１号住居跡	705	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	65	１号住居跡	1058	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	66	１号住居跡	D-22 一括	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	67	１号住居跡	394	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	68	１号住居跡	805	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	69	１号住居跡	605	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	70	１号住居跡	392/773	土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文		
37	71	１号住居跡	1018	土　器	深鉢	-	-	10.2	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
37	72	１号住居跡	463	土　器	深鉢	-	-	(14.6)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	73	１号住居跡	965/967/968/973	土　器	深鉢	-	-	(11.8)	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
37	74	１号住居跡	397/468/469	土　器	深鉢	-	-	(14.6)	明褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	1	６号溝状遺構	14	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期	
38	2	６号溝状遺構	13	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	3	６号溝状遺構	28	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	4	６号溝状遺構	10	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文		
38	5	８号溝状遺構	33	土　器	深鉢	(23.0)	-	-	褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
38	6	５号竪穴状遺構	7	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい黄褐色	砂粒	良	縄文	前期最終末	十三菩提
38	7	５号竪穴状遺構	11	土　器	深鉢	-	-	-	黄褐色	砂粒	良	縄文	前期最終末	十三菩提
38	8	５号竪穴状遺構	6	土　器	深鉢	-	-	-	にぶい黄褐色	白色粒子	良	縄文	前期最終末	十三菩提

第２表　土器観察表（３）

図版番号	挿図番号	遺構名	遺物番号	種　別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	胎　土	焼成	時　代	時　期	備　考
38	9	５号竪穴状遺構	2	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	白色粒子	良	縄文	前期最終末	十三菩提
38	10	５号竪穴状遺構	10	土　器	深鉢	-	-	-	黒褐色	白色粒子	良	縄文	前期最終末	十三菩提
38	11	５号竪穴状遺構	12	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	石英・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
38	12	23 号 土 坑	2	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	赤色粒子・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅰ
38	13	34 号 土 坑	1	土　器	深鉢	-	-	-	赤褐色	雲母・白色粒子	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	14	３号集石土坑	2	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	白色粒子	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	15	３号集石土坑	4	土　器	深鉢	-	-	-	褐色	白色粒子	良	縄文	前期末	諸磯ｂ
38	16	HI9 試 掘 7 T		土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	17	HI9 試掘 I4 T		土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
38	18	HI9 試掘 I4 T		土　器	深鉢	-	-	-	暗褐色	砂粒・雲母	良	縄文	中期初頭	五領ヶ台Ⅱ
39	19	１号溝状遺構		磁　器	碗	(17.0)	-	-	淡緑色	緻密	良	中世	青磁片	
39	20	２号溝状遺構	1/2/4/12/20/21	土師質土器	中皿	12.4	2.2	6.8	褐色	砂粒	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	21	２号溝状遺構	17	土師質土器	大皿	(13.2)	-	-	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
39	22	２号溝状遺構	18	土師質土器	大皿	(14.6)	-	-	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
39	23	２号溝状遺構	19	土　器	火鉢	-	-	-	淡褐色	緻密	良	中世		外面下半スス付着
39	24	２号溝状遺構	6	土　器	火鉢	(20.1)	-	-	明褐色	緻密	良	中世		外面下半ヘラ削り、スス付着
39	25	３号溝状遺構	5	土　器	甕？	(18.6)	-	-	明褐色	緻密	良	中世		
39	26	３号溝状遺構	3	磁　器	碗	-	-	(4.2)	-	緻密	良	中世		染付け
39	27	５号溝状遺構	1	土師質土器	大皿	(15.2)	-	-	明褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
39	28	５号溝状遺構	4	土　器	内耳土器	-	-	(25.0)	暗褐色	砂粒多く含む	良	中世		
39	29	５号溝状遺構	2	須 恵 器	甕	-	-	(12.0)	灰褐色	長石	良	平安末	12 C後半	
39	30	５号溝状遺構	5	瓦 質 土 器	甕	-	-	(20.0)	灰褐色	緻密	良	中世		
39	31	７号溝状遺構	5	陶　器	常滑甕	-	-	(12.8)	淡黄褐色	緻密	良	中世		
39	32	８号溝状遺構	21/8 溝一括	土師質土器	小皿	(8.4)	-	-	淡黄褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
39	33	８号溝状遺構	31	土師質土器	小皿	-	-	(3.2)	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	34	８号溝状遺構	18	土師質土器	小皿	-		(4.0)	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	35	８号溝状遺構	37	土師質土器	中皿	-	-	(7.0)	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	36	８号溝状遺構	1	陶　器	碗	-	-	(4.0)	-	緻密	良	中世		
39	37	９号溝状遺構	1	土師質土器	小皿	(8.6)	(1.7)	(6.0)	暗褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	38	９号溝状遺構	2	土師質土器	小皿	(8.6)	(1.7)	(6.0)	淡黄褐色	緻密	良	中世	13 C	手づくね成形
39	39	９号溝状遺構	13	土師質土器	中皿	(10.2)	-	-	淡黄褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
39	40	９号溝状遺構	58	土師質土器	大皿	-	-	(8.6)	赤褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	41	９号溝状遺構	30	土師質土器	大皿	-	-	(7.0)	暗赤褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
39	42	９号溝状遺構	47	土師質土器	大皿	-	-	(7.0)	暗赤褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	43	９号溝状遺構	49/ 遺構外 251・259	土師質土器	擂鉢	(36.6)	-	-	褐色	緻密	良	中世	14 C	７本単位の櫛目条線
40	44	９号溝状遺構	11	須 恵 器	甕	-	-	-	灰褐色	砂粒	良	？		タタキ目
40	45	９号溝状遺構	5	須 恵 器	大甕	-	-	-	灰褐色	緻密	良	？		タタキ目
40	46	９号溝状遺構	53	須 恵 器	大甕	-	-	-	灰褐色	緻密	良	？		タタキ目
40	47	９号溝状遺構	15	須 恵 器	大甕	-	-	-	灰褐色	緻密	良	？		タタキ目
40	48	９号溝状遺構	21	須 恵 器	大甕	-	-	-	灰褐色	緻密	良	？		タタキ目
40	49	１号集石土坑	33	土師質土器	小皿	7.6	1.8	4.5	赤褐色	緻密・砂粒	良	中世	12 C代	回転糸切り痕、ナデ調整
40	50	１号集石土坑	20	土師質土器	小皿	-	-	5.0	淡褐色	緻密	良	中世	12 C代	回転糸切り痕
40	51	23 号 土 坑	4	土師質土器	小皿	-	-	4.0	褐色	緻密・砂粒	良	中世	12 C代	回転糸切り痕
40	52	32 号 土 坑	1	土師質土器	柱状高台皿	-	-	5.2	赤褐色	緻密・砂粒	良	中世	12 C代	回転糸切り痕

第２表　土器観察表（４）

図版番号	挿図番号	遺構名	遺物番号	種　別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	胎　土	焼成	時　代	時　期	備　考
40	53	１号集石土坑	27	土師質土器	柱状高台坏	(16.6)	-	-	暗褐色	緻密	良	中世	12 C代	
40	54	１号集石土坑	8	土師質土器	大皿	-	-	12.0	褐色	緻密・白色粒子	良	中世	?	内外面剥離
40	55	１号集石土坑	1	土師質土器	羽釜	(16.4)	-	-	黒褐色	緻密	良	中世	12 C大	内外面ナデ調整・鍔
40	56	２号地下式坑	2	土師質土器	小皿	(7.4)	1.6	(4.0)	淡褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕、口縁部一部スス付着
40	57	２号地下式坑	一括	土師質土器	中皿	(11.8)	-	-	淡褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
40	58	２号地下式坑	10	土師質土器	中皿	(12.0)	-	-	淡褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
40	59	２号地下式坑	19	土師質土器	中皿	-	-	(12.0)	淡褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	60	２号地下式坑	6	土師質土器	擂鉢	(26.0)	-	-	黄褐色	緻密	良	中世	15 C中	口縁部破片
40	61	２号地下式坑	20	土師質土器	中皿	-	-	(6.0)	淡褐色	緻密	良	中世	15 C中	回転糸切り痕
40	62	３号地下式坑	12	土師質土器	大皿	(14.0)	-	-	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
40	63	４号地下式坑	一括	土師質土器	大皿	(13.0)	-	-	暗褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	
40	64	４号地下式坑	一括	土師質土器	中皿	-	-	(6.0)	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	65	４号地下式坑	1	土師質土器	擂鉢	-	-	-	淡褐色	緻密	良	中世	?	
40	66	遺　構　外	13	土師質土器	大皿	-	-	(7.6)	暗褐色	やや粗い	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	67	遺　構　外	617	土師質土器	大皿	-	-	(7.0)	明褐色	緻密・金雲母	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	68	遺　構　外	113	土師質土器	大皿	-	-	(8.0)	黒褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
40	69	遺　構　外	564	土師質土器	小皿	-	-	(4.5)	褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
41	70	遺　構　外	998	土　器	坩	(12.0)	-	-	褐色	緻密	良	古墳	前期	外面ミガキ
41	71	遺　構　外	246/252	土師質土器	内耳土器	(20.6)	-	-	褐色	砂粒・金雲母	良	中世		
41	72	遺　構　外	272	土　器	短頸壺？	(12.0)	-	-	明褐色	緻密	良	古墳	前期？	内外面ミガキ
41	73	遺　構　外		土　器	甕	(21.9)	-	-	明褐色	緻密	良	古墳？		
41	74	遺　構　外	C-21 一括	土　器	鉢？	-	-	(16.0)	外：黒褐色、内：淡褐色	砂粒含み粗い	良	中世		
41	75	遺　構　外	999	土師質土器	擂鉢	-	-	(9.0)	褐色	緻密	良	中世		７本単位の櫛目条線
41	76	遺　構　外	132	土師質土器	擂鉢	-	-	(12.4)	褐色	緻密	良	中世		７本単位の櫛目条線
41	77	遺　構　外	184	陶　器	甕	-	-	-	外：緑褐色内：灰色	緻密	良	中世		瀬戸系
41	78	遺　構　外	98	土師質土器	擂鉢	(30.0)	-	-	黒褐色	緻密	良	中世		
41	79	遺　構　外	118	須　恵　器	瓶	-	-	-	灰褐色	緻密	良	古墳	後期	
41	80	遺　構　外	160	陶　器	常滑甕	(31.6)	-	-	赤褐色	緻密	良	中世	14 C中	
41	81	遺　構　外	95	磁　器	坏	(6.0)	-	-	にぶい黄褐色	緻密	良	中・近世		外面上半：内面に釉薬
41	82	遺　構　外	85	陶　器	碗	-	-	(5.5)	外：灰色内：黒褐色	緻密	良	中世		天目茶碗：内面釉
41	83	表　　採		土師質土器	中皿	(12.2)	2.6	(6.0)	淡褐色	緻密、赤色粒子	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕（摩滅）
41	84	表　　採		土師質土器	小皿	-	-	(4.5)	赤褐色	緻密	良	中世	14 ～ 15 C	回転糸切り痕
41	85	表　　採		磁　器	碗	-	-	(5.4)	灰褐色	緻密	良	中世？		胴部内外面釉
41	86	表　　採		瓦 質 土 器	鉢？	-	-	-	黒褐色	緻密	良	中世		片口
41	87	試 掘 調 査	17 号トレンチ	瓦 質 土 器	擂鉢	31.2	-	-	褐色	緻密	良	中世	14 C	７本単位の櫛目条線、片口

第３表　石器・石製品他観察表

図版番号	挿図番号	出土位置	遺物番号	種類	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　　考
	1	８号溝	12	打製石斧	粘板岩	8.2	3.2	1.0	27.0	
	2	ピット 76	1	打製石斧	黄色風化泥岩	7.8	5.2	1.5	75.0	
	3	遺構外	565	打製石斧	粘板岩	15.9	2.5	2.9	288.0	大型
	4	遺構外	591	打製石斧	粘板岩	10.6	5.6	1.6	118.0	一部欠損
	5	遺構外	954	打製石斧	ホルンフェルス	10.5	4.9	1.7	101.0	
	6	遺構外	951	打製石斧	粘板岩	8.4	4.2	1.3	49.0	
	7	遺構外	1027	打製石斧	砂岩	11.0	5.4	1.3	69.0	
	8	遺構外	851	打製石斧	粘板岩	9.1	4.5	1.2	56.0	
	9	遺構外	489	打製石斧	粘板岩	8.9	4.0	1.3	57.0	
	10	遺構外	1086	打製石斧	ホルンフェルス	8.9	4.2	1.5	69.0	
	11	遺構外	1091	打製石斧	ホルンフェルス	7.2	5.9	1.5	79.0	
	12	遺構外	623	打製石斧	粘板岩	7.8	4.4	1.1	53.0	
	13	遺構外	685	打製石斧	緑色凝灰岩	8.3	3.4	1.9	71.0	
	14	遺構外	231	打製石斧	ホルンフェルス	6.8	3.4	1.0	29.0	
	15	遺構外	122	打製石斧	粘板岩	6.5	3.0	1.0	21.0	
	1	遺構外	491	玦状耳飾	蛇紋岩	3.0	1.3	0.3	1.3	一部　推定径（7.7cm）
	2	遺構外	6	二次加工剥片	粘板岩	8.2	5.4	1.3	47.0	
	3	遺構外	497	二次加工剥片	粘板岩	8.4	5.6	1.4	58.0	
	4	遺構外	332	磨石	安山岩	11.6	3.7	3.8	484.0	凹み両面４箇所
	5	34 号土坑	2	磨石	花崗岩	10.2	9.0	4.7	660.0	凹み両面６箇所
	1	８号溝	5	石鏃	黒曜石	1.3	1.4	0.4	0.3	脚部欠損
	2	遺構外	764	石鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.7	
	3	８号溝	6	石鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.7	
	4	遺構外	78	石鏃	黒曜石	1.5	1.5	0.5	0.7	1/3 欠損
	5	遺構外	230	石鏃	黄色風化泥岩	2.0	1.6	0.6	1.2	片側脚部欠損
	6	29 号土坑	3	石鏃	黒曜石	1.8	1.7	0.5	1.0	1/3 欠損
	7	21 号土坑	2	二次加工剥片	粘板岩	6.0	4.5	0.7	18.0	
	8	遺構外	521	石匙	珪質珪岩	3.7	6.0	1.2	23.0	
	9	遺構外	340	スクレイパー	粘板岩	5.9	5.9	1.2	45.0	

第４表　その他の出土遺物観察表

図版番号	挿図番号	出土位置	遺物番号	種類	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　　考
	1	第２号地下式坑	25	石製品	硯？	(7.4)	(1.9)	(0.6)	(12.0)	硯の一部
	2	第２号溝状遺構	13	鉄製品	鎌	19.7	4.8	0.5	108.0	
	3	表採		石製品	石臼（下臼）	(30.9)	(16.0)	(10.0)	4,800	八文画６溝、安山岩

第５表　出土銭観察表

図版番号	挿図番号	出土位置	遺物番号	種類	種別	直径(cm)	備考
	1	９号土坑	3	古銭	元豊通寶	2.40	北宋銭：1078 年（元豊元年）：行書
	2	９号土坑	3	古銭	至道元寶	2.45	北宋銭：995 年（至道元年）
	3	９号土坑	3	古銭	不　　明	2.40	判読不明：土坑内から上記２枚と付着し出土
	4	９号土坑	2	古銭	太平通寶	2.40	北宋銭：976 年（太平興国元年）
	5	９号土坑	1	古銭	太平通寶	2.35	北宋銭：976 年（太平興国元年）
	6	F-11	149	古銭	元豊通寶	2.45	北宋銭：1078 年（元豊元年）、行書、
	7	F-12	一括	古銭	熙寧元寶	2.30	北宋銭：1068 年（熙寧元年）
	8	F-11	149	古銭	不　明	2.50	判読不明：№６と付着
	9	F-11	164	古銭	皇宋通寶	2.40	北宋銭：1038 年（寶元元年）
	10	F-11	174	古銭	元豊通寶	2.30	北宋銭：1078 年（元豊元年）：篆書

第５章　自然化学分析

稲山遺跡の地下式坑の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

稲山遺跡は、笛吹市八代町岡に所在し、浅川、四ッ沢川に挟まれた丘陵上に立地する。今回の発掘調査により、縄文時代の住居跡、土坑、集石土坑、中世の地下式坑および溝状遺構などが検出されている。

今回の自然科学分析調査は、２号地下式土坑の用途や埋納物を検討するために、植物珪酸体分析、土壌理化学分析、脂肪酸分析、検出された骨片の種類同定を実施する。土壌理化学分析では、動物遺体および植物遺体による成分富化の状況を調べるために、リン酸、カルシウム、炭素（腐植）含量の測定を行う。

1. 試料

試料は、４区で検出された中世とされる２号地下式坑の土壌である。土坑西側の床面直上の覆土が北から南にかけて、最北、北、南、最南に分け、４点採取されている。この４点の試料について、植物珪酸体分析、土壌理化学分析、脂肪酸分析を行う。また、骨同定用試料は、同じ土坑の埋積土下部付近から、かわらけなどとともに出土した試料番号７・14 の骨片２点である。

2. 分析方法

(1) 植物珪酸体分析

湿重 5g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から土坑の内容物について検討するために、植物珪酸体群集を図化した。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

(2) 骨同定

骨体表面に付着した土壌は、竹串等で除去する。試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

(3) 土壌理化学分析

今回の分析は、リン酸、カルシウム、炭素（腐植）含量の３項目を測定する。リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、炭素（腐植）はチューリン法で実施する（土壌養分測定法委員会 ,1981; 土壌標準分析・測定法委員会 ,1986）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して 2.00mm の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mm φのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

リン酸およびカルシウムは、風乾細土試料 2.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約 5ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）

濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

炭素（腐植）含量は、微粉砕試料 0.100 ～ 0.500 g を 100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4 N クロム酸・硫酸混液 10ml を正確に加え、約 200℃の砂浴上で正確に 5 分間煮沸する。冷却後、0.2% フェニルアントラニル酸液を指示薬に 0.2 N 硫酸第 1 鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに 1.724 を乗じて腐植含量（%）を算出する。

（4）脂肪酸分析

分析は、坂井ほか（1996）に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム：メタノール（2:1）を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸 - メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム（ULBON,HR-SS-10, 内径 0.25mm, 長さ 30m）を装着したガスクロマトグラフィー（GC-14A,SHIMADZU）を使用する。注入口温度は 250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム（J&W SCIENFIC,DB-1, 内径 0.36mm、長さ 30m）を装着する。注入口温度は 320℃、絡む温度は 270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

3. 結果

（1）植物珪酸体分析

結果を表 1、図 1 に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。検出される分類群は 4 試料共に同様であり、栽培植物のイネ属、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、シバ属などが認められる。また、珪化組織片も認められ、イネ属の穎（籾）や葉部、ネザサ節の葉部、ススキ属を含むウシクサ族の葉部に由来する珪化組織片が認められ、イネ属の短細胞列の産出が目立つ。

（2）骨同定

結果を表 2 に示す。2 点とも 3 ～ 4cm 程度の小片である。白色を呈し、骨体表面に細かなひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。2 点とも哺乳類の四肢骨片であるが、人骨であるか特定できない。

（3）土壌理化学分析

結果を表 3、図 2 に示す。腐植含量は 3.50 ～ 3.78%、リン酸含量は 4.20 ～ 4.64mg./g、カルシウム含量は 5.46 ～ 6.04mg./g である。4 試料ともに値が類似し、ばらつきが小さい。

（4）脂肪酸分析

結果を表 4、図 2 に示す。脂肪酸は、「北」では未検出である。他の 3 試料では、パルミチン酸が多く、ミリスチン酸、酪酸、ドコサヘキサエン酸が含まれる。ステロール組成をみると、「北」ではコレステロールのみ

表 1.　植物珪酸体分析結果

種　類 ＼ 試料番号	最北	北	南	最南
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	16	28	10	17
タケ亜科ネザサ節	21	24	27	26
タケ亜科	68	69	76	65
ヨシ属	1	2	3	1
ウシクサ族ススキ属	2	5	3	5
イチゴツナギ亜科	5	9	2	3
不明キビ型	16	15	7	17
不明ヒゲシバ型	2	3	6	2
不明ダンチク型	5	4	3	4
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	31	42	59	44
タケ亜科ネザサ節	19	21	24	21
タケ亜科	67	66	69	60
ヨシ属	5	4	6	3
ウシクサ族	7	5	18	11
シバ属	12	17	19	18
不明	42	52	64	68
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	136	159	137	140
イネ科葉身機動細胞珪酸体	183	207	259	225
総　計	319	366	396	365
珪化組織片				
イネ属穎珪酸体	3	3	2	2
イネ属短細胞列	8	10	10	4
イネ属機動細胞列	3	3	1	1
ネザサ節短細胞列	-	3	1	1
ネザサ節機動細胞列	2	-	1	-
ススキ属短細胞列	-	-	-	2
ウシクサ族機動細胞列	1	-	1	1

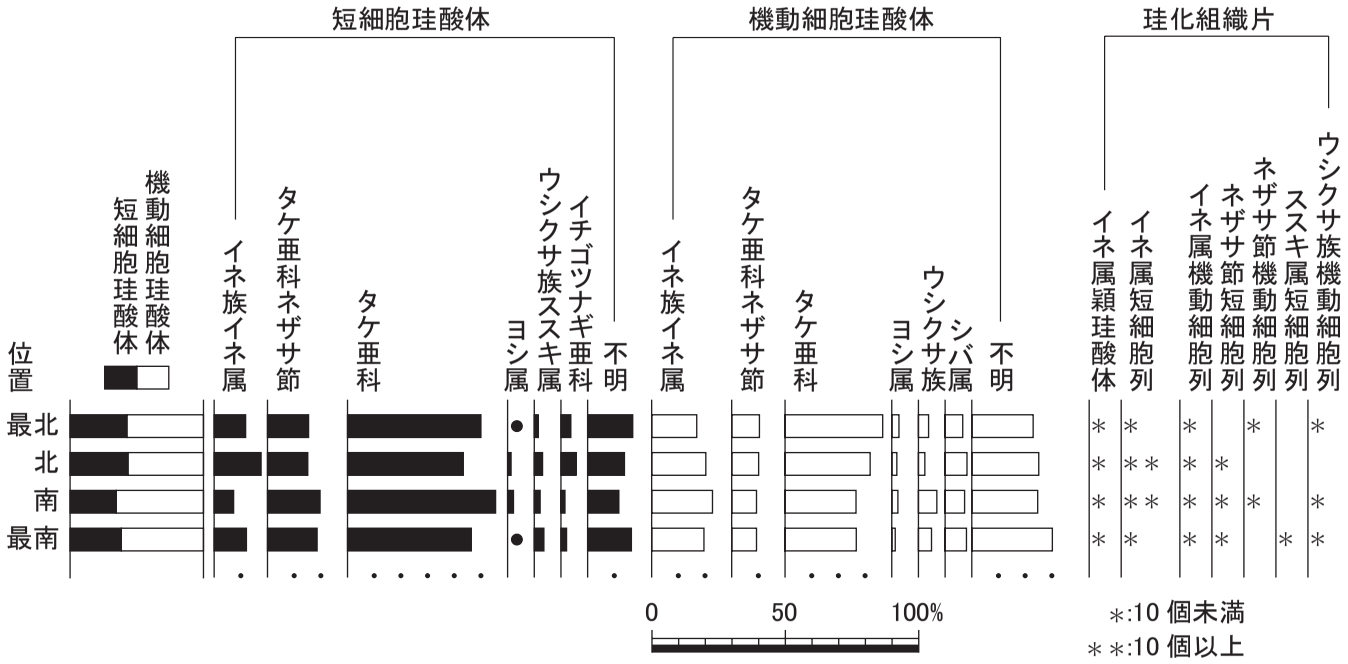


図 1. 植物珪酸体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1％未満を示す。また、珪化組織片の産状を＊で示す。

表 2. 骨同定結果

試料名	年月日	種類	部位	左　右	部分	数量
2 号地下式土坑　No.7	080901	哺乳類	四肢骨		破片	1
2 号地下式土坑　No.14（骨片）	080901	哺乳類	四肢骨		破片	1

表 3. 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量（%）	リン酸（mg/g）	カルシウム（mg/g）
2 号地下式坑 北	CL	10YR2/3　黒褐	3.50	4.64	5.84
2 号地下式坑 最北	CL	10YR2/3　黒褐	3.61	4.20	5.46
2 号地下式坑 南	CL	10YR2/3　黒褐	3.78	4.59	5.95
2 号地下式坑 最南	CL	10YR2/3　黒褐	3.70	4.37	6.04

土色はマンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
土性は土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
　CL・・・ 埴壌土（粘土 15 ～ 25%、シルト 20 ～ 45%、砂 3 ～ 65%）

検出される。「最北」では、コプロスタノールとシトステロールが検出される。「南」ではエルゴステロールが多く、コプロスタノール、コレステロール、スティグマステロール、シトステロールが含まれる。「最南」ではコレステロール、エルゴステロール、シトステロールが検出される。

表 4.　脂肪酸分析結果

種　類 / 試料名	北	最北	南	最南
脂肪酸組成				
酪酸（C4）	-	20.0	14.7	12.1
ヘキサン酸（C6）	-	-	-	-
オクタン酸（C8）	-	-	-	-
デカン酸（C10）	-	-	-	-
ラウリン酸（C12）	-	-	-	-
ミリスチン酸（C14）	-	13.8	9.9	18.3
パルミチン酸（C16）	-	46.1	39.0	46.9
パルミトレイン酸（C16:1）	-	-	-	-
ステアリン酸（C18）	-	-	-	-
エライジン酸（C18:1 trans）	-	-	-	-
オレイン酸（C18:1 cis）	-	-	-	-
リノール酸（C18:2）	-	-	-	-
αリノレン酸（C18:3）	-	-	-	-
アラキジン酸（C20）	-	-	-	-
イコセン酸（C20:1）	-	-	-	-
アラキドン酸（C20:4）	-	-	-	-
ベヘン酸（C22）	-	-	-	-
ドコセン酸（C22:1trans）	-	-	-	-
エルカ酸（C22:1cis）	-	-	-	-
イコサペンタエン酸（C20:5）	-	-	-	-
リグノセリン酸（C24）	-	-	-	-
テトラコセン酸（C24:1）	-	-	12.6	-
ドコサヘキサエン酸（C22:6）	-	20.1	23.8	22.8
ステロール組成				
コプロスタノール	-	53.8	7.0	-
コレステロール	100.0	-	7.5	25.5
エルゴステロール	-	-	53.1	37.1
カンペステロール	-	-	-	-
スティグマステロール	-	-	21.3	-
シトステロール	-	46.2	11.2	37.4
分析量（g）	100.4	100.5	100.2	100.4

4. 考察

植物珪酸体分析の結果、土坑内からは、イネ属やネザサ節、ススキ属などの珪化組織片が認められた。珪化組織片とは、植物体の葉や茎にみられる組織が構造を保ったまま灰となり、珪化細胞列などの形で残っているものである。珪化組織片は、移動すると組織がバラバラになり残らないため現地性が高いと考えられており、これらは遺構の構築材や敷物、燃料材などに由来する可能性が高いとされている（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1991）。

今回検出された珪化組織片の由来となった稲藁や稲籾殻は、コメの収穫後に容易に入手でき、燃料材や構築材、肥料の一部などの資材として利用されることが多い。また、ネザサ節やススキ属は、遺跡の立地環境から考えて周辺の丘陵上に生育していたことが推定され、容易に入手可能であったと考えられる。今回の産出状況から、これらの植物が、土坑構築時に敷物や覆いなどとして使われた可能性がある。

なお、単体で検出されたネザサ節、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などの植物珪酸体は、先に挙げた珪化組織片が分解したものもおそらく含まれるが、周辺植生に由来するものが混入していると考えられる。また、イネは、周辺での稲作に由来する可能性がある。

リンは、哺乳動物の生命維持に必要な元素であり、特に、脳、内臓、骨などに多く含まれている。このため、

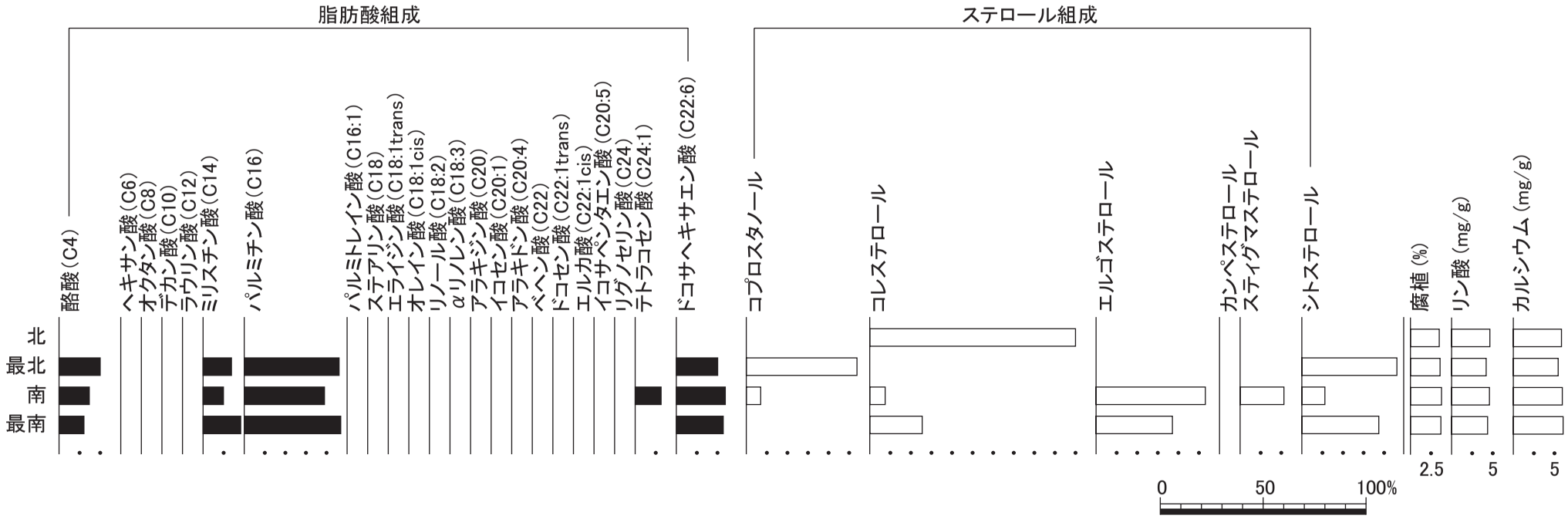


図 2. 脂肪酸・腐植・リン酸・カルシウム組成

動物に含まれるリン酸量は土壌に比べ桁違いに多く、動物遺体が埋納された痕跡のある遺構では、リン酸が極端に高くなる。一方、土壌中のリン酸には植物遺体から供給されたものが含まれることから、リン酸含量、腐植含量が共に高い場合は、植物遺体に由来するリン酸の可能性が指摘できる。また、火山灰土などリン酸を保持しやすい土壌の場合も、リン酸値は高くなる傾向にある。カルシウムも骨などに多く含まれる元素であるが、リン酸と比べて水に容易に溶けるため土壌中で溶脱拡散しやすいと考えられる。

当社がこれまで実施してきた各地の分析成果と比較すると（田中•坂井 ,2008 など）、今回の結果はリン酸含量、カルシウム含量共に高い状態で安定し、リン酸値は、自然状態で推定される含量（最大でも 4mg/g）を越える。一方、カルシウム含量は石灰岩地域など母材自体に多量に含まれている事例や、リン酸と比べて土壌中で溶脱しやすいことなどから、自然状態の含量を決めにくく評価が難しい。また、遺体埋納が推定される遺構では、遺体の部位によりリン酸やカルシウムの濃度が異なるため、田園調布南遺跡の事例（中根 ,1992）に認められるように値がばらつく結果になることが多い。一方、自然状態では均質な方が化学的に安定であるため、値のばらつきが小さくなる。

脂肪酸は、土壌微生物に由来するものや（荒尾ほか ,1995）、植物のワックスに由来するもの（筒木・近藤 ,1997;1998）など、自然状態であっても微量ではあるが土壌中に含まれる。動物遺体に含まれる脂肪酸は、土壌と比べると桁違いに多いため、動物埋納により脂肪酸が富化されると、土壌中に本来含まれる脂肪酸の組成は認められなくなり、分析によって得られるのは動物由来の脂肪酸組成となる。今回の結果はパルチミン酸など化学的に安定な脂肪酸が多く、このような組成は脂質の分解の進んだ土壌などにみられる組成である（坂井・小林 ,1995 など）。また、脂肪酸の組成が単調な点（動植物の脂質は、複数種の脂肪酸によって構成される）や、動植物に非常に多く含まれる C18 の脂肪酸が見られない点からみても、今回の試料は分解が進み、脂肪酸がほとんど含まれていないと考えられる。また、脂肪酸は熱に弱いことから、焼骨を埋納した場合は、動物由来の脂肪酸は土壌中に富化されない。

ステロールをみると、「南」を除いて種類数が少ない。これは、土壌中のステロール量が少なく、分析機器の感度の限界付近であったことが原因であり、偶発的に検出された一部の種類が、相対比によって極端に強調されていると考えられる。したがって、ステロールについても、「南」を除く土壌中にほとんど含まれていなかったと考えられる。一方、「南」試料はステロールの種類が多い。多産するステロールは、菌類に由来するエルゴステロールや植物に由来するスティグマステロール、シトステロールであり、これらは土壌に由来すると思われる。動物由来のコプロスタノールやコレステロールもわずかに検出されるが、埋納物ではなく土壌生物などに由来すると考えられる。土壌生物由来のステロールが、少量ではあるが土壌中に残存していることは、筒木・近藤（1997;1998）等でも報告されている。

以上のことから、2 号地下式坑内には、ススキ、イネ、タケ類などが敷かれていた可能性がある。また、リン酸含量が平均して高いことから、ヒトを含む動物の焼骨が均質に撒かれた可能性がある。今回は底面を平面的に調査したが、今後鉛直方向の調査や地山および他の遺構覆土との比較を行うことなどにより、さらに検討することが望まれる。

引用文献

荒尾知人・岡野正豪・金森哲夫 ,1995,GC-MS による土壌中のリン脂質脂肪酸組成の分析 . 日本土壌肥料学会関東支部群馬大会講演要旨集 ,9.

土壌養分測定法委員会編 ,1981, 土壌養分分析法 . 養賢堂 ,440p.

土壌標準分析・測定法委員会編 ,1986, 土壌標準分析・測定法 . 博友社 ,354p.

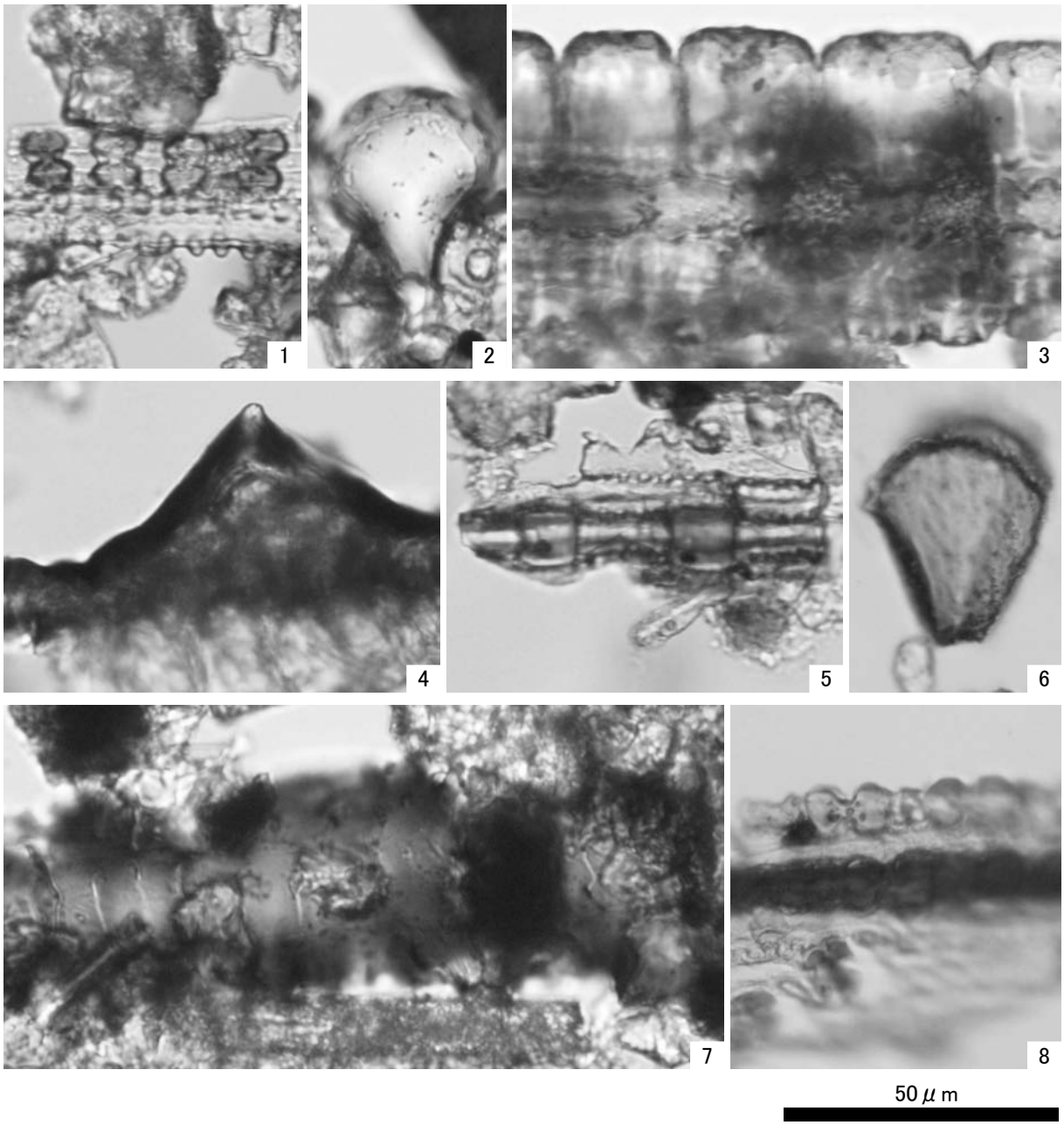
近藤　錬三 ,2004, 植物ケイ酸体研究 . ペドロジスト ,48,46-64.

中根秀二 ,1992, 一号方形周溝墓の自然科学的分析 . 田園調布南 2, 都立学校遺跡調査会 ,133-149.

農林省農林水産技術会議事務局監修 ,1967, 新版標準土色帖 .

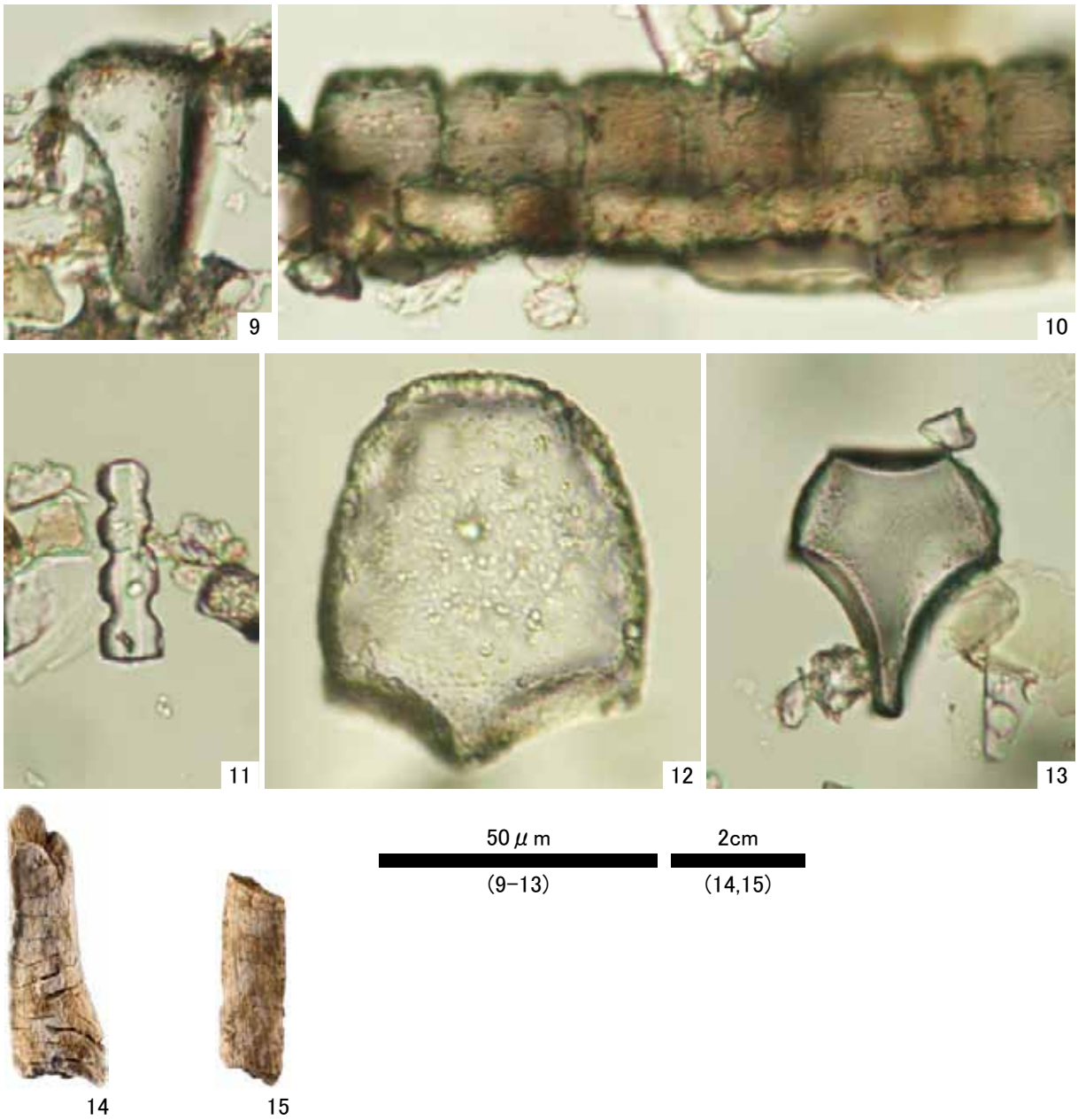
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1991, 自然科学分析 . 東京都新宿区戸山遺跡－厚生省戸山研究舎（仮称）建設に伴う緊急発掘調査報告書－本文編 , 戸山遺跡調査会 ,133-168.
ペドロジスト懇談会編 ,1984, 土壌調査ハンドブック . 博友社 ,156p.
坂井　良輔・小林　正史 ,1995, 脂肪酸分析の方法と問題点 . 考古学ジャーナル ,386,9-16, ニューサイエンス社 .
坂井　良輔・小林　正史・藤田　邦雄 ,1996, 灯明皿の脂質分析 . 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第 7 集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）第二分冊 ,24-37, 財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 .
田中　義文・坂井　良輔 ,2007, 土壌理化学分析を用いた遺体埋納推定の手法と課題 , 徳永重元博士献呈論集 , パリノ・サーヴェイ株式会社 ,417-428.
筒木　潔・近藤　練三 ,1997, 泥炭地植物のフェノール性化合物 , 脂肪酸 , ステロール組成 . 日本土壌肥料学雑誌 ,68,
37-44
筒木　潔・近藤　練三 ,1998, 泥炭地の乾燥化と植生変化に伴う泥炭の脂質組成の変化 . 日本土壌肥料学雑誌 ,
9,12-20.

図版1　植物珪酸体(1)



1．イネ属短細胞列(2号地下式土坑;北)
2．イネ属機動細胞珪酸体(2号地下式土坑;南)
3．イネ属機動細胞列(2号地下式土坑;南)
4．イネ属穎珪酸体(2号地下式土坑;北)
5．ネザサ節短細胞列(2号地下式土坑;最南)
6．ネザサ節機動細胞珪酸体(2号地下式土坑;最北)
7．ネザサ節機動細胞列(2号地下式土坑;最北)
8．ススキ属短細胞列(2号地下式土坑;最南)

図版2　植物珪酸体(2)・出土骨



1. 哺乳類四肢骨破片(2号地下式坑;No. 7)
2. 哺乳類四肢骨破片(2号地下式坑;No. 14)

第６章　まとめ

第１節　稲山遺跡出土の旧石器時代の尖頭器について

稲山遺跡は、平成 19 年度に行われた試掘調査により新たな埋蔵文化財包蔵地として確認された遺跡で、調査の結果から、縄文時代と中世を主体とする遺跡であることが判明した。しかし、整理作業段階で旧石器時代の尖頭器が確認された。この尖頭器は、石核の横長の剥離作業面をいっぱいに使って剥離作業を行っている点、打面中央を打撃し直線的に打点を後退させている点を特徴とする点が観察でき、この点から近畿・瀬戸内地域に分布する瀬戸内技法による剥離を特徴としたもので、以上の特徴から約 24,000 年前頃とされ、本遺跡の西側に隣接する丘陵上の「銚子原遺跡」でも 26,000 ～ 24,000 年前頃の切出形石器が確認されており、本遺跡同様の年代に位置づけられる。これについて、銚子原遺跡と本遺跡の位置づけが注目されるが、該期の資料の蓄積を待ちたい。

第２節　確認された集石土坑について

本遺跡から集石土坑が 5 基確認されているが、この中の 3 号集石土坑についてふれてみる。 3 号集石土坑は長径 1.7 m、短径 1.4 m、深さ 0.6 mを測る。覆土には 10 ～ 25㎝大のものが、土坑内全体に充填されている。さらに、土坑底部には大きさ約 20㎝、厚さ 5㎝程度の平石が 18 点ほど底面を覆う形で配石されている。

また、 4 号集石土坑についても、検出された状況が集石土坑底面部と同様に、底面を覆う形が確認できる。おそらく、この状況から集石土坑上面が削平され、土坑下部のみが残存している可能性が考えられる。

このような、形態は笛吹市御坂町桂野遺跡で数多くみられ、時期も五領ヶ台式を主体とした遺跡である。

集石土坑の用途については、屋外の蒸し焼き調理施設と想定され、これまでの検出例から「充填タイプ」、「半充填するタイプ」、「少充填タイプ」、「下層充填タイプ」、「上面覆タイプ」とに大きくわかれる。本遺跡の 3 号集石土坑は「充填タイプ」であり、上層から下層まで礫が充填されている。

桂野遺跡でもこの「充填タイプ」が数多く検出されており、中期初頭の五領ヶ台式期に位置づけられている。

この集石土坑については、集落の中でも中央の広場にはあまり見られず、水辺の河川沿いや集落の外縁に見られるとされる。本遺跡では該期の住居跡は 1 軒のみであり、集石土坑の集落内での位置関係については、不明な点は多い。これについては、銚子原遺跡でも該期の住居跡が確認され、拠点的集落としているが、集石土坑は確認されていない。また、旧中道町の上ノ平遺跡の 23 軒の同時期の集落に対し、該期の集石土坑は 1 基であり、逆に、都留市の美通遺跡や、玉川金山遺跡等では、集石土坑の検出例は数多いものの、住居跡数は、少ない状況が見られる。この状況を踏まえながら、稲山遺跡周辺における該期の生活環境など、今後、検討していきたい。

第３節　確認された地下式坑について

第 4 章（5）で確認された各地下式坑の規模等について触れているが、地下式坑とは、「地平面下に竪坑を掘り下げてこれを入り口部とし、その底面から横に掘り広げて本体である地下室を築いた遺構」と規定される特殊な遺構であり、山梨県内においても旧北巨摩地域等を中心にほぼ全域において確認されている。

稲山遺跡では、地下式坑が 5 基確認されているが、その用途については、貯蔵穴、埋葬に関わる施設、避難施設などと推測されている。このため、本遺跡で確認された地下式坑の用途や埋納物を検討するために、2 号地下式坑内覆土の土壌分析と、覆土中に確認された骨片について分析を行った。

この結果については、第 5 章に詳しく述べられているが、その中で、地下式坑本体内にススキ、イネ、タケ類などが敷かれていた可能性が高いとされ、さらにヒトを含む動物（ほ乳類）の焼骨が均質に撒かれた可能性があると記されている。これは、本地下式坑が「埋葬に関わる施設」であることを裏付けるものであるが、覆土中から出土した骨片が人骨なのかは不明であるため、さらに地下式坑の用途についての検討は必要である。

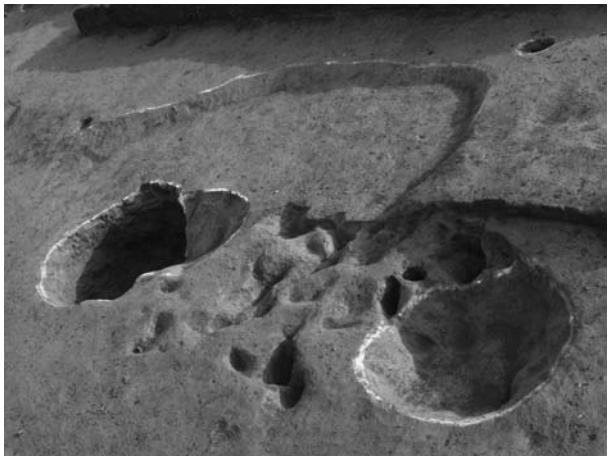
さらに、 1 号地下式坑に 5 箇所、 2 号地下式坑に 3 箇所の柱穴状の落ち込みが竪坑にみられた。これついては明らかに竪坑を覆う形の構築物の存在を裏付けるものと考えられ、これまでの検出された県内の地下式坑からこのような事例は見られない。これについても、これまでの調査事例など踏まえながら、地下式坑の用途等さらに検討していく必要がある。

写　真　図　版

全体写真（合成）

調査区東側（空中写真）

調査区西側（空中写真）

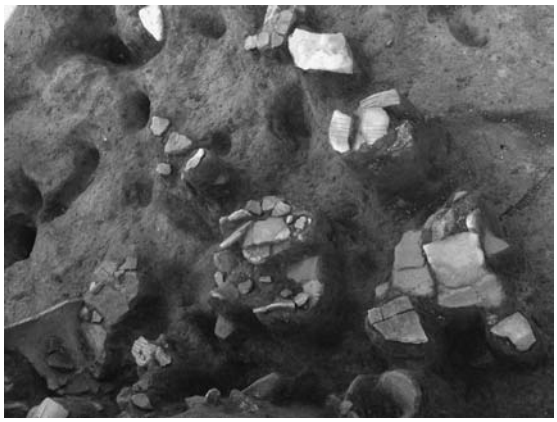


1 号住居跡

5 号方形竪穴状遺構

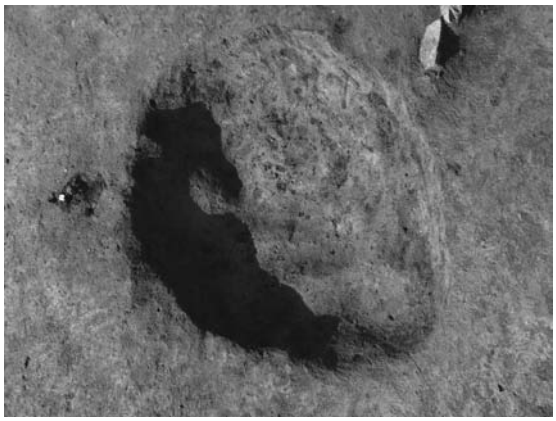
写真図版 2

1 号住居跡遺物出土状況： 1



1 号住居跡遺物出土状況： 2

2 号集石土坑



2 号集石土坑完掘

3 号集石土坑

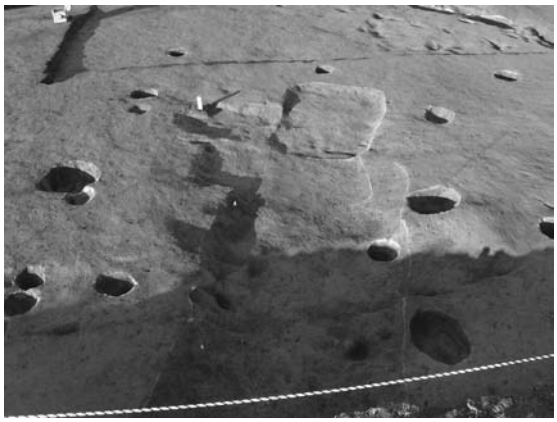
3 号集石土坑（底部）

3 号集石土坑（完掘）

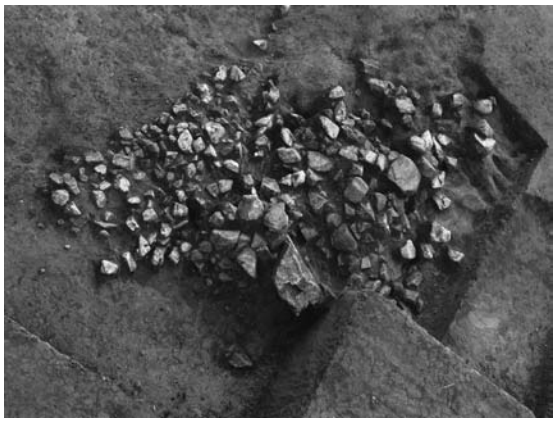
4 号集石土坑検出状況

4 号集石土坑完掘状況

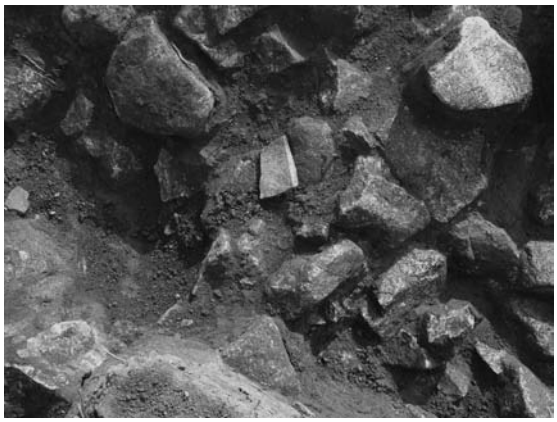
1 号方形竪穴状遺構完掘状況



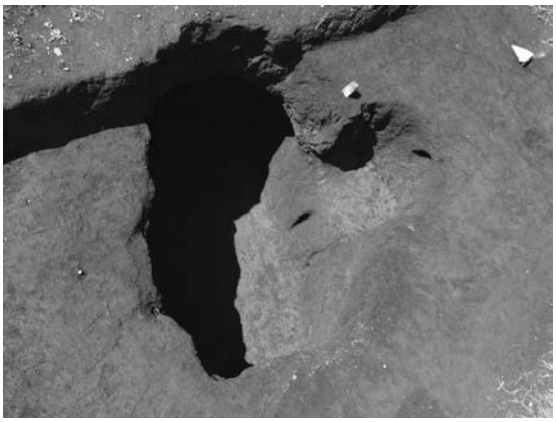
2 ～ 4 号方形竪穴状遺構 /11 号溝状遺構完掘



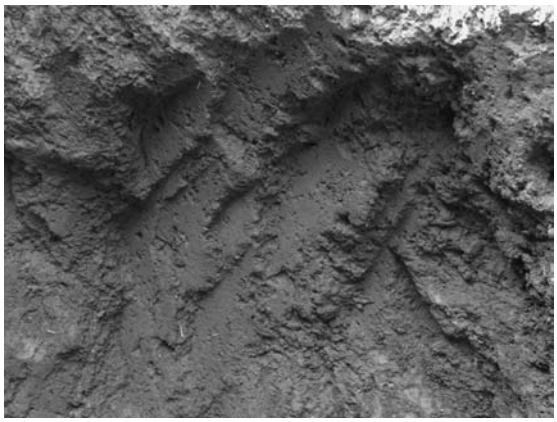
1 号集石検出状況



1 号集石常滑片出土状況



1 号地下式坑

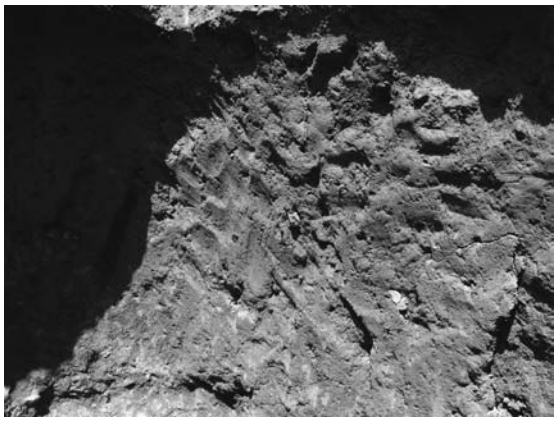


1 号地下式坑（地下室内部工具痕）

写真図版 4

2 号地下式坑

2 号地下式坑（竪坑）



2 号地下式坑（地下室内部工具痕）

3 号地下式坑

4 号地下式坑

5 号地下式坑

5 号地下式坑（地下室内部状況）

1 号溝状遺構

2 号溝状遺構とピット群

6 号溝状遺構

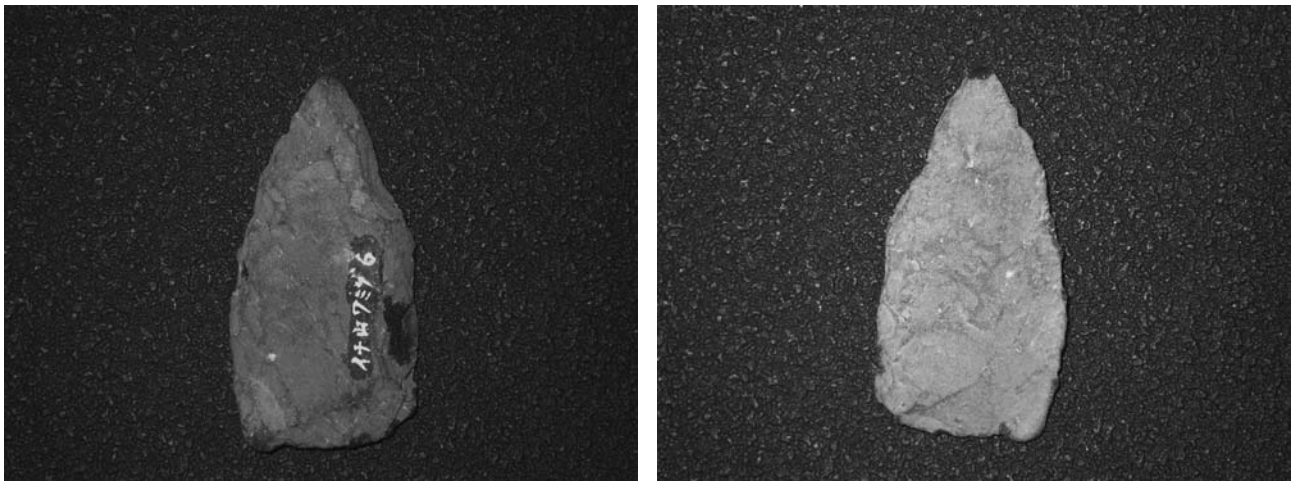
6 号溝状遺構土層推積状況

9 号溝状遺構

8 号溝状遺構完掘状況

9 号溝状遺構出土土師質土器

写真図版 6



旧石器：尖頭器

1 号住居跡出土遺物： 1

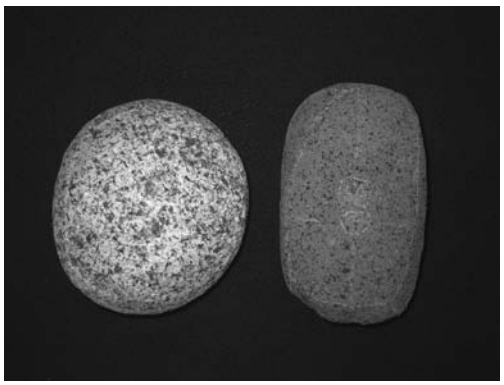
1 号住居跡出土遺物： 2

1 号住居跡出土遺物：3

1 号住居跡出土遺物：4

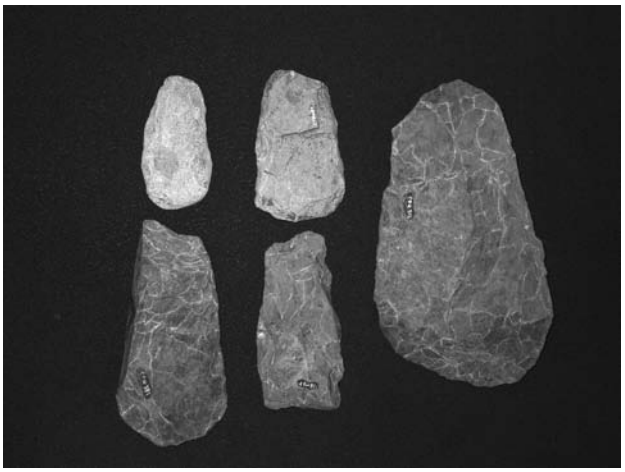
1 号住居跡出土遺物：5

5 号方形竪穴状遺構出土遺物



磨石

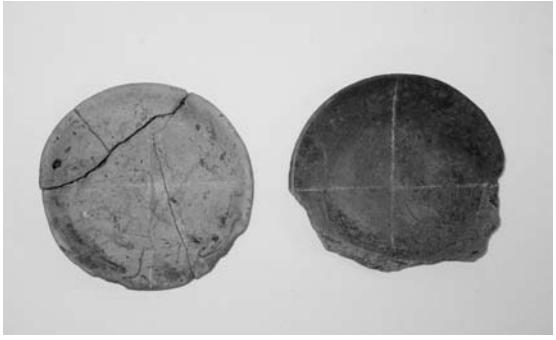
石匙



打製石斧

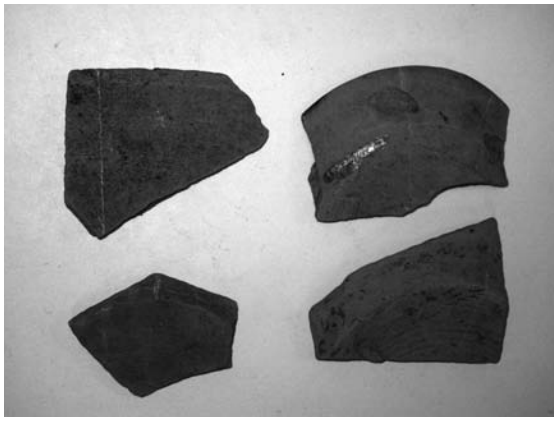
石鏃

写真図版 8



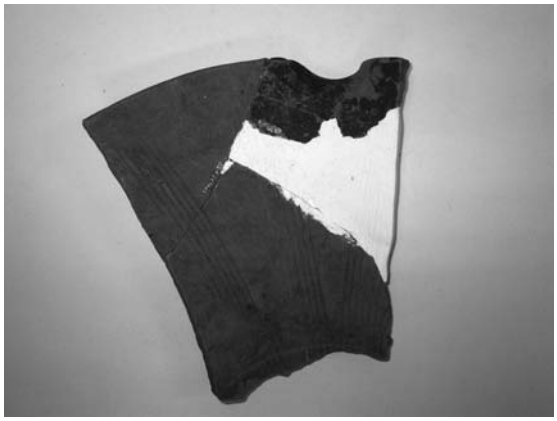
9 号溝状遺構出土土師質土器（左：内面、右外面）

1 号集石土坑出土遺物

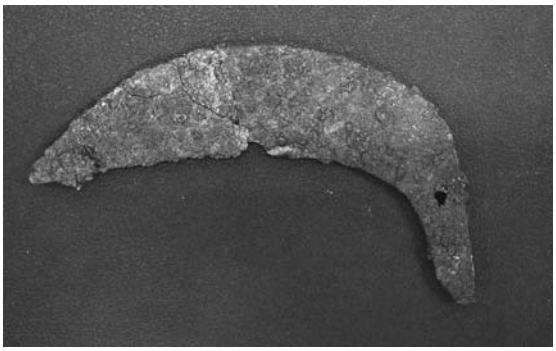


2 号地下式坑出土遺物

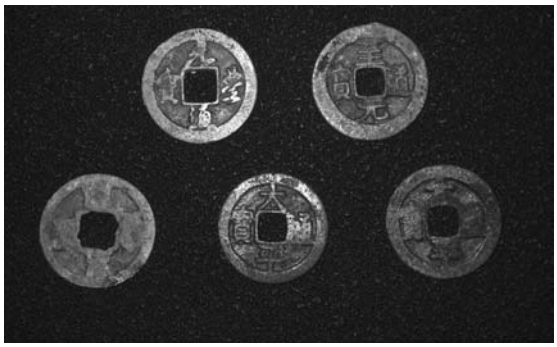
遺構外出土出土遺物： 1



遺構外出土遺物： 2



2 号溝状遺構出土：鎌



9 号土坑出土古銭（北宋銭）

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	いなやまいせき
書　　名	稲山遺跡
副　書　名	山梨リニア実験線建設工事に伴う発掘調査報告書
シ　リ　ー　ズ　名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シ　リ　ー　ズ　番　号	第272集
編　著　者　名	高野玄明
編　集　機　関	山梨県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　℡055 - 266 - 3016
発　行　年　月　日	2011年3月　日

ふりがな	ふ　り　が　な	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所　在　地	市町村	遺跡番号					
いなやまいせき	やまなしけん　ふえふきし　やつしろちょうおか　あざ　いなやま　1903 - 2　ほか	19211		35°36′9″	138°38′56″	平成20（2008）年6月13日～12月10日	3,800㎡	山梨リニア実験線建設工事
稲山遺跡	山梨県笛吹市八代町岡字稲山1903 - 2外							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
稲山遺跡	集落跡 散布地	旧石器 縄文（中） 中・近世	住居跡、竪穴状遺構、土坑、集石土坑、集石、地下式坑、溝状遺構、ピット	土器、石器、陶磁器、鉄製品、古銭、骨片	旧石器時代（尖頭器）1点 3号地下式坑内より骨片出土

要　約

稲山遺跡は、甲府盆地の南縁に連なる曽根丘陵の東方に位置し、浅川と四ッ沢川の両河川に挟まれた丘陵上の標高約395 mに位置している。

稲山遺跡周辺は、県指定史跡の岡・銚子塚古墳や、竜塚古墳等、数多くの古墳の存在や、縄文時代の大規模集落である銚子原遺跡など、著名な遺跡が存在する地域であり、山梨県の歴史を考えていく上で、重要な地域の一つと知られている。

今回の調査では、縄文時代の住居跡、土坑、集石土坑、また中・近世の溝状遺構、地下式坑、集石土坑、ピット等の遺構が検出され、それに伴って土器や石器、古銭が出土している。

また、単独での出土であるが旧石器時代の尖頭器が出土しており、これについて瀬戸内技法により剥離された翼状剥片の特徴を有する周縁加工されたもので、その特徴から、約24,000年前とされている。

検出された遺構や、出土遺物から、稲山遺跡は中世主体の遺跡であることが判明し、稲山遺跡周辺では、縄文時代の拠点的集落である銚子原遺跡や、岡・銚子塚古墳が存在しており、該期の集落の存在等が推定されたが、周辺部の遺跡分布を見ても、中・近世の遺跡は数が少ない状況であり、稲山遺跡やその周辺の歴史環境を考える上で貴重な発見となった。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第272集

稲　山　遺　跡

山梨リニア実験線建設工事に伴う発掘調査報告書

印刷日　2011年（平成23）　年3月18日
発行日　2011年（平成23）　年3月25日
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
　　山梨県甲府市下曽根町923
　　TEL 055-266-3016
発　行　山梨県教育委員会
　　鉄道建設・運輸施設整備支援機構
印　刷　株式会社　峡南堂印刷所